

伝統音楽（民謡、わらべ唄、その他）

はじめに

一例であるが、今うたわれている「八木節」が、どのような過程を経てあみ出され、確立されたかを知る上に、今度の調査は、今まで意識してきた盆踊り唄の範疇を一步深めることができたようと思われる。

もちろん盆踊り唄だけではない、この地方の特徴として考えられ民謡では、唄引き唄、木挽唄、さまざまな木や唄などである。やはり山にかこまれた地域だけに、そうした山仕事に関する唄が多いことだ。その一つ一つの唄が、仕事の中でかかせない位置を持つていてある。

民謡とか、唄とかいうとにかく、娛樂的なものと一般的に考えられていいがちであるが、その一つ一つの唄が、それぞれの山仕事の中でかかせない位置をもつていてることがわかった。なにか突発的ないかただが、今盛んに考えられているミュージックセラピーが、こうした山仕事唄で無意識の中におこなわれていたように思われる。こんなに大事な位置を持つていてる唄も、現実の社会の中で、それら仕事が行われなくなつて来たことによって、唄も歌われず、これら山仕事唄の消滅を一層ハイテンポにしているようと考えられる。

本を川に入れるときの「ど入れ唄」は詞章のみ（これもあり信用できない文句）で、忘れられてしまい、歌つてもえなかつたことは樂譜に出きず、かえすがえすも残念なことだった。この唄が群馬県では、ごく少ない民謡だけに残念だった。

また、さ流し唄も本県では数少ないものであるが、曲そのものが草津

節（座敷唄）に似ていたり、福島県の炭坑節に似ていたりするが、この曲の音組織を調べて方向性を知る必要も音楽学的にみて欠かせない。また、木挽職人は、和歌山や福島（会津）、長野（木曾）橋本（那須）などの渡り職人がこの地方に来て山仕事をしていたことから、さ流し唄が、福島県の炭坑節に似ているのもこうした浮動性から来ているのかも知れない。

またこの地方の山仕事唄が、前述したような渡り職人の関係から、他県の山仕事唄と類似していること（他県のものとの比較では、日本民謡大観、福島、近畿編、関東編などを参考にしてみた）がわかった。

山にかこまれたこの地方では、馬を用いての仕事が多かつたようだが、他の山深いところに残る「追分節」などは全然なかった。ましてみると、細くわけわしい山道を、馬を谷間に落さぬようにするのが大変であったことと、この地方がいかにけわしい山であるかがうかがえる。今も馬を落とした深い谷の場所には、馬頭觀世音の石がたてられていてのが目立つ。また、石臼引き唄、もみをするときの、するす唄などは、ごくめずらしい唄である。当時使用された石臼はあちこちで、飛び石や、庭石にしてあるのを見かけたが、するすは見ることができなかつた。するすは、竹であんだ唐臼以前のすべてが木製でできているだけに古い、もみすり機であり、それにまつわる唄だけに音律もわらべ唄に似て単純ではあるが古いものであった。

そのほか、口説、祭文、伊勢音頭、角力甚句、あめ壳唄などあり、谷深いこの地方でなければみられない民謡が集中していた。

わらべ唄では、動植物に関するものでは、はたるとり、とんび、カラ

ス、などに關するものが多い、方言的にも、「ほおたろ」などと他地方にはない味があつたり、ほたるの入れ物が、ねぎの葉であるなども特徴がある。

遊び唄では、座りまりつき唄（糸まり唄）、立ってつくりつき唄、お手玉うた、鬼きめ、ぞうりかくし唄、けんかの唄など数多い。糸まり作りをするのに、山からせんまいの線をとってきてそれを芯にして作ったり、集団でつくお手玉うたなどもめずらしい。古くは、男の子も、女の子も坊と呼んで、ちゃんとか、さんと呼んでないのもおもしろい。仕事と結びついたわらべ唄では、子もり唄などがあげられる。石臼びき唄もわらべうたの中に属するのではないかと思われる。音律からみても、また石臼びき唄の内容的にも考えられるよう気がする。

歳時唄としては、道祖神の唄などがある。わらべ唄は子どものものと考える概念があるが、この地方の道祖神は大人の領域が強く、古い形を残している。現在は県下各地で、ほとんど鳥追い行事、道祖神行事などは子どものものになってきているが、古くはほとんどこれら歳時の歳時は大人的ものであった。

以上水上地方の民謡とわらべ唄をあげてみたが、楽譜にとれるものは採譜しておいた。これらの内で、郷土の伝統音楽で学習にいかせるものがあつたら、旋法も今後発展することが出来るような形になつてゐるから利用されたい。これらの中で、郷土の伝統音楽で学習にいかせるものでは、全域の調査は無理であった。九月中旬は萩原進氏と第二回の調査を行つたが、やはり水上全地域の調査はやりきれなかつた。今後いとまをみて水上に残るだいじな伝統音楽等調査してみる考え方である。（酒井正保）

一、民謡

石臼びき唄

雪が降つても、働ける者はほとんど山に出て働いた。石臼を引くのは老人と子どもだったという。子どもは赤んぼうを背におぶいながらよりと向い合つて二人でひいた。

石臼でひいたものは、きなこ、ひきわりなどだつた。石臼をひくだけで大変なのに、子どもを背負つて石臼をひくので、もりつ子おびが肩にめり込んで非常に痛んだ。石臼をころごろと回しながら、背におぶつている子どもがねないと、うるさくしたり背中であはれたりするので、早くねかせててしまおうと、石臼のころごろという音に合せて、このうたをうたつたものだといふ。曲は子もり唄にも似ている。

○「こんごろよし、こんごろよし。
（大芦）（楽譜1参照）

さ流し唄

さ流しをする人は、十四・五人が一群になつて、一つの山仕事を終ると次の山へと、渡世人であった。かつては、木曾福島、和歌山から渡職人として入つていて、若い者が多く「トビロ」一釘で大きな木を自由に動かした。谷から落す木が頭の上に落ちてきても、うしろに背をそらせそれらの木をよけてしまうような、身軽な若者が多かつた。はき物は、わらじか、石うらたびであった。トビロも、大トビと、小トビがあったがほとんど小トビを用いた。さ流しをする人たちの一つの群にもちゃんとした役がらがあつた。その役がらは六段階であった。

一、台所（こまづかいなどをする）

二、きじり役（きじり役人の下づかい）

三、きじり役人（木を流すダムが築ける人）

四、きばな役（きばな役の下づかい）

五、きばな役人（きばな仕事ができる人）

六、かいしょげ代（会社の代人）

以上であるが、かいしょげ代という役人は一番上の位置にいた。それは各組に一人ずついた、その人が会社に代人として上る（採用になる）。着る物では、台所では、はびでそめぬきのモンが大きい、きじり役人や、きばな役人はモンが背と前につくが、位が上になるにしたがって小さくしかも、金のしゅうでしてあった。

山に飯場といって住む小屋をつくり、屋根は杉の皮などでふき、家の中の真中には、渡り木といって一尺程の巾のあつい角木をしく、めしを食べるときには、それがおせんになる。ねて起きると、それを端にかたづけてしまう。真中にいろいろがある。

昼飯は「手伝ぼう」というのが、丸めんばに飯を入れて背負ってくる。さ流し仕事をする一群の中の下ばは、丸めんばの飯をくうが、きじり役人などになると、角めんばで飯はくう。おかげ入れも角めんばであった。朝めし夕めしは、飯場でなくにたき出してある飯を、めんばによそつてたべる、汁はめんばのふたによそつてたべる。

おかげは、個人個人でもつ、塩びきか、塩ますであつた。「小じょうや」というのがいて、それに食べ物を注文すると、すきなおかずを出してくれたので自由にくえた。しかし、さ流しをする渡世人の生活はまるで「こじき」のような生活だった、と当時を大芦の中島翠氏（六三才）は語っている。

さ流しは、材木を一本一本深い山から出すのは大変で、谷間を材木でせきとめ、材木の間に草や木の葉のついた枝を入れて、水をせき止めで、たくさんの水をそこに留める。その中に材木を入れて、水を一度に抜いて、流すのと同時に、材木を水に乗せて下に流してやるのである。これは、

古人の生活の知恵なのであろう。

さ流しには、二つのやり方がある。

イ 鉄砲流し。

なみなみと水がたまり、材木の入った闇にしがけをしておき、水を一度にどとはらい、材木を一齊に下に流す方法。

ロ 一本流し。

せき止めた水に材木を入れておき、水がたくさんたまつた頃、材木にとび口を開きさせし、一本一本材木を水に乗せて下へ流してやる。

さ流し唄。

○本やはやどがえよう

材木は下へな

あとに残るはよう

どんときわらじよ。

（大声）樂譜2

（平出）

綱子のさ流し唄

木挽仕事や、さ流しをする職人の群はたくさんあって、必ずしも同じ生活はしていない、もちろんそれぞれの渡世人の群には、それぞれの特色があった。ここ綱子のさ流しをする渡世人の一群をあげてみる。

深い山から、引き出してきた木は、川に流して流送する。しかし山から引き出した木をそのまますぐ川に入れるではなく、川岸の一か所に積む。しかも、六尺とか十二尺とかに、「たまつめ」である木を、「そまだ人」という係が、木の長さ別に分け更に、よい木、悪い木というふうに分けた。木が分け終ると、吉日を選んで酒を木にかけ参加しているさ流しをする者全体で酒を飲み況い、「ど入れ唄」を歌つて木を川に流す。

「ど入れ唄」の意味は、長い月日をかけて、山から苦労して無事に引き出し、てきの木を、ようやく「ど」に入れて流せるという意味の祝と喜びの唄である。

ど入れ唄

吾妻谷の実五郎さんといふ人が

藤原山に切り込んで

この日は

日もよいてんしやにち

今日ここでどいれして

この木が土ばへ

落したならば

元締め様の

およろこび

（綱子）この唄は、歌詞のみで演唱していただけなかったのが残念だった。こ

の唄は、かつて多野郡上野村で採集した「ど入れ唄」によく似ていた。

木を利根川に流すと、川岸にひつかかる木が出来ると、流れる木が一

部止つてしまふ、そこで「カモ」といて、ひの木の二間の長さのものを、数本藤つるでしらべ、巾は一間くらいにし、それに「トビ」を持つた者が二人来る。役の上の者が「カモ」の後に乗り、川岸に止っている

木を「トビ」に突きさしてよく流れるようになつた。

また「ドタ」といって、「カモ」の半分くらいの大きさのいかだ、一人乗りで、途中川岸に引っかかっている木を、トビを突きさしてよく流れ

るようになつた。

木を川に入れる場所はこの利根川岸には、数か所あった。奥では、八

木沢の日向から出した木を川に入れたところもあつたし、栗沢、綱

子などにもあつた。

木を川に入れる場所はこの利根川岸には、数か所あった。奥では、八

木沢の日向から出した木を川に入れたところもあつたし、栗沢、綱

子などにもあつた。

木を川に入れる場所はこの利根川岸には、数か所あった。奥では、八

木沢の日向から出した木を川に入れたところもあつたし、栗沢、綱

子などにもあつた。

木を川に入れる場所はこの利根川岸には、数か所あった。奥では、八

木沢の日向から出した木を川に入れたところもあつたし、栗沢、綱

このように、当時は陸送より流送の方が木を運ぶのに重要な位置を持っていたことは、確かである。「カモ」や「ドタ」に乗つて歌われた唄も相当あつたと思うが、その唄、さ流しをする職人が、仕事をしながら歌つた唄をあげてみる。これはさ流し唄といふより、さ流し職人の生活の唄である。

さ流し唄

アーキジリきばなに

たつなよとのご

ながし

かわいおぬしの

アーコリヤ、コリヤ。樂譜3

アーオビニヤ

短かしたすきにや

なたのひも

アーコリヤ、コリヤ。

この唄では、きじり役人は、川を流れる木が途中で岸にひつかつて

いるのを、よく流れるようになつし、きばな役人は、川のごみ、石、古木の

枝などが川にあって木がよく流れないのでそれをとりのぞく仕事をす

る。きじりも、きばなも重労働であった。

（綱子）

この唄では、きじりと、きばなは仕事の中間で、木が岸に

ちよつととまるのを、トビをつかつてスムーズに流れるようになつする仕事

で比較的、仕事の楽なところである。さ流し仕事をする者のせつじつな

生活感を歌つた唄である。

そこで、「中のべ」とは、きじりと、きばなは仕事の途中で木が岸に

ちよつととまるのを、トビをつかつてスムーズに流れるようになつする仕

事をする者は、腰にたたをさげているが、仕事の途中でトビのえが竹で

出きていくので比較的かけやすいが、いつかってしまうかわからない。

そのときには、腰にさげて「なた」がたよりになり大事なのだ、この

唄は、さ流しのみでなく、山で木を出しながらも歌われたと綱子の阿

部伝一郎氏（八十八才）は語る。

さ流しをするとき着たものは、「こぶなが」という「てっぱうばをり」を着た。雪の降る寒いときには「赤げつとう」という、今の毛布のようなものを半分おり、ひもを通して、てっぱうばをりの上に、マントのようないきなり役人（流れる材木の先のごみ石などをかたすけた）

を着た。雪の降る寒いときには「赤げつとう」という、今の毛布のよう

なもの半分おり、ひもを通して、てっぱうばをりの上に、マントの

ような風に着て仕事をした。それは、雪除けでもあり、寒さ除けでもあつたという。

さ流しをする職人の階級

（位の上の順）

1 総裁

山の元締め

2 山の元締め

3 そま代人（元締めの代人）

4 きじり役人（流れる材木の先のごみ石などをかたすけた）

5 きばな役人（川岸にひつかかる木をよく流れるようにする）

6 二番きばな（きばな役人を助ける役）

7 しょうや（組頭）

8 小じょうや（組のとりしまり）

9 かしき（めしたき）

○一番えらい人のいる所を会社といった。

木出し唄

この木遣唄は、山から一定の所に大木を引き出すときと、さ流しをするとき、谷間をせきとめた中に、材木を引張つくるときにうたわれる唄である。夜のあける頃、木を出す山に集まる、火たきじょうや、といふのがあって、そこに火をたきながら、今日の音頭とりはだれがやるかと目で知れる、目で知られた者はすぐ自分だなどわかりすぐ歌いはじめる。

音頭とりが決ったときの木遣唄

おれだ！（音頭とり）

（平出）

おーん（受け声）
このかけ声を数回くり返し、音頭取りを決定すると次は、いよいよ木

を引き出すところに出掛ける木遣唄に入る

木のところに行くときの木遣唄

おれだ！（音頭とり）

おーん（受け声）

おほほーい

おーん

おほほーん

サアはつたはつた

（平出） 楽譜 4
ハーハー木ばな役人
しつかりたのむぞ
おーんたのむぞよ
おーん
おほほーい
おほほーい

はつたいな

おーんはつたぞ

おほほーい

ホラにがすな

おーんにがすなよ

おほーほい

ほらにがすな

おーんおほほい

ほらにがすな

おーんおほほい

(半出) 楽譜5

重い大木を動かすのに、相手と一つ一つ会話ををして作業をするのはなく、すべて唄で仕事はすすめられていくのである。大木の「はな」に相方からとびを打ち、「はな」を持ち上げ下まくらとか、ぼうずを三本並べて「入れ木」とか、「重り」とか、「やぞう」をみつけて来いなども皆、木道でうたい作業を進めていくのである。

重い大木を動かすのであるから、相当体にこたえ疲労するのであらうが、このように仕事の律動に合った木道を歌いながら作業進めていくので、疲労度を少なくしたり、あるいは、解消していく木道唄は音楽療法的な労作唄なのである。

木出し唄

おれだあ
おおー オツベ
エハイ

おおさ
おおらさ
ひらきて
ほらきて

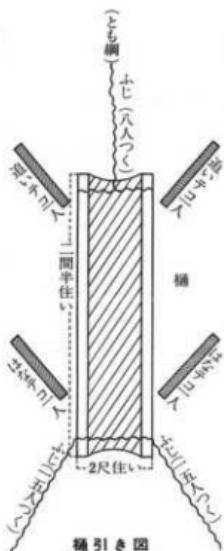
(大音) 楽譜6

桶引き唄

田に水を引くのに、谷間から桶で水を引いた、山で大木(ぶなの木)を切り、せるに「よき」で桶をつくる。その水を流す桶は大きく、子どもくらい流されたというから相当大きいもので、当時はロープもないのでも、真藤の十五、六メートルから三十メートルくらいのものをつけて引いた。

桶の「はな」の相方に二本つける、一本に十五人すつ藤を引く者がつくるといふから前で三十人、それに「はなてこ」といって、テコを持った者がはなの相方に一人すつつく、うしろには「追いテコ」がやはり相方に一人すつ計二人つく、更に桶の後に、真藤の十メートルくらいのをつけて、それに八人の者がついた。引き声がかかると、「テコ持ち」は桶の下にテコを入れてこじて動かした。桶を引いた場所は、一畝田、もろ、原などであった。そこを一畝田闇、もう闇といった。

区長が桶引きをする人々を、どこの部落では幾人というふうに命令して集めた。さ流などは特定の渡り職人の仕事であったが、桶引きは、その部落の共同作業であった。区長や、音頭をとる者が旗を持って行つ



た。

樋の長さは、長いものになると四キロにも及んだという。樋を引きはじめるとき、各所にそれぞれ人が付くと、区長の挨拶からはじまる。「怪我」をしないようにということと、「旗を持っている音頭とりに力を合わせろ」という意味のことが話されると、音頭とりが樋引き唄をはじめること。

樋引き唄

「エー今日の樋引きや

ホーンそだ

皆にたのむぞ

イエーンエート（引きこえ）

サアサ皆さまホーンソウダ

ドットたのむぞ

エーンエ

追いデコさんも

はなデコさんも

力をそろえて

（平出）樂譜7

木挽き唄

深い山の中で木を伐採したり、更にそれを「ヨキ」で用材としてつかえるようにならぬのが「木こり」であった。

木挽は主に薪だけではなく、建蔽等の用材を山でつくったが、やはり木挽も「よ

き」や「斧」を用いて用材もつくつたようである。

「木こり」が大きな木を倒し「たまづめる」とそれを木挽が製板する。

その仕方は、先ずたまづめた木の「顔」をみると、木を少しづつ回して、木の素性をたしかめる。木挽がこれが木の顔だと思うと、木を動かぬように、そのまま静止させ、「芯を出す」といって、木の切口の廻

からすみつぼの糸を張って印をつけ、目的とする用材に端で切りはじめ。木挽作業は遊びに特に力を入れるので、簡単に木挽唄を歌いながら作業するわけにはいかない。そこで木挽歌を一筋歌うと、しばらくの間のことで、メリコン、メリコントという音を立てて木をひき、また次の節に入っていた。しかも仕事の律動に合せて自由拍子でうたつた。谷に流れれる木挽の歌声と、歌のメリコン、メリコンという音は、深山の谷間を伝わって相当遠くまで聞こえたものだと、演唱者（平出の林一雄さん、六九才）はいう。

その頃、山の管理もきびしく、名主がしていた、一般の人はその山の木を自由に伐採することなどは許さなかつた。「なぜをき林」といって原始林と同じような状態の大きな木が立ち並んでいた。湯の倉の奥の中つて山などでは、直径一丈二尺もある木を製板したというから、当時は相當いい木があつたことがうかがえる。そうした大木を、鋼形の大きな轆で製板した。唄は自由拍子で、メリスマ（ゆれ）があり雄大な曲想をもつてゐる。

木挽き唄

「ハアー山けんさんだよ

木は大木でな

元じめはんじょとよ

ひきくずせな

サラソ、サラソ。

「ハアー木挽きや

さんの山にも住むがよ

木の実サア草の実

食べやせぬよ

サラソ、サラソ。

「ハアー木挽さんならよ

樂譜8

一人娘のよ

氣をそらすよ

サランコ、サランコ。

(平出)

ソレヒケ、ヤレヒケ。

(関ヶ原) 楽譜9

口 説

こびきさんなら

早よから起きて

にょうほめしたけ腹がすく

さらつと來い

さらつと來い

するすびき唄

(関ヶ原)

このするす唄は、珍らしい唄である。細からもみを金ごきでビリン、

ビリンとこき、それをほして、白でついて米にしてたべたのだが、白で
もみをつくのでは、能率的でないのでするすで玄米にした。

それすは、大きなけやけの根元を用い、もちつき白くらいの大きさで、
みがらを分離した。するすは二人で動かした。二本のひもを用い、する
すを中心にして二人で向き合ひ、二本のひもを交互に引いたりゆるめたり
しながらもみをすつた。

するすずりは重労働であり、唄を歌いながら疲労度を少なくしたので
ある。

するすびき唄

ごんごんするす

となりのよめごは

夜なべに一俵ひだした

ソレヒケ、ヤレヒケ

それに負けまいとつて

一俵米ひき出した

ソレヒケ、ヤレヒケ

ここ藤原地方でも口説は相当多くうたわれたという。それら口説を
語った土地の者も多かった。口説は当時の事件や、世間で人の集中する
事がらなどについて、それをこまごまと物語りにしかも叙情的につづつ
て歌った。その内容は「あわれみ」や「同情」というものが織り込まれ
た。主に乃木将軍とか、白井権八、国定忠治、鈴木もんなどなどはどの地
域にも共通に歌われた。しかし、新しい心中事件などあるとそれがすぐ
祭文や口説として歌われ、次から次と流行して行き、しかも祭文とちがつ
てその物語が口説として後々までながく歌われたのだ。

この口説が、盆踊り唄で歌われ更に八木節と移り變っていく過程をへ
ているのは興味深い。

鈴木主水

春は花さく青山へんの

鈴木もんどという侍は

女房持ちにて二人の子どもも

二人子どものあるその中を

ひ日毎日、女郎かいばかり

みるにみかねて、女房のおやス

ある日わが夫、もんどうさんよ

これそわが夫もんどうさんよ

二人子どもはだてには持てぬ (以下略)

(関ヶ原) 楽譜10

この口説は、まだまだ長くつづくが途中でやめておく。調形は誠にお
もしろく、七、七、七句調であり、はじめの七、七調の部分だけが曲として
反ぶくされているだけ最後まで至る。実に単じゅんの曲である。この
口説をただ語るだけでなく、地方によつては、延だけを加えて歌つたり、

大太こ一つだけ加えたり、酒樽を横にしてたたきながら歌つたりして、いる。それが盆踊りの古いリズムで打ちながら歌われ、踊りもついている。

一晩中踊るのには口説は文句が長いので好都合であったのだ。

盆踊り唄

この盆踊り唄は古いものである。関ヶ原では、盆橋は立てないで、学校の庭で行ったという。櫓を立てて踊ったところもあるという。この盆踊りは明治の末頃から大正にかけて行わされた。

音頭とりは、歌うだけで大タイコを打つ者は別にいた。
盆の十三日に、盆むかえをした帰りに歌っている場所に集まつて踊り、盆の三日間は夜の明けるまで踊りあかした。近村からも多くの青年が踊りに来たし、ロマンもあった。若衆などは、夜が更けてしまい近くの土手に少しねて帰つたりしたという。この歌の音頭とった人は、関ヶ原では、新潟から来た、作太郎といいう人であった。作太郎さんの家では店をしていて、若衆などが集まると、新潟では盆踊りに櫓をたてて踊るとか、新潟の歌や踊りなども、よく教えたり、話したりしていた。作太郎さんは実に美声であったという。

この盆踊り唄の踊りは手踊りで、実際に古い形を残している。(特に手をななめ下に向けて打つているなど)。これは現在歌われている八木節以前のものである。かつてはこのようゆつたりとした盆踊り唄であったのだ。

盆踊り唄

ハア盆だ盆ちゅうに踊らぬやつは

子でもはらんだか

しよさんでももしたか

(拍の手)
シツチャヨイ、シツチャヨイ

シツチャヨイナ

シツチャヨイばけつが十三銭

安いと思ったら底ぬけだ。

(関ヶ原) 楽譜 11

盆の十三日に
なぜ足袋はかぬ

はけばよごれる
洗えば切れる

今の若衆は
だてこくへこく

夜は夜ばいこく
朝ねこく

(拍の手)
すうとこ娘ちゃん、今晩は
はだかではい込む

ごめんなさい
アアシンチキドッコイシヨ

アアスットコドッコイ
スットコドッコイシヨ

音頭とりが、たまにまちがえたり、歌が出なかつたりしていると、踊り手の方が踊りながら次のような相の手を歌つて踊りをつづけ、音頭とりをその相の手でひやかす。

音頭とりやどうしたね
音頭とりや豆まきや

踊り子が豆まく
あゝスットコドッコイ
スットコドッコイシヨ

音頭とりやどうしたね
死んだか生きたか

ダッヂ(さた)がねえ
アアスットコドッコイ

スコットコドックインシヨ。

(関ケ原)

この種の盆踊り唄は新潟県でも歌われているのである。町田佳声氏が

木崎音頭（八木節）に至るまで、新潟の神保広大寺くづしの影響から
出たといっているが、一つの唄が「あみ出されて」いくまでは、さ
まざまな唄の要素が考えられ、新しい唄の出現以前にあつた地元の唄を
知る必要がある。

とに角この種の盆踊り唄は、新潟で歌われていたことはたしかである。

平出の林一雄（六十九才）さんは、平出で歌っているのと、新潟で歌っ
ている同じこの唄を、次のように歌つてくれた。（新潟の甚句によく似て
いる）

ハアー盆だ盆だちゅんに

なすの皮の

ぞう水だ

スコットコドックインシヨ。

ハアー盆だ盆だてがんに

なすの皮のぞう水だ

スコットコドックインシヨ。

同じ曲を小仁田でも行つてゐる、しかし小仁田では盆橋を立て行つ
(新潟県)

てある。櫓の仕様書等には、

櫓ノ構造仕様書

櫓ノ高サハ十三尺末口四寸ノ杉丸太ヲ七尺平方隔角ニ一尺五寸位地中
ヘ埋メ支柱トナス、地上六尺ノ個所ニ直径五寸ノ杉丸太ヲ構ヒ結ビ付
ケ其ノ上ニ二寸ノ厚板ヲ置キ繩ニテ結ビ付ケ支柱ニ太鼓を結ビ付ケ音
頭ヲ取ル

尚墜落子防ノ為四面ニ欄干ヲ設ク

豊年賀舉行許可願

一、責任者、住所、職業、氏名、年令

群馬県利根郡水上村大字小仁田二七一 青年会支部長

右同 小野 上一 二十三才

寺間二四〇ノ一 青年会支部長

高日向 青年会支部長

田村八十吉 石坂 又市 二十二才

川上五七一 青年会支部長

宇津木 茂 二十八才

二、挙行期日 期間及ビ時間

自昭和二十一年九月二十七日 自 十八時
至昭和二十一年九月二十八日 至二十三時

三、挙行場所

於小仁田地内篠岡公園広場

四、賞品及ビ寄附募集の有無

ナシ

五、警備の要領

六、櫓ノ仕様書
会員五名ヲ以テ一組トシ一時間交代ニテ場内ヲ整理ス



橋の仕様書ハ別紙ノ通り
右之通り豊年踊举行致シ度ク候ニ付御許可相成リ度タ比ノ段及ビ御

願候也

昭和二十一年九月十七日

右 小野 上一

石坂 又一

田村八十吉

宇津木茂平

沼田警察署長

警視善如寺勇殿

以上であるが、警察が目を光らせるので、夜おそくまで、盆踊りが出

きなかったことは、どの地域も同じであるが、それは他の諸芸能にもみられる。

小仁田の盆橋で特徴のあるのは、橋の頂上にとりつけた屋根である。

これはごく古い盆橋の様式をまねているのがおもしろい。より古くは、盆橋の頂上には、傘を用いているのがたてまえだが、その後各地で橋の上にさまざまなものを使いつけて屋根にしている。小仁田では、義蚕籠をとりつけている。義蚕が盛んなこの地域では、橋の屋根に義蚕籠を取つけたことは、うなづける。

「この水上地方では、橋を組まないで昔ながらのやり方で、広場などの中心で音頭とりが歌い、そのまわりを、幾重にも輪になって、手踊りをして、今群馬各地で盛に行われている、新しい八木節が入って来て花麗踊りやから傘踊りなどになつても、橋でなく行ったところもある。」
小仁田で歌われたこの種の盆踊り唄は、櫛と笛および鉦が入つており、曲のテンポも速くなつておらず、現在群馬県各地で行われている、八木節の直前のものといえるかもしれない。

盆踊り唄
だれか来たよだ

かきねの外へ
ないたスズ虫
音をとめたのは
かわいいあのこの
来たしるし。

盆の十三日に

踊らぬやつは

早くショソベンこいて

ねる(音)よ。

シヅチヨイ

おかしけりや

笑いな

おらが方じやこうだよ

コウリヤコリヤ

シツチヨイばけつが十三錢

安いと思つたら
そこぬけ。
(以上小仁田)

この古い盆踊り唄は明治の頃からあった。そして昭和三十年頃まで小仁田では行われた。この盆踊り唄で、今の八木節も踊れるが新しい八木節よりテンポがのろいのとにぎやかでないので、現在の新興の八木節をやることが多く、古い盆踊り唄はだんだん遠ざかってしまったという。

祭文

祭文語りは多く来た。土地の人でも祭文を語れた者もあつたが、今はほとんどないこと、ようやくのこと、平出でその一部を採集する

ことができた。

祭文語りは、ホラ貝と錫杖をもって人々を回つて来た。当時の事件などを読んだ。座敷に上ると、読む前にデロレン、デロレンとつける。デロレンというときは、口にホラ貝をつけて歌つた。デロレンが終ると、物語りをうたつた。

当時のニュースを運ぶ役目を祭文語りはした。瓦版の役目をしたのである。現に瓦版で歌詞を作つて有料でとったところも地方によつてはあるが、ここでではない。だから部落の人々は祭文語りが来ると、祭文語りに多くの者が耳をかたむけた。今新聞がわりをしたのだ。

平出で採集した祭文を次にあげる。これはほんの祭文の一部分でしかない。祭文を最終まで読んでもらえなかつたのが残念だ。

祭

文（座敷で）

デロン、デン、デン、デン、デン、

デン、デン

デレン、デレン、デン

（ほら貝を口から離す）

祭文とかくそのものじは

おんなすこしとかくそらな

祭文さまのそのひとこと

デレン、デーン。

飴亮り唄

飴亮りも多く来た。頭の上に丸いはん台をのせそれに簾を巻いてあり、竹についた飴や、小さいはたがさしてある。片手に小さいタイコを持ち、それをたたきながら、飴亮りは唄を歌つてきた。平出には大平洋戦争中頃まで白沢村の高平宿のはずれの人だというのかきた。

飴を多くかうと唄も多く歌つてくれた。湯原には沼田から、あさめというものが亮りにきた。

飴亮り唄

ハアーよかよか

飴屋にやなにがなる

ハアーさんぜん

世界のばかがなる

そのまま

かかあにや

だれがなる。

（平出）樂譜 13

伊勢参り唄

お伊勢参りには、酒杯で近親の者や、近所の者と別れ、伊勢参りにはながい時間をつかつて行つてきた。お伊勢参りの土産はやはり、伊勢参りの宿で覚えた、伊勢参り唄である。

この地方の伊勢参り唄は、新潟の人などが伊勢参りの途中ここに立ち寄つて歌われたものと、土地の人が覚えてきて、ここに伝承されたかは、わからないが、曲をみて「御木曳唄」の変化した道中唄ではないかと思われる。終りに「ヤートコセー」と歌つるのはやはり全国各地で歌われている伊勢音頭の共通するところである。

伊勢参り唄

お伊勢なあ

参りに

この子が出きた
お名をつけましょ

ヤンレ、伊勢松と
ササヤトコセー

ヨーイイヤナー。

（平出）樂譜 14

角力甚句

ここで歌われているのは、角力甚句である。越後の甚句は全国的に有名であるが、それは「越後ごぜ」が諸国を回り唄い広めたためである。甚句は日本民族に大きな領域を持ち、全国の民謡の六〇%くらいまでが、この甚句の性格をもつてしているは興味深い。ここで歌われている甚句は角力甚句で越後甚句系統のものである。

角力甚句は、角力とりが各地を巡業しながら、唄い歩いて広めたもので、角力甚句とし各地に残されているのと同じもので、系統的には、本調子甚句（二上り甚句）の系統に属するようだ。歌の内容からみると、ずっととくだけており、酒宴席で三味線に合せて陽気に歌う（騒ぎ甚句）ようである。

角力甚句

角力（すもう）にや

負けても

けがさいなけりや

晩にや私が
負けてやる。

そ の 他

春駒が旧二月になるとよく来て、女人人が馬の頭（藁で作ったもの）に鉛を付けたのを持って、家々を回って「サテソ、メデタイ、メデタイ………」などと唱えて踊った。お礼には、米や金であった。

また万才が正月に、三河から（へるへる万才）といふのが来た。この万才は、部落区長の家の泊ることが出きたので、たしかに位がよかつたのであろう。万才のお礼には、やはり米と金だった。夜、万才の泊った家に部落の者が大勢集つて、いろいろな芸をしてもらつて楽しんだ。また、「こぜ」が春先になると清水を越えて、越後からやって来た。親

（平出） 楽譜 15

はたる来い

はたる来い

かつては、はたるもたくさんいたという。はたるを取る用具は、うち

わや、庭先に生えているほうき草を用いた。

取った入れ物がびんや、ねぎの葉の中に入れ、はたるが光ると、ねぎの葉に青白く映えて、子どもがそれを、それそれ持つていてるので、それは美しかったという。麦藁ではたるかごをあんだのもあるが、それではよくにげられた。

ほたる来い

ほ、ほ、ほたる来い

あつちの水はにがいぞ

こつちの水はあまいぞ

ほ、ほ、ほたる来い。

（大声） 楽譜 16

ほたる来い

ほ、ほ、ほたる来い

かんねん来い

そつちの水はにげえぞ
こつちの水は甘めえぞ

方があり、三人連れが多かった。彼女たちが藤原に来る途中、ブノウ、一ノ食、シラカッバに小屋がそれぞれあり、そこに泊つた。

こちらに来てからは、決った宿はなかつたが、大穴では「マスヤ」という木質宿によく泊つたり、他の部落に来たときは、安い宿を利用していた。この人たちを世話する人もいたという。こぜの支度は、頭はいぢょう返し結び、三味線をもち、下駄ばきか、わらじをはいて来た。（大穴）

二、わらべ唄

ほ、ほ、ほたる来い
かんねん来い

(関ヶ原) 楽譜 17

とんび

山が高いので、とんびも平たん地を飛ぶのとちがいより高く飛んだと
いう。
秋から冬にかけては、新潟の方より多くとびも飛んで来て、山の上を
くるくるとゆっくり旋回した。そのとびが、山のどこかの木にでもとま
るかと思うが、とびはなかなかおりては来ない。

とんびとんび

羽根おろせ。

まりつき

ゴムまりが出ない頃、山からゼンマイのわたをとつて来て芯に入れ、
そのままに普通のきれいな本物の綿を入れ、程よい大きさにして、そ
のまわりに白糸をきれいにまき、更にその上に、五色の糸をむらでなく
ていねいにくくるくるとまく。作り上った糸まりで、近所の子どもたちと
五人くらいで丸く輪になつて、座って糸まりをつき合う。「一つのまりつ
き唄が終るまでつけないと次の人にまりはまわす。うたひながら唄が終
るまでまりがつけると、一貫相手に借したことになる。」

座りまりつき唄。

おんさか酒屋のおさかいちょう

花むらよ、じやまくよ、じやまくおばさんおしくだり、つずいて
駒さん
万之助、道にて字をかく

七ひ筆、一つ、二つ、三つ、四つ、五つ、六つ、七つ、八つ、九
つ、十、

ちょうど一貫借しました。

(大芦) 楽譜 19

立つてつくまりつき唄
村でよ程の家でないごむまりは持てなかつた。まりをかうには、水
上の帯刀から湯原の方にいってかつてきた。ごむまりは大事なもので、
どろの上でつくと、空気がぬけてペシャンコになつてしまふので、縁側
などの板の張つてあるところでついた。ごむまりは、糸まりの後に出て
きたといわれる。ごむまりをつきながらうたつた唄。

一つがんがらり

二つふくちの木

三つみかんの木

四つよい桜

五ついちょうの木

六つもくれんじ

七つなんてんじ

八つ八重ざくら

九つ小梅の木

十で、とつちんがら

こつちんがら、お腰にひと巻き

十三、七つ

これで一貫かしました。

(大芦) 楽譜 20

座りまりつき唄

ある高山しんでんの

まるやの駒ちゃんわざらつて

医者にかけよか、ほんびやくしょ

医者も、ほうしゃもわしやいらぬ

今日今晚死ぬならば
赤いたすきをねえさんに

バラ尾のセッタを母さんに

鉄砲なぎなた父さんに

雨の降る日もちやらちやらと
風の吹く日もちやらちやらと

下から上までちやらちやらと

立っているどうろく神を目ざして部落の者が集まる。
どうろく神だ

やーいやーい

(大芦) 楽譜 23

十からくたったおいらもやさん
おいもは一俵いくらです

二十五文にまけてやる、
ひい、ふう、みい、よう、いつ

むう、なな、やあ、ここ、とう

なぎなたぼうちょく出しがけて
ひつばを切られる八つ頭

ますを出し、ざるを出し

なぎなたぼうちょく出しがけて
ひつばを切られる八つ頭

ひつばを切られるとうのいも

これでますます

ちゅうど一貫かしました。

(関ヶ原) 楽譜 21

座りまりつき唄

あの山で光るのは

月かほうしかほうたるか

月なればおがみましよ (拍子二回入る)

ほたるなれば手にとる、(ここでもまりを手に取る)

手にとる (ここでもまりを手に取る)

これでますます

ちゅうど一貫かしました。

(関ヶ原) 楽譜 22

どうろく神の唄

大声では一月十四日の夜八時頃、どうろく神やきをする。その年やく年だった者が中心になって行う。昔はそのときお金を投げたが、五十年程前からお金のかわりに、みかんをまいてくれるようになつた。今でも少しはお金をまくという。

ねんねんお子もりや

ねんねん子もりはつらいもの

他の村や字の者とささいなことからけんかをする。相手の土地名の悪口、共有物などに、「一つ」けちをつけてお互のことばで、となり合い、悪口をあびせ合う。最後にどちらかが相手のいる方にせめて行き近ずいたところで、さんざんらしい合う。相手もがまんできず押し返してくる。この逃げてるときに次のうたをうたう

次郎、太郎

(大芦) 楽譜 24

子もり唄

この唄の演唱者、浜名マツさん(六四才)も小さいとき子もりに出たた

方で、子もりがいかにつらく、重労働でそして少女時代の過酷な人生通過儀礼のようなものだったといつている。

相手の家で生活し、家には帰ることを許されず子どもをこもる以外に、めしたき、清掃、洗たく、その他手伝いと、朝早くから、夜おそくまで過酷な仕事を強いられて生活した。つかれて、子どもをおぶつたままえ

んがわに寄りそつてねてしまったこともあったり、冬など子どものおむつはもちろん、家族の汚れものの洗たくなども毎日行ない、手がひびやあかぎれだらけだったといつた。そうした生活の中で、子どもをねかせながら子もりのつらい生活を子もり唄に織り込んで歌つた。

ねんねんお子もりや

ひとにはらくだと思われて

親にはしかられ、子にやなかられ

雨風吹けども宿はなし

人ののきばで日を暮す

ねろろん、ねろろん

ねんねこよ。

(関ヶ原) 楽譜 25

以上のような、暗い子もりの生活感情をうたつものもあれば、同じ
ねかせ唄でも、実にユーモラスなものもある。かつては放送文化も現在
のように発達もしてないし、見るもの、聞くもの変化もなく、せめて、
ユーモラスな唄の中に、子どもは喜びと安心感を覚えて、子もりの背で
ねむつたのであろうし、また、子もり自身もこうした唄が、心のいい
であったのか知れない。

ねんねのねこのけつに

ねんねのねこの穴に

かにがはい込んで

おつかさんがたまげて

お茶かけた

おとつあんがたまげて

きせる落した

はい込んだと思ったら

またい出した

ねんねるねんねろ

(関ヶ原)

また子もりが子どもを遊ばせるときについたつた次のような唄がある。
月のばん家の者は葉すぐりや、なわい、依あみ、みのつくり、わらじ、
雪ぐつ作りなど夜なべ仕事、家の中に子どもがいるとうるさいので、子

もりは戸外に出て、月を見ながら子どもを遊ばせるときについたつた。もち
ろん子もりばかりでない、老人や子どもうしでも歌つた。もち
ろん子もりばかりでない、老人や子どもうしでも歌つた。

お月さんいくつ

お月さん幾つ、十三、七つ

まだ年は若いな

若子を生んで、だれにだかしょ

お万はどういった

油かい茶かい

油やのみちで

のめって、すべって

ころがって

油一升こぼした

のうその油は

次郎どんの大と

太郎どんの大が

あととつちやひんなめ
かれとつちやひんなめ

みんなひんなめ

ものした

どらその犬は

次郎どんの子どもと

太郎どんの子どもは

太こにはつて

あつちのほうでもドンドコドン
こつちの方でもドンドコドン

皆んなぶつつわい
しまいもうした。

(関ヶ原)

カラスの唄

カラスなきが悪いと人が死ぬとか、なに事が起るなど、その地方によつてさまざまであるが、カラスは人家の近くに住み、そして人の生活の近くにいる鳥である。

子どもが遊んだあとに、カラスが降りて、子どもが食べすぐた物などをあさつたり、墓参りをすれば、墓にあげたダンゴをあさつたりする。里で屋間えさをあさり、夕暮西の山に帰るカラスに向つて、子どもがうたう唄である。

カラスカラスとんがらす
からす、からすとんがらす
にし（お前）がうちがやけるぞ
はやくいって水かけろ。
水がなきやあためかけろ。

（関ヶ原） 楽譜26

鬼きめ唄

鬼ごっここのとき、鬼を決めるのにジャンケンでなく、五、六人集まり、左手の親ゆびを出し合い次のような歌で鬼をはじめ二人きめる。一人の子どもがこの歌を歌いながら、出してある親指を一つ一つ突いていく。

お指かんじょかんじょ
おゆびかんじょかんじょ
おたまにたこたこ

鬼になるとて

腹たつやは
地ごくえんまの
もちかけねすと

そりやぬけしゃんせ。

（関ヶ原） 楽譜27

こうして二人の鬼をきめる。鬼からのがれた者はほつとした気持ちで、

ひとさら、ふたさら

残った二人の鬼同士で、こんどは一人鬼をきめる。やはりはじめと同じように、左手の親指を出し合い一人が次のよううたで一人の鬼を決める。

一本もひとつ

一本もひとつ

下さいふく、下さいふく

こしげのもんつき
じんびき、とうなら

ちやらら、ちらり

（関ヶ原） 楽譜28

このうたが、歌い終り一人の鬼が決ると、「ほら決めた」とみていた者全部が鬼をそこに置いて、思い思いの方向にかくれ場所をみつけ、くるもの子のように散る。鬼になった者は、逃げて行った者と反対の方をむき、目をつむって数えはじめる。

ぞうりかくし唄

敵人ぞうりを片方ずつ出して一列にならべ、次の唄を歌つて指をついていく。その唄が歌い終ったとき、自分のぞうりにさして、いた指がいければはいてよい、だんだん歌つてくうち最後に二人鬼を残す。

ぞうりかくし鬼きめ唄

ぞうりかくしかんねんばう
まねたに腰かけ

ずい棒がぬけたか

とくえむどん。

ここで二人の鬼が決る。しかしまたその二人の鬼を一人の鬼に決めねばならない。残った二人で、二人のぞうりを一人が指でつきながら、次のうたをうたつて、一人だけ鬼を決める。

ぞうりかくし一人の鬼きめ唄

（関ヶ原） 楽譜29

みさら、よさら

いつさら、むさら

ななさら、やさら

このさら、とさら

そらきめた。

(関ヶ原) 楽譜 30

唄が歌い終ると、最後に指をつかれなかつた者が鬼になる。その人のぞうりをみんなで持ちどこか、鬼にわからぬところにかくす。鬼は目をつむってうしろをむいて、かくし終るまで待つて。鬼でないものは、ぞうりがかくせると「ハイイイヨ」といつて鬼につけようと、鬼は夢中になつて自分のかくされたぞうりをさがしはじめる。鬼がぞうりよりはなれると、大勢の者は拍手をしながら「遠よつた、遠よつた」とはやしたて。反対にぞうりに近づくと「近よつた、近よつた」とはやしたて、みつかるとまたはじめと同じように、ぞうりかくしをはじめると。

別れるときの唄

一日子ども同しで遊び、夕やみがせまつてくる、遊びのテンボは一そく連くなる。いよいよ暗くなつて遊びもゲームもできなくなり、お互い自分の家に帰りはじめる。そのとき次の唄を歌い、お互い手で相手を打ち合ひ明日の遊びの約束でもするようにはしゃぐ。

夕方別れるときの唄

おみやげ一つに気がついた
姉さんと、母さんに

やっとく。

この歌の中に、「姉さんと母さん」とうたわれているが、二人でてくるので相手を二つ手で打つてよい。この部分に友だちの名前を入れたりして、打つ数を決めるのだ。

(関ヶ原) 楽譜 31

お手玉うた

お手玉はほとんど自分で作つた。あまり布をはぎ合せてつくる。中に小豆を入れる。あづきは特に手玉をしているとき、チャキ、チャキ、といふ音がするので、小豆で作ったお手玉を好んだ。小豆だけではなく、大豆や、トウモロコシを入れて作つた。

お手玉の上手な者は、お手玉を四つから、五つくらいかたといふから、ずい分技術的にすぐれていたのである。お手玉のやりはじめは、軒下などの壁に向つておこなつた、お手玉がみだれても壁にあたつて他に散らないためだ。

お手玉遊びは、お手玉唄をうたいながらおこない、その唄が最後までうたい終るまでできると相手に一貫借りることになり、借りた相手は返そと、同じうたをうたつておこなう。このようなお手玉遊びが普通のやり方である。

関ヶ原のお手玉うたは、数人で丸ぐるになつて、「さしここをしよう」といつて、だれか先にお手玉をはじめる。そのお手玉を落さず次の人には歌いながら、移してゆき最後に一ばんはじめ始めた人にお手玉がゆくまで行つたという。お手玉遊びの唄は次のようである。

相手にお手玉を移すときの唄

さしまんしょ、さしまんしょ

これからどなたにさしまんしょ

おいたや作りの、おこおし作りの

白かべどぞうの、あのいマサボに

さしまんしょ。

(関ヶ原) 楽譜 32

お手玉を受けとったときの唄

うけとつた受けとつた

これからどなたにさしまんしょ

おいたや作りの、おこおし作りの

白かべどぞうの、あのい光ちゃんに
さしまんしょ。

(関ヶ原) 楽譜32と同一曲
(酒井正保)

三、遊び

ばくち

賭博行為は犯罪とされていたから表向きにはやれなかつたが、実際はサイコロばくち、花札、ほう引きなど、いろいろの賭けごとが行われた。なかにはばくちで身を持ちくずしたものもいた。藤原山から木を伐り出して利根川へ流したときなど、荒くれ人夫が飯場やたまり場でよくいろいろのばくちが行われたものである。

大正八年頃まで赤城山に百姓ばくちがあり秋豆の取り入れがすんだ頃開かれた。水上からも参加した。百姓の支度で山に行く道具を持つて変装して行った。當時赤城山にはむしろが三枚ぐらしけるぐらいの平らなところがあり危い時は次の場所へと移動しながら素人の百姓ばかりで開いた。大体一箇所へ三時間位しかおらなかつた。専門の人が来ると逃げてしまつた。近くの女や子どもは栗拾いをよそおつて近づくと金をくれて追い払つたのでしきりと見に行くものであつた。戸鹿野のにいちきんという人が中心で行なつていて、さうころは三つ使つて勝負した。百姓の姿でまんじゅうや酒を売りに行くものもあつた。正月は老若男女がどこの部落でも行なつた。女は「ほうびき」とい、五つの紐の先に玉をつけそれを引きあてる事で勝とし、二回続けると倍ということであった。(小日向)

力石

十二山神社の入口に、十貫、二十四貫、二十八貫、二十二貫の石があつた。山口長次郎は、二十二貫の石を、わきの下にかかえ持つことができたといふ。(鹿野沢)

大正五、六年頃から營林署の訓練で始まつた。水上町、片品村が早かつた。六尺位の長いスキーヤーであつた。スタッフも六尺ツエといふ一本棒であつた。草津や谷川では營林署の訓練でやつた。民宿をやるようになつたのは、最近四、五年位である。スキーブームによつてである。(大穴)

武道

この村の中島藤助といふ人は、神道一心流をよくし、白堀辺から利根郡にかけて三六〇人もの弟子があつた。その人はよく「娘どりと親の葬式をなるべく大きくやろうとするようでなければ、その家は盛んにならぬ」と言つた。(栗沢)

青年の遊び

夕飯を食べてから川原から石を拾つてきて力競べをした。パンモチ(円い石)を持ち上げたものである。その位が楓葉であった。力くらべといえば、鹿野沢に二十人力といふ力持がいた。吉本のトビ職の人で、山でやきで臼などをつくつていたが、道具を木に打ちこんで山へ置いていた。それで五人かかつても、とることができなかつた。臼なども、片手に一つずつ軽々と持つた。(大穴)

宝川温泉に「土用の丑湯」があつて、川に針金を張つて吊り花火などをした。(青木沢)

子どもの遊び

ブランコ 自然の木や家のひさしを利用して、なわを下げたままのところに尻をのせてやる。きちんとしてしまるので落ちない。
おにごっこ じゃんけんぽんで鬼をきめてやる。
なわとび ひとりでやるものと、二人でまわすのを中に入つてやるものがある。まわす人は何かなわとびのうたをうたう。
あやとり 一人でやつたり、相手をみつけてやつたりする。
まりつき ゼンまいとりのときに出るかすのわたを中に入れ、まわり

を系で固めたまりでやった。

ナンゴ お手玉のこと

ブツケ なまりでつくった武者絵のかいてある四角の板をブツケ

て、相手のが返ると自分のものになる遊び、紙のものもある。

なわひき 八幡さまの庭に手頃なわを用意しておいて、村中の子どもたちが集まって引き合つた。

ギックンバッターン ジーノーのこと、ギックンバッターンともいつた。

竹馬 いろいろの遊びがあった。カケリコ、イッボーギックの力

ケリコ（一本足で一本は肩につけて競争した。）竹馬を合せてギチギチこすつて長く転ばない競争、などがその代表的なもの。

こま 年寄りや親につくてもらう。手でよじつてまわすものと、綱

をつけて投げてまわすものとの二種があり、長くまわしこなどをした。

水泳 まっばかり身になにもつけずに泳ぐのがふつうで、ほとんど

の子どもが泳いだ。イスカキのようなもので、ミズタグリといつてムダ

ルものもやつた。盆の十五日には泳ぐものでないといわれた。

鳥のワナ 麻ひもをなって手頃な枝をまげてわなをつくり、餌をと

ろうとするところと鳥の首をはさんでしまうものをかけて鳥をとる。

クルリ 鳥をとるのに篠をなめに立てかけて、クルリをつけた器具

をつくつて下に餌をつけ、これが落ちるとクルリがはたらいて篠やかご

が落ちて鳥をとれるようにしたもの。

ウサギノワ 空の通り道に針金の輪をつるしておき、そこに入つて首

がしまったのをとるしかけをする。

魚とり 藤原の魚とりはイワナとりで、ふつうはカマでとるといふ。

て釣る。

オキバリ わらわの長いものに、ところどころ針をつけ餌をつけて

川に放りこんで一夜おき、翌朝とりに行くと一、三四とれた。

ヨボリ カンチラでやすでとる。

雪のときの遊び 雪のときは外へ出られないで遊びが限られてくる。このときにブツケ、アヤトリ、ナンゴになり、家の中でナンゴをしたり、年寄りから昔話を聞くことになる。昔話は猿ムコの話などであつた。（須田貝）

ねくい 男の子の遊びで、一尺五寸（五十七センチ）くらいの木の棒を地面に打込み、他人の棒が倒せば勝ちであった。子どもたちはなるべく土のやわらかい場所を選んで行った。ただ相手の足につきさらぬようになした。

ねくいの次に、五寸くぎを利用して、ねくいをした。くぎでおこなつたねくいは、カチン、カチンとくぎの突きあたる音がしたり、火花が出たりして、はなばなし男の子の遊びである。

なまりぶつけ（めんこ） めんこと同じようにおこなつた。なまりにぶつけあって、相手のものがうら返しになれば、自分のものになる。

この遊びは、明治三十七年頃までおこなつた。

じょりとり遊び ソラリを空間に投げあげる。そのとき「オタネと

コタネのねる番だ」といって、落ちたぞらりが、ひっくりかえったのを、

家のうらや、のき下などにかくす。

かくされた者は、それをみつける。しかしながらみつかないので

おもしろい遊びである。（大穴）

1 石臼びき唄

ごんごろ よし ごんごろ よし
ごんごろ よし よ

2 さ流し唄

きやは やどかい よーーざいもが
したへなー あとえ のこるは
よーーー どんときれ わらじ よ

3 さ流し唄

A musical score for '3 さ流し唄' in G major. The music consists of four staves of music with lyrics written below them. The lyrics are:

ハア一きじり きばなー³
にたつなよとーのこ
のべにたちなよなかのべに

The score includes a tempo marking '3' above the third staff.

4 音頭とりの決ったときの木やり(その1)

A musical score for '音頭とりの決ったときの木やり(その1)' in G major. The music consists of three staves of music with lyrics written below them. The lyrics are:

おれだー おーん おれだー³
ー おーん おれだー³
おーん

木のところに行くときの木やり唄（その2）

The musical score is in G major (one sharp) and common time. It features four staves of music, each with a different vocal line. The lyrics are written below the notes in a Japanese-style font. The first staff starts with 'おれ だ ー' (ore da -), followed by 'おーん' (o-en). The second staff begins with 'おーん' (o-en). The third staff starts with 'それ だし て こ い' (sore dashi te co i). The fourth staff begins with 'それ こ い' (sore co i). The music consists of eighth and sixteenth notes, with various rests and dynamic markings.

5 しら出し唄

3

ハア きばな やくにん しつ
かりたの むぞ おーん たの
むぞよ おーん おほほい
さあはつた はつた はつたい な おーん
はつたぞ おん おほほい
ほらにがすな おーん にがすなよ
おほほい ほら にがすな
おーん おほほい ほら
にがすな おーん おほほい

6 木出し唄（木やり）

A musical score for '木出し唄' (木やり) in G clef. The lyrics are:

おれ だ 一 お 一 お
オッペ エ ヘイ お お オラ サイテ
ひけ 一 ほら さいて

7 檻ひき唄

A musical score for '檻ひき唄' in G clef. The lyrics are:

へエー きょう の とい ひきや ほー ん
そう だ みん な に たの む ぞ イエー ソン
エー ト さあ さ みな さ ま ほー ん
そう だ どつ と に たの む ぞ エー ソン
エー 一 おい で こ さんも はな で こ
さんも ちか ら を そろ え て エー ソン
エー ト

8 木やり唄

9 するすびき唄

A musical score for 'Yonabe ni Ie' featuring five staves of music with Japanese lyrics written below each staff. The music is in 2/4 time, G major, and consists of eighth and sixteenth note patterns.

ごん ごん する す となりの よめごは
よなべに一俵 ひきだしな ソレヒケ ヤレヒケ
それにまけまいとつて いつ 俵 ごめ
ひきだしな ヤレヒケ ソレヒケ

10 口 説(鈴木主水)

1 はるは一はなさくあをやまへん
2 にょうほ一もちにてふたりのこど
3 ひがな一まいにちじょろかいばか
4 ある日一わがつまもんどにむか
5 そなた一このごろみもちがわる

のすずき一もんどというさむの
もりふたりーことのもとのあるそばの
みるにーみかねてにょうほの
いこれぞーわががつまもんどうは
いふたりーこともはだてには

らいは
なかで
およす
さまよ
もたぬ(以下略)

11 盆踊り唄

ハア ほんだほんだちゅうにーお
どーらぬーやつーは子でも
はらんだかーしょきんでもしーし
たかしつちょいしつちょいしつちょいなしつちょいばけつが
じゅうさんせんやすいとおもつたらそこぬけだ

12 祭文

A musical score for '12 祭文' (12th Festival Prayer). The score consists of eight staves of music with lyrics written below each staff. The lyrics are:

テロン テン テン テン
デン テン テン テレ
レン テレ レン テン
さいもんとかくそのもじはー^一
おんなすこしとかくそうなさいもん
さまのそのひとつことテレ
レン テン

13 あめうり唄

A musical score for 'ameうり唄' (Ame Uri Utai). The music is written in five staves using a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The tempo is indicated by a 'Moderato' marking. The lyrics are written below each staff, corresponding to the notes. The lyrics are:

ハア 一 よ か よ か 一 あめ や 一 に ゃ
一 な に 一 が な る ハア
さん せん 一 せ か い の ば か 一 が な
る そ の ま た か か あ
に ゃ だ れ 一 が な る

14 伊勢音頭

おいせ な ま い い りー にー^一
この 一 子 が 一 で き 一 た
おな 一 を つ け 一 まーしょう
やんれ いせ ま つ 一 と ささや 一
とこせ 一え 一 よ い や な 一

15 角力甚句

ハア 一 す もう に や ま け 一 て 一 も
け が さ い な 一 け り ゃ ばん に や
わ た 一 し が ま け て や 一 る

16 ほたろ来い

A musical score for three voices. The top voice starts with a dotted half note followed by eighth notes. The middle voice has eighth notes. The bottom voice has eighth notes. The lyrics are: ほほほたろこいあつちの、みずはにがいぞこつちの、みずはあまいぞほほ、ほたろこい。 The music ends with a double bar line.

17 ほたる来い

A musical score for three voices. The top voice starts with a dotted half note followed by eighth notes. The middle voice has eighth notes. The bottom voice has eighth notes. The lyrics are: ほほほたるこいかんねん、こいそつちのみずはにげえ、ぞこつちのみずはあめえ、ぞほほほたるこい、かんねんこい。 The music ends with a double bar line.

18 とんびとんび

とんび とんび はねおろせ

19 座りまりつき唄

おんさかさかやの おさかい ちょう
はなむら よ じやまく よ
じやまく おじさん おしくだり
つづいて こまさん まんのすけ
みちにて じをかく ななひーふで
ひとつ ふたつ みつつ よつつ
いつつ むつ ななつ やつつ
ここにつとう ちょうど いつかん
かしまし た

20 立ってつくりつき唄

ひとつがんがらり
ふたつふくちの木
み一つみかんの木
よ一つよいざくら
いつついちょうの木
む一つもくれんじ
ななつなんてんじ
や一つ八重ざくら
こここのつこうめのき
とーでとっちゃんがら こっちゃんから おこしに
ひとまきじゅーさんななつ
これでいつかんかし まし
た

21 座りまりつき唄



あるたかやましんせんの



まるやのこまちゃんわづらつて

いしやにかけよかほんびょくしょ

いしやもほうしゃもわしゃいらぬ

こんにちこんばんしぬならば

あーかいたすきをねえさんに

ばらおのセッタをかあさんに

てつぼうなぎなたとうさんに

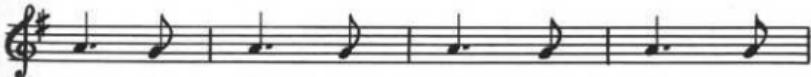
ああめのふる日もちゃらちゃらと

かあぜのふく日もちゃらちゃらと

したからかみまでちゃらちゃらと



ひいふうみいよう



い一つむ一ななや一

こ こ と とう から く だつた
おいもや さん おいもは い 一 し ょう
いくらで す に じゅう ごもんに
まけて やる ますを だ し
ざるを だ し なぎなた ほ う ちよ う
だしきか て あひつま は 一 き き られ る
やうが し い ら こ こ で ま ず ま ず
と う の い つ 貰 か し ま し た

22 座りまりつき唄

あ の や ま で 一 ひ か る の は
 つ き か ほ う し か ほ う た 一 る か
 つ き な 一 れ ば お が み ま しょ (拍子)
 (拍子) ほ た る な 一 れ ば て に と 一
 る て 一 に 一 と る こ れ で
 ま ず ま ず ち ょ う ど い つ か ん か し ま し
 た

23 どうろく神の唄

ど う ろ く じ ん だ ゃ 一 い ゃ い

24 けんかの唄

Musical notation for 'けんかの唄' in G major. The lyrics are: 次郎 太郎 まんがじ ろう.

25 子もり唄

Musical notation for '子もり唄' in G major. The lyrics are:

ねんねんこもりは つらいもの ひとにはらくだと
おもわれて おやにはしかられ、子にやなかれ
あめかぜふけども やどはなし ひとののきばでひを
くらす ねんねろ ねんねろ ねんねろよ

26 からすからすかんがらす

A musical score for a children's song. It consists of four staves of music in G major (indicated by a sharp sign) and common time. The lyrics are written below each staff. The melody is simple, featuring mostly quarter notes and eighth notes.

からす からす かんがらす
にしがうちがやけるぞ
はやくいってみずかけろ
みずがなきやーためかけろ

27 おゆびかんじょかんじょ

A musical score for a children's song. It consists of four staves of music in G major (indicated by a sharp sign) and common time. The lyrics are written below each staff. The melody features eighth notes and sixteenth notes.

おゆび かんじょ かんじょ おたまに たこたこ
おにになるとてはらたつや一つは
じごくえんまのもちかけぬす
とそりやぬけしゃんせ

28 一本もひとつ

いつほん もひとつ ずいふく ざいふく
こしげの もんつき じんびき とうなら
ちやらら ちらり

29 ぞうりかくし鬼きめ唄

ぞうり かくし かんねん ぼう
まねたに こしきかけ ずいばが ずいばが
ぬけたかとくえむ どん

30 ぞうりかくし1人の鬼きめ唄

ひとさら ふたさら みさら よさら
いつさら むさら ななさら やさら
ここなさら ときら そらぬ 一けた

31 夕方別れるときの唄

おみやげ ひとつに きがついた
ねえさんと かあさんに やつとく れ

32 お手玉唄(相手に渡すとき、受取るとき)

さうしけまとんつしょうたさうしけまとんつしょうた
ここれれかかららどななたたににさきししままんしようしよう
おおいいたたややづづくくりりののおおこおおしごくくりりのの
ししろろかかべべづどくそりうののああのいいまみそっちゃんにに
ささししまま二んしよう

水上町の民家

はじめに

町内でこのたび調査した各家は第一表に掲げた如く、三十五棟におよび二年かかりで行った大調査であった。滅びゆく文化財とも言われる古民家を、このように一町内で大量に調査し記録した例は、この民俗調査始まって以来のことである。

荒木茂氏には暑い中を連日案内してもらひ、また多忙な時期に家の隅々まで開放して、快く調査させてもらった各家に心より深謝する次第である。(桑原 稔)

一、調査遺構について

当地方の民家は地理的な制約から屋敷面積は狭少で、一般に母屋の南側に穀類の干場として使用するための幾つかの空地を有するだけで納屋はみられない。物置の場は母屋の軒下を利用している例が多く、現在では「トボー」が物置化している家が多数あった。また「トボー」に床板が張られ、時には畳まで敷詰められて居室としての体裁を備えている家も多數見受けられたが、この場合表側の柱には必ずといってよいほど低い位置に鴨居のあった柄穴が対応して残っており、以前はここが出入口であつたと認められたものが大多数であった。従つて現在「トマノデ」と呼ばれている室は、かつてそのほとんどが「トボー」であったわけである。

第1表 地域別による調査民家の棟数

| 地名 | 調査民家の所有者 | 棟数 |
|-----|-------------------|----|
| 寺間 | 高柳嘉市・山田今朝吉 | |
| 川上 | 小仁田 鈴木正・鈴木弘司・田村一三 | 2 |
| 小日向 | 鈴木千寿・水上館・田中行雄 | 3 |
| 湯原 | 鈴木秀平太 | 3 |
| 龜野沢 | 荒木叶・荒木兼次郎 | 2 |
| 阿能川 | 小野広寿・須藤芳尚・須田しげり | 3 |
| 谷川 | 田村經三郎 | 1 |
| 大穴 | 林時雄・阿部正一 | 2 |
| 幸知 | 阿部善美次 | 1 |
| 綱子 | 内山義雄・真庭三郎 | 2 |
| 向山 | 中島康次 | 1 |
| 栗沢 | 阿部和六・阿部貞 | 2 |
| 平出 | 林今朝吉・林弘 | 2 |
| 青木沢 | 林栄樹 | 1 |
| 藤原 | 林三千夫 | 1 |
| 中区原 | 吉野鉄藏 | 1 |
| 須田貝 | 中島寿 | 1 |
| 山口 | 雲越仙太郎 | 1 |
| 大芦 | 中島貞一 | 1 |
| 合計 | | 35 |

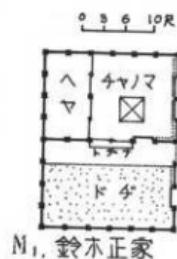
屋敷の周囲には平野部で見られるような屋敷林の類はほとんど存しない。外観は兜屋根が特徴的であるが、古い遺構では平野部の民家形式と同様に軒の低い寄棟となる。

第二表は調査を実施したものの中二十八棟について、平面および細部形式を分類し編年したものである。これらのうちで記録や聞き取りなどによって建築年代の判明したものは十一棟 M_1 ・ M_2 ・ M_3 ・ M_4 ・ M_5 ・ M_{12} ・ M_{13} ・ M_{14} であり、建築年代のはば推定できるものが三棟 $(M_2 \cdot M_4 \cdot M_5)$ であった。だが、残り十四棟は全く不明であった。しかし、このたびの調査は幸にして建築年代の判明あるいは推定できた遺構が非常に多く、十四棟（五割）にもおよんだ。そこで建築年代の不明な遺構は建築年代の判明あるいは推定できた遺構を有力な手掛りとして、形式や細部手法を比較し編年の指標となるものを求め、これらによって全体の編年系列をつくった。そして、最後に建築年代の不明な遺構についても一応建築年代を推定しておいたのである。こうして分類された遺構は平面における室数から次の五つに大別される。

- 1 二間取型
- 2 三間取型
- 3 四間取型
- 4 五間取型
- 5 六間取型

一、二間取型の民家

小仁田の鈴木正家の納屋 (M_1) は約二十年位前まで住居として使用されていたものであり、この建築は建築当初から住居としてつくれたものである。梁行三間、桁行四間、建坪十二坪の極めて小規模な民家であるが、表側に「イロリ」を設けた「チャノマ」を配し、裏側には「チャノマ」の巾いっぱいにとられた奥行一間の「ヘヤ」がある（第一図）。こ



第1図 二間取型復原図

「デー」が付設されれば、この地域に普遍的な間取ができる上からである。なお、この辺では「ヘヤ」の巾が第一図のように「チャノマ」巾いっぱいにとられる場合と、「チャノマ」巾の半分にとられる場合の二形式が混在して見受けられるので、後者の形式の溯源的な平面形式を求めるところだ。第一図において「ヘヤ」の巾が「チャノマ」巾の半分になつたものではないかと類推されるところである。

二間取型の遺構は鈴木正家 (M_1) の他に発見することができなかつたが、鈴木正家 (M_1) の遺構は民家の発展史を考える上で、貴重な存在となることであろう。

三、三間取型の民家

第二表において二十八棟のうち十一棟がこの形式に属し、約四割近い民家が三間取型の平面形式を表わしていることになる。そして、町内全域に広く分布するが、特に北部に多く存在するようである。その中で最も古い様式を示しているのが阿部喜美次家 (M_2) と阿部正一家 (M_3) の二棟である。

阿部喜美次家では、おじいさんの幼い頃は明り障子は三枚しかなく、非常に薄暗い室内であったということである。なるほど、復原図を画いてみると「デー」に一枚、「チャノマ」に一枚明り障子が嵌め込まれるだ

けで、建物の推定建築年代は一九世紀初期の頃と思われ、比較的新しいものであるが、發達史的に考察すると、極めて古い形式を伝えているものと考えられる。なぜなら、これに「トボ」と

けである。「デー」や「チャノマ」には未だ「トコ」が設けられておらず、また「エンガワ」もなく、極く質素な室内であった。このような古い三間取型構では、「ヘヤ」の出入口は五寸六寸位の背の角材を置いて「帳台構え」を構成している。「チャノマ」と「ドヂ」境は建具が嵌め込まれておらず開放されているので、この両者は機能的に結び付きが強かつたことを示している。「ナガシ」は表側の「トボーグチ」と「チャノマ」間に設けられている。一般に表側は南に面しているので、ナガシも南面して設けられることになり、雪国であるため冬の食事準備に日光を受けながら少しでも暖かく仕事ができるよう考慮されている様子が窺われる。

「トボーグチ」を入れると外壁より約半間ほど離れた「チャノマ」寄りに「カマ柱」がある。カマ柱は「ナガシ」の近くに位置し、昔はどの家もこの柱の近くに「カマド」が据えられていたという古の話であった。阿部喜美次家はおよそ十八世紀初期頃の建築と推定され、水上町では最も古い貴重な民家遺構である。また、阿部正一家も細部手法やその他の特徴が阿部喜美次家と全く同様なところから同時期の建築であろうと推定されるが、現在は空家となっているため破損がひどく倒壊寸前の姿であった。

中島庫次家(M₁)も以上の二つの遺構と同様な特徴を数多く示す古い民家である。しかし、前記の二遺構よりも幾分新しい特徴を持っているところが特に注目される。それは「ナガシ」の前面に開口部を設けていることであり、また、「チャノマ」の奥の凸部に「トコ」を設けていることである。中島庫次家に見られたこれらの新しい特徴は、以後の民家にはどれにも設けられて普遍的なものとなつて行つたことが窺われる。

中島庫次家の建築年代は18世紀中頃と推定され、阿部喜美次家に次ぐ貴重な民家遺構である。また、この頃の民家の屋根は寄棟であった。阿部和六家(M₂)はさらに新しい特徴を持っているのが窺われる。例えば「デー」に「トコ」「押入」「書院」が付き「エンガワ」も設けられている。さらに「チャノマ」と「ドヂ」境には建具が入つて、両者はしつ

かりと区画されるようになる。これは「チャノマ」が「ドヂ」との空間的つながりを断ち切つて一応独立した空間として意識されるようになつたことを意味しているものと思われる。すなわち、「チャノマ」がより居住的機能を要求してきた結果によるものであろう。

阿部和六家には大工人高之覚帳(寶政九年八月吉日)が残つており、当家の建築年代が判明した。また、御移徒覚帳(天保十年十月)と家根替移徒帳(明治四十二年)も残つており、建築後少くとも二回の家根替が行なわれていることも明らかとなつた。従つて、当家は建築以来一七年の風雪に耐えて来た比較的古い民家であるが、当時農民には禁令とされていた書院が設けられていることなどによつて、名主等の家柄であつたのではないかと想像される。なお、当家の屋根は現在両妻側とも「兜造り」になつてゐるが、以前は「ドヂ」の方だけが兜屋根であったといふ話である。

林今朝吉家(M₄)・中島貞一家(M₅)・林三千夫家(M₆)・林時雄家(M₇)はいずれも十九世紀初期、あるいは中期頃の建築と思われる遺構であるが、林今朝吉家は寄棟であり、「デー」の「エンガワ」寄りの柱間に建具を嵌め込むように造作されていない。また、「デー」の裏側も「トコ」や「押入」の造作が行なわれていない。また、当家では「チャノマ」の表側開口部の中間に立つ柱を省略しているのがこれまでのものと異なるところである。

中島貞一家は「デー」の方の屋根は寄棟であり、「ドヂ」の方は兜屋根になっている。

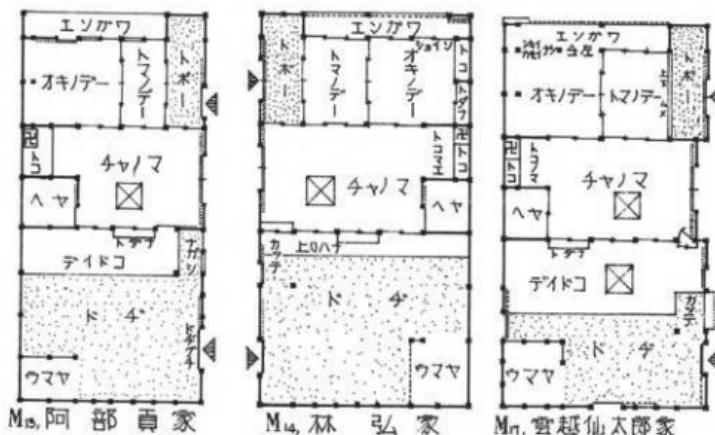
林三千夫家・林時雄家の屋根は両妻とも兜屋根になつてゐる。以上のことから、今日この地方に特徴的に多くみられる兜造屋根の形式は、十八世紀の後期頃まで「ドヂ」側の妻屋根に設けられ、十九世紀中頃には両妻の兜造屋根が一般化していたものと推察される。

水上館(M₈)や吉野銀蔵家(M₉)は最も新しい年代の三間取型を代表する遺構であつて、建築年代は一九世紀後期頃のものである。この期の



第2図 三間取型復原図

0 3 6 10尺



第3図 四間取型復原図(ヘヤ巾がチャノマ巾の二倍の型)

示す特徴は差鶴居の使用と柱の省略が目立つことである。また、「ドヂ」には板の間が大きく張り出して、ここを「ディードコ」と呼び、ここにも「いろり」が設けられるようになることがある。「ウマヤ」は一九世紀中頃になると裏側へ後退するものが現われるが、この期のものになると軽く裏側へ後退し、表側の採光条件の良いところを作業空間として有効に使用することに成功している。

四、四間取型の民家

一、ヘヤ巾がチャノマ巾の半分の型

この型は第三図に示すような間取の民家を言う。水上町全地域に広く分布するが、鹿野沢・阿能川以南になると、少なくなつて後記の型の民家や三間取型と混在する。

この型は三間取型において、「トボー」と「デー」の間に奥行一間から一間半の室が設けられたもので、「トボー」に接する室を「トマノデー」と呼び、その奥室を「オキノデー」と称する。

阿部貞家(M₁₃)はこの型の初期の造構と推定されるもので、「オキノデー」には「トコ」や「押入」も設けられておらず、「トマノデー」の奥行は室を構成する単位として最少の一間であるところに、その発生的特色がある。このように奥行一間の「トマノデー」を有する民家は、四間取型の初期の造構と考えられ、年代的には一九世紀初期頃に建築されたものが多い。

四間取型の民家で最も多く見受けられるのは、「トマノデー」の奥行が一間半のものである。この型は発達史的に考察すると前述した奥行一間の「トマノデー」を有する民家より新しいわけであり、実際に建築された年代も一九世紀中期から後期のものに限られているようである。

雲越仙太郎家(M₁₄)は家作諸入賃記帳(明治十九年十月)・家作職人

御当扣帳(同十一月)・家作足記帳(同二十年二月)が保存されており、明治十九年から同二十年にかけて建築されたものであることが判明するが、「オキノデー」は前記の林今朝吉家と同様に居住できるように造作されていない。ここは現在穀類等の貯蔵所兼物置として使用される。

二、ヘヤ巾がチャノマ巾いっぱいに及ぶ型

この型は第四図に見られるように、「ヘヤ」の巾が「チャノマ」の巾とは全く発見できなかつた。

この型の主な分布地域は、水上町より南部の沼田を中心とする地方であるので、この南部の民家形式が水上町南部に浸透して来た結果、水上町南部に限つてみられるいわば外來の民家形式と言ふことができる。

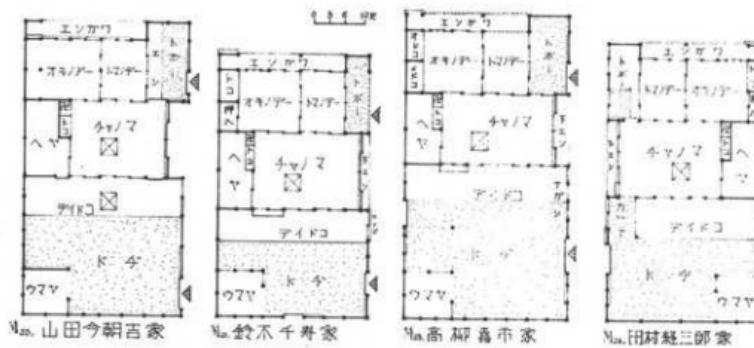
水上町南部にみられるこの型の「トマノデー」の奥行は統べて一間半であり、建築年代は一九世紀中期以降のものに限られる。従つて、この型が水上町に大量に浸透して来た時期は幕末の頃と推察される。

五、五間取型の民家

この型は第五図にみられるように「ドヂ」の方に寝室である「ヘヤ」が一室突出したものである。従つて「ディードコ」も大きく張り出すことになつていて、いずれも二間以上の巾を有している。そのため「ドヂ」の面積はその分だけ狭少になつていている。

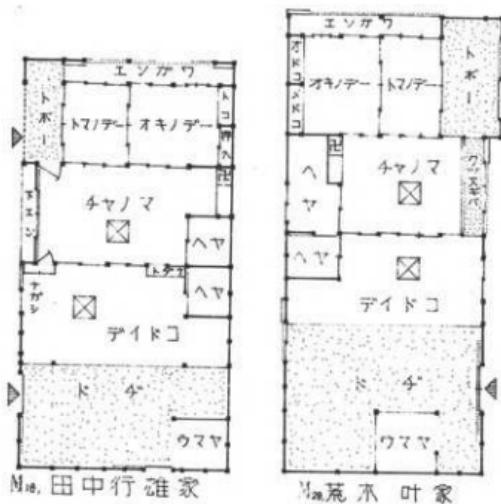
このような型も、四間取型でみられたように「チャノマ」の奥の「ヘヤ」巾が「チャノマ」の巾全体に及ぶものと、その半分のものとの二種類においてみられた。そして、時には、荒木叶家(M₂₈)のように「チャノマ」にも出入口が設けられているものがあつて、ここを「タツヌギバ」と呼んでいる。

大きく張り出した「ディードコ」の中央には「イロリ」が切つてあり、



第4図 四間取型復原図（ヘヤ巾がチャノマ巾いっぱいに及ぶ型）

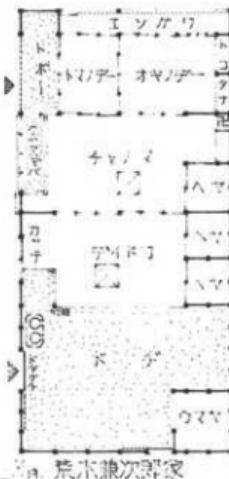
「ドヂ」との境にはもちろん建具など嵌め込まれていない。ちょうど三間取型の古い遺構にみられた「チャノマ」と「ドヂ」の関係のように、この型の「ディドコ」と「ドヂ」はオープントイリに結ばれており、機能的なつながりが極めて緊密である。この型は、文化の進展の比較的早いと思われる水上町南部の地域だけに限って見受けられたものであるが、建築年代は一九世紀後期から二十世紀初期に属するものである。



第5図 五間取の民家

六、六間取型の民家

この型は第六図のよう、「ディドコ」の裏側に寝室である「ベヤ」が二室並んで設けられているものであり、合計三室の「ベヤ」を有するものである。また、「チャノマ」の南には「タツメギバ」を設けている。この型の民家も水上町南部の地域だけに見られるものであり、この地方の民家では最も進んだ新しい形式であると言える。第六図の荒木兼次郎邸は明治三十四年の建築であるが、三つの「ベヤ」の入口には高さ六寸五分の立派な帳台構えを設けている。



第6図 六間取の屋家

古い家では、「ドヂ」内に上屋柱（大側柱）が多数現われるが、建築年代の新しい家では上屋柱の省略が目立ち、一九世纪中頃には「ドヂ」内に上屋柱が全く見られない。遺構も出現する。しかし、多くの場合「カマ柱」だけは、残されており「ドヂガチ」を入るとすぐ鼻先にたつていて、「カマ柱」には「カマ神様」が祀られている。また、古い遺構では開

七、柱について

この地方の民家調査をしていると、先ず、うちには「シンシ造り」といいう造りであると聞かされる。しかし、具体的にどのような造りのことを指すのかと尋ねると、その答は全く返つてこない。この民俗調査の調査員でもある都丸十九一氏のご教示によると、「シンシ」は「伸子」と書いて、これは布を洗い張りする時使う竹製の棒のこと。これを布の両耳間にわたして張りのばす。この時の棒の恰好は円弧の形をなして凸形となれる。「シンシ」というのはここからきているのではないかといふ。なるほど、この地方の民家における「チャノマ」は吹き抜けとなつていて、鴨居より上方は四周に高く土壁をめぐらすので、布を洗い張りする時の「伸子」の恰好と似ているところがあり、あるいはこのようなどころから生じた呼び名であるかも知れない。

ハシンシ造について

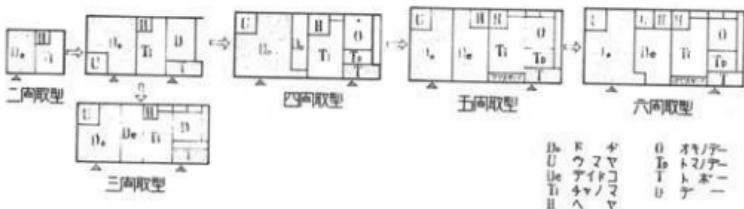
「チナノマ」と「ドヂ」境に立つ柱はどれも同様で四〇四・五寸位のものが多いたが、一九世紀後期以後の造構になると六〇八寸近い柱が使用されるようになる。しかし、やはりこの通りに立つ柱は皆同様で特に太い柱は存在しない。従つて、大黒柱に相当するような柱は存在しないし、また、そのように呼ばれている柱もないということであった。だが、この通りの柱で「いろいろ」に最も近い柱を「荒神柱」と呼んでおり、柱の上部に荒神様を祀っている家が多數あつた。そして、この柱（荒神様）にはゴヘイを三本祀り、カマ柱（カマ神様）にはゴヘイを一本祀るといふことであつた。

九、おわりに

町内の民家は平面形式を中心に区分すると二間取型から六間取型の五つの型に分類され、その発展過程を模式図に示すと第七圖のようになる。この他に南島の地域に限って、「ヘヤ」の巾が「チャノマ」の巾いっぽいに及んだ四間取型や五間取型の遺構が見受けられたが、このような民家形式は沼田市を中心とする地方にみられる普遍的な間取であり、しかもこの地方には、これらよりはるかに建築年代の遡った三間取型の遺構も多數みられた。故に水上町南部にみられる「ヘヤ」の巾が「チャノマ」巾いっぽいに及ぶ四間取や五間取型の遺構は、この地方より南部の形式が幕末の頃当地に急激に浸透して來たために生じた形式とみることができる。

前橋方面から北上して沼田市に入ると、ちらほら見受けられる両妻兜造の屋根形式は、水上町に入ると全く兜造屋根一色となってしまう。しかし、このような兜造の屋根形式は一九世紀中頃以後において一般化されたもので比較的新しい屋根形式であると言える。そして、この地方でも、一八世紀中頃まで満て古い民家では、寄棟造の屋根となり、平野部にみられる民家の屋根形式と何ら異なるところがなかったことも判明した。

水上町、特に藤原地方は県下随一の雪国といわれている。このような地方に寄棟造の屋根形式が定着するはずがない。それは、軒が四周に低く下がるため冬の採光に全く不適であるからに他ならない。人々の知恵は冬季の採光に向けられるのは当然のことであろう。このような結果出現したのが寄棟造の妻側を切落した恰好の兜造屋根であろう。それも、当初は「ドチ」側だけに兜造屋根が設けられた(M_s・M_tなど)がこれに相当する。それはまず、「ドチ」が冬期中の仕事場として、採光の必要性を要求したためと思われる。



第7図 水上町民家の発展模式図

当地方の民家の有する他にみられないところの顯著な特徴は、「ヘヤ」の出入口にどれも「帳台構え」を有していることであり、二十世纪初頭に至る民家にも然然として設けられていることである(M₁)。一般に「帳台構え」は古い様式とされ、近世初期にまで溯る遺構でなければみられないと言わっているめずらしい設備である。

また、平面形式における特徴は「チャノマ」の裏側の「ドチ」寄りに、一坪強の寝室を配するところにある。このような例は、県下では今のところ当地以外に発見されていないが、広島県比婆郡(註1)や秋田市の中家(註2)などには、これと似た例が報道されている。しかし、当地方の「ヘヤ」と呼ばれる寝室には、その後の発展がみられず、一貫してその位置・大きさに変化をみない点、先の二地方の例と異なるところである。

〔註〕

1……青山賢信「広島県比婆郡における民家平面の發展」日本建築学会論文報告集第一三二号、昭和四十二年二月



M2 阿部喜美次家（18 C 初期）



M1 鈴木正家の納屋（19 C 初期）



同上、「カマ柱」、上部には
「カマ神様」が祀られている。



鈴木正家母屋、草葺総2階となるため
屋根は寄棟となる。（19 C後期）



同上、「チャノマ」の表側より奥をみる。左側
は「帳台構え」のついた「へや」。元は約三尺
の出入口であった。



同上、軒下に組まれた丸太材、
これに、カヤやワラをしばりつけ
冬の雪よけとする。



M5 阿部和六家（18 C後期）



M4 中島庫次家、屋根のゲシは「クレグシ」といって、土のついた芝をのせたもの。現在は両妻とも兜屋根になっているが4代前の改造によるもの。（18 C中期）



同上、「ドヂ」と「チャノマ」境に立つ「荒神柱」、柱の径は特に太くはない。



同上、「ドヂ」内に張り出した「ダイドコ」（元はなかった）、右側の柱は「カマ柱」



同上、右側が「ヘヤ」で入口には立派な「帳台構え」が設けられている。左側は「トコノマ」でトコは2~3尺の高さを有し、片隅には必ず仏壇が設けられる。



同上、「チャノマ」の表側開口部、明り障子一枚、板戸一枚を嵌め込む。



M8 林三千夫家（19 C 中期）



M6 林今朝吉家（19 C 初期）



同上、小屋組、中央の高くなっている部分が「チャノマ」の上部四周にめぐらされた壁（元は土壁）で、このような造りを地元では「シンシ造り」と呼んでいる。



同上、「デー」と「エンガワ」境の様子、ここには鴨居や敷居が入っていない。もちろん、天井も張られていない。



「カッテ」の前面に設けられた開口部、障子一枚、板戸一枚を嵌め込んでいる。



M7、中島貞一家（19 C 中期）



M 水上館 (19 C 後期)



M9 林栄樹家 (19 C 中期)、中央部の「突き上げ屋根」は後の改造による。



同上の「チャノマ」の奥をみる。
左側は「ヘヤ」、右側は「トコノマ」



同上の裏側、冬季の雪避けのため
外壁をカヤで包っている。



M12 吉野銀蔵家 (19 C 後期) 「クレグシ」
にはユリの花が咲いている。



M10 林時雄家 (19 C 中期)



同上の妻側兜屋根の下には、丸太を縦横に組んでいる。これにカヤの束をしばりつけ。冬季の雪よけとするものである。



同上、「ドギグチ」近くに立つ「カマ柱」
柱の近くにはカマドがみられる



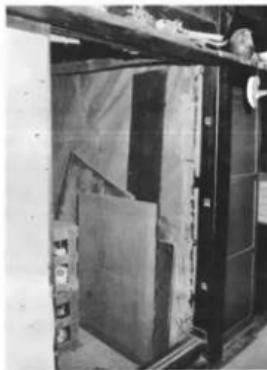
同右の「ドヂグチ」近くに「ナガシ」と対して設けられた「フロバ」



M 13 阿部賀家（19 C 初期）



M 14 林弘家（19 C 中期）



同上の「ヘヤ」入口に見られる袖壁の痕跡、「帳台構え」の高さは現在のものより高かったことがわかる。



同上の妻側にみられる「井桁」その下に冬季「イロリ」の燃料となる薪を積んでいる。



同上の「ドヂグチ」とそのすぐわきにみられる「ナガシ」及び「カマ桂」。元の「ナガシ」は「カマ桂」と「チャノマ」の間に位置した。



M17 雲越仙太郎家（19 C後期）



M15 中島寿家（19 C中期）



M16 小野ちえ家（19 C後期）

同上の妻側「兜造屋根」カヤを束ねて外壁を被っているのは冬季に深く積った雪が直接壁に接するのを防ぐためである。



軒の出を少しでも多くするために「セガイ」の先端からさらにタルキを出している。この地方の軒先の特徴である。



同上の「トボーグチ」現在は使用されていない。



同上の「オキノデー」に設けられた「トヨ」と「書院」



雲越仙太郎家に残る建築に関する墨書



雲越仙太郎家、「チャノマ」の奥をみる。左が「ヘヤ」で右が「トコ」天井は2年前に張ったもの。



M 19 荒木兼次郎家、草葺きの上をトタンで覆う
(20 C 初期)



同上の「オキノデー」と「エンガワ」を見る。境には林今朝吉家と同様に鴨居・敷居が設けられていない。



同上の「ディドコ」、奥には寝室が2室みえ
いざれも「帳台構え」が設けられている。



M 18 田中行雄家の遠望、上部の草葺きの家
(19 C 後期)



同上の「チャノマ」表より奥を望む。左が「トコ」
で右が「帳台構え」のみられる「ヘヤ」である。



同上の「トボー」、現在は畠が入って室の体裁を整え
ているが、元は土間でありここに「トボーグチ」が設
けられていた。



同右の「トボーグチ」内部を見る。



M20 山田今朝吉家（19 C中期）



同上の「チャノマ」の表側は入り込んでおり、「クツスキバ」と呼ばれる。(近藤義雄撮影)



M21 鈴木千寿家（19 C中期）



同上の「トボーグチ」



同上の「オキノデ」に設けられた「トコ」と「書院」



同上、表側に設けられた手前の出入口が「ドヂグチ」であり、向こうの出入口が「トボーグチ」である。



M23 高柳嘉市家（19 C中期）
中央の突き上げ屋根は後の改造による。



M22 宇津木忠司家（19 C中期）



M24 田村経三郎家（20 C初期）



同上、「デイドコ」と「チャノマ」間に立つ柱、敷居や鴨居の巾と同寸である。



同上の「デイドコ」と「チャノマ」間に立つ柱（荒神柱）。この地方のものは一般に怪が小さく、1本だけ目立って太いものはない。従って大黒柱といわれるような柱は存在しない。



同上の小屋組、中央のハシゴのかかっているところは「チャノマ」の四周の上部であり、二重梁がめぐらされている。そして、鴨居上から二重梁の下端までは土壁が塗られ吹き抜けとなる。この構法を「シンジ造り」という。



鈴木弥平太家の「ディドコ」



田村経三郎家、「オキノデー」の「トコ」と「書院」



同上の「チャノマ」表にみられる「クツギバ」この「クツスギバ」が設けられるのは19C後期以降の遺構である。



M 25 小野広寿家 (19 C 中期)



M 27 須藤岑喬家 (19 C 後期) 草葺純二階



M 26 鈴木弥平太家 (19 C 後期)
純二階造りである。



M28 荒木叶家 (20 C 初期)



同上、「デイドコ」と「チャノマ」境の柱。
幾分怪の増大が目立つところである。



須藤岑喬家、周間に雪よけのかこいをする
ための骨組が組まれているのでわざわし
く感する。棟飾りがめずらしい。



同上「ドヂ」と「デイドコ」の境に立つ「カマ柱」



同上、「チャノマ」の表側に設けられた
「タツスギバ」



荒木叶家の「チャノマ」。正面の右側に「トコ」
があり、その上が神棚となる。



鈴木弘司家（19世紀後期）



荒木叶家、「トマノデー」から「オキノデー」を見る。
境のランマには立派な透かし彫りがある。19世紀中期以降の民家にはこの様な透かし彫りが目立つようになる。



同上、「ドチグチ」のわきに設けられた小便場（近藤義雄撮影）



同上、「書院」のランマに施された透かし彫り



同上、「オキノデー」。シビを厚く敷きその上にむしろを敷いて寝床としている。（近藤義雄撮影）



同上、建築に関する墨書



田村一三家（19 C後期）



須田しげり家（19 C後期）



石井忠治家、曲り家となっており、町内では唯一のめずらしいつくりとされている。



同上の「カマ柱」



中島浩家（19 C後期）現在は瓦葺きであるが元は板葺き（栗の板で葺いた）であり、その上に石を置いた。



同上の「デイドコ」と「チャノマ」
境に立つ「荒神柱」。径が増し立派
になっている様子がうかがえる。



三丁つぎ。「ドヂ」の「カマ柱」に上部
にみられる。(阿部 孝撮影)



大戸くぐり戸(阿部 孝撮影)



神棚(茶の間の裏側にあり、上は吹き抜
けて屋根裏がみえている)(近藤義雄撮影)



土蔵の窓(阿部 孝撮影)



土蔵の上にのせられた草葺き兜屋根(上野 勇撮影)



土蔵入口上のヒサシ、土を厚く塗って
「ドビサシ」と呼ぶ（湯原）（阿部 孝撮影）



土蔵。入口の前には雪よけのための空間がある。
(寺間) (阿部 孝撮影)



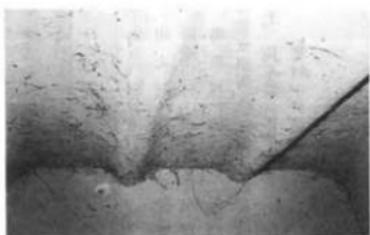
ドビサシ（阿能川）（阿部 孝撮影）



味噌倉の入口（左）と土蔵の入口（右）。
入口の上には雪よけのためのヒサシが設
けられている（寺間）（阿部 孝撮影）



ドビサシ（寺間）（阿部 孝撮影）



ドビサシ（湯原）（阿部 孝撮影）

十、その他の建築物

恵比寿造り

小仁田の大峰神社の境内に恵比寿様という小さなお宮がある。切妻造りにこれまで切妻造りの幣殿を直角に付け加えた形式のもので、土地では「西之宮様」と呼んでいる。

入口が妻部にあるめらしい様式で、祠内に元治元年の次のよな櫛札と勅請札が残されている。



恵比須造りといわれる社殿
(小仁田の大峰神社境内にある)

(近藤義雄撮影)

| | |
|-------|-----------------------|
| （表） | 恵比寿様の櫛札（小仁田大峰神社境内） |
| 謹上 | 手置帆負命 |
| 謹上 | 屋船句句酒智命 大工棟梁 河上村中島弁之助 |
| 彦侯志利命 | 同村 同村 道之助 |
| 下牧村 | 織之助 |
| 越後椎谷 | 七 藏 |

| | | |
|-----|-------------------------|--|
| （裏） | 奉勅遷 大国神大己貴命 恵美寿神少彦名命 神主 | 産子拾五ヶ村寄進信助 川上村 中島広之助 阿能川村 湯原村 鈴木駿河正積重清 |
| | | 御神靈安鎮御宮成就諸願満足守護所 |
| | | 花押 |
| | | 鈴木次郎右衛門 |
| | | 名主 小林金兵衛 承之 |

| | | |
|-----|-----------------------------|------|
| （表） | 十一月元治甲子季 十一月甲子二十七日御遷宮 古仁田村中 | 信心世話 |
| | | |

| | | |
|-----|--------------------|------------------|
| （裏） | 元治甲子季 十一月大吉二十七日 上棟 | 屋根コケラ葺師 小仁田 鈴木房吉 |
| | | 越後片貝 作五郎 |

民具

はじめに

今回の調査は、雪深い土地だけに從来みられなかつた各種の民具類が得られると思つたが、以外に少なかつた。もととも、衣・食・住をはじめ各項目の中で多く取扱われ、写真もそこに多く取入れられてゐるため、記録として手もとに届けられた原稿は僅かに数行にすぎない。原の部落で報告されたコザレエと称する雪かきをする道具（写真なし）と、寺間からの報告カバ印籠^{ハシマ}木のコババ（カババ）でつくったタバコ入れ、の二件である。それでも、写真は数十枚届けられたのでこれを次のよう整理してみた。勿論この分類は体系的な分類ではない。集められた限られた資料をより概括的に分類したものであり、不十分ではあるが、各項に報告されてあるものと合わせてみていただきたい。（近藤義雄）

一 生産用具

生産用具を耕作用具・脱穀調整用具・養蚕用具・製糞用具・山仕事用具の五つに分類した。この中には当然織物関係などが入るべきであるが、これは表の項目に移されているので一応五分類してみたのである。

耕作用具では、ほとんど特筆すべきものはない。全般的に見られる諸道具であるが、木製のスキなどはもう少くなってきた。山村の石の多い耕地だけに、クワ類が金属部分の多い丈夫なのが用いられ、どの農家でも数量的に多くもつていていたのが目立つた。

脱穀調整用具では、セン歯に銘文があり、かつては更賞品としてださ

れたりしたこともあるとみえる。麦関係では、クルリ棒などはまだ各地に多く残っているが、その前の時代に利用された麦打棒もあった。サナのようなものも当然あると思われるが、写真としては集められなかつた。脱穀が棒打、タルリ棒、足踏脱穀機、動力脱穀機への順で変化してきたことは、他の地域と同様である。

調製関係でトーミとふるいがあるが、古くは手であぶりながら、ちりやアイを除いたのが、ふるいの発明により調整が大きく前進した。それがトーミになり更に動力脱穀機で脱穀と調整が一度にできるようになったのである。ふるいも一般には針金の網が使用されているが、今回はその針金以前の竹ひごの豆とおし、もみとおしを記録できた。竹ひごのものは、養蚕用のねかぶるいなどは平地農村部にまだ残っているが、穀物用のものはほとんど廢を消しているのでめずらしい。

養蚕用具では、桑切りの押切りがあった。これもつい近年までは各地の養蚕農家が使用したものであるが、蚕の三眠起き位までは切桑といつて葉をきざんで給桑した。はじめは包丁で手切りであるが、給桑量が増してくると押切りが用いられる。たいてい三眠にかかるところからである。その後は桑葉といって大きな葉のまま給桑しても差支えなかつた。最近は株のまま給桑する桑育がさかんで、稚蚕飼育もかわってきたので押切りや大きな桑切り包丁がいらなくなつてきている。

つぎに、上糸用のマッシュ器であるが、古くはソダマッシュといってハギの木や糸木の枝に繩をつくらせた。それが量産化してくるとまことにあわないのでカヤマッシュとなり、更にはワラマッシュ、改良マッシュ、利根マッシュ、回転マッシュと変化してきた。このうち、各農家が自作したのは改良

まぶしままで、カヤマブシ織の道具はほとんど残っていない。簡単で自作のもののが多かったからである。幸い、今回は鹿野沢でこれを記録し得た。この使用法は、写真の左方にみえる細長い板の部分に座ぶとんをおき、右方の四本の角間にカヤを差込み、横棒をおろして折り曲げたのである。時にはこの台を動かないよう、木製のつむぎ車がある。麻や木綿の糸を織るときは、ウブケやウシ首のワクに巻いておき、これをこの車でタダに巻いて織った。生糸もノシのような部分は手でよりながら太い糸をつくったが、このときはやはりウシ首のワクなどに順に巻きつけていった。細い糸をとる道具がザグリである。ザグリを使用するときは、シチリンに炭をおこし、その上にセトヒキナベをかけ、織をたのがさめないようにして数個の織の跡からひき出された糸を座織りで巻きつけていた。座織はまだ残っているが、セトヒキナベはもうほとんど流れなくなつた。

山仕事用具は、オノ、ノコギリ、などの伐採用具と、炭焼き用具だけである。炭焼きも近年急に少くなってきた。写真のスミミはあらい日のふるいの役をし、その手前の丸い板はタチイタといって炭俵に炭をつめるときに用い、その右の先の二又の棒はタテマタといつて、炭窯に木をならべるときにこれで木をたてる。その右の棒は、さきの細いのをカツケシといい、焼けた炭を倒すのに用い、さきの広い方をイブリという。これは炭をかき出すのに用いる。ガソルギは雪国の大山の生活にはなくてはならぬものであるが、別項に記されているので略す。

一 運搬用具

運搬用具では、ハナゾリ、カチンゾリ、牛にひかせるソリなど各種ある。炭、木材などを運ぶ雪の中の山村にはかかせない道具である。今回の調査で写真の撮ったものでは、直接人の肩や背につけて運ぶ用具であった。セナカアチは、ワラや草で編んでつくられ、カッシン織で物を背負うときに用いる。また、セータという背負はしこは、平地のもの

より上に高く出ている。これは炭俵など何俵も一度に運ぶためである。フゴ、タスなどは一寸した山稼ぎや烟へいくとき用い、タガラは堆肥などを運ぶ。これは上が開いているので、背負ったまま横にして烟に堆肥をまける。

堆肥運搬には、馬で運ぶときはビタを左右につけて、これは下の口を開くと馬につけたままで堆肥を落すことができるの便利である。下肥などを馬で運ぶ時はヨツツヅケという蓋のある細長い桶を利用した。

三 日常家庭用具

燈火、勝手道具、座敷小道具、台所用具に分類してみた。

燈火では脚付きのヒデ鉢の写真があるが、脚のついてないものもある。アンドン以前の古い屋内燈火である。

お膳手道具では、湯沸かし用の茶釜、鉄びん類、蓋つきのウドンアゲ(手前にあるヒシャク)のようなものはモリテなどといわれ、長じうどん類を汁の中からすくいあげて茶碗にのるのに便利)、ホーローク、半ギレ、木鉢類で、木鉢は大きなものがあった。小仁田でも直徑五・七センチもあるものがあり、これらは粉類をこねるのに用いる。ホウの木でつくられてゐる。このなかでこなをこねホーロークなどで焼いたり、がのまわりのホドにくべて焼いて食べたりした。

座敷にある小道具類は火鉢、タバコ盤などで、それほど特徴あるものはみられなかった。

台所用具は、臼や杵類のほか、ワラタタキ石や杵がある。石の残つてゐた家はかなり多く、どの家の石も黒く光つていて。氷い年月この石が夜なべ仕事のワラタタキに用いられたことを物語つているようだつた。

この部類では各種のホケーと座り籠が写真に収められた。何れも江戸時代以来のものであろう。

1 生産用具



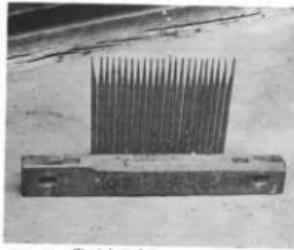
ス キ (小仁田)(近藤義雄撮影)



軒下に並べた農具一阿部喜美次氏宅 (幸知)
(池田秀夫撮影)



マ ン ガ (寺間開墾)(近藤義雄撮影)



2 脱穀用具

セ ン 齒 (小日向)
「谷第三回有切賣賞品」とある
(中村和三郎撮影)



田の草とり機 (寺間開墾)(近藤義雄撮影)



ワラスグリのセン歯 (小仁田)(近藤義雄撮影)



ジヨニン (谷川)
(青木則子撮影)

3 養蚕用具



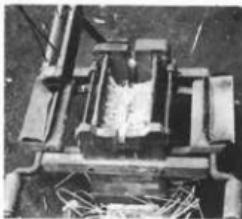
桑キリキと桑ブルイ (小日向) (中村和三郎撮影)



くり棒 (小仁田)
(近藤義雄撮影)



麦打ち棒 (小仁田)
(近藤義雄撮影)



カヤマブシ織機 (小仁田) (近藤義雄撮影)



トーミ (谷川) (青木則子撮影)



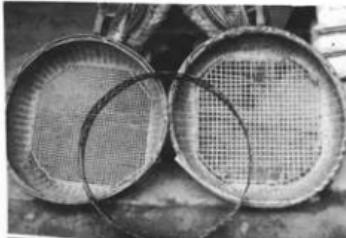
萱マブシ織 (鹿野沢) (青木則子撮影)



脱穀機 (大穴) (青木則子撮影)



ザグリ (小日向) (中村和三郎撮影)



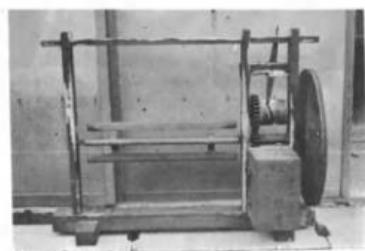
ふるい (左もみとおし、右豆おとし)
(小仁田) (近藤義雄撮影)



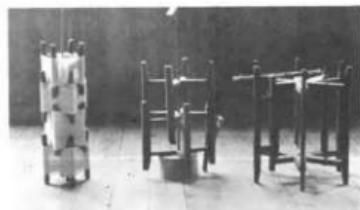
機械りにつかった（鹿野沢）（青木則子撮影）



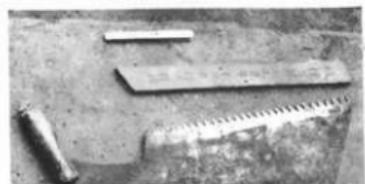
ウシ（鹿野沢）（青木則子撮影）



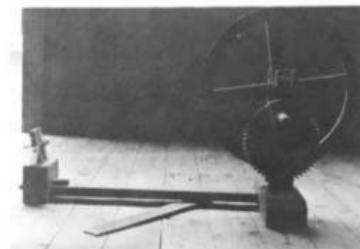
機械用具（鹿野沢）（青木則子撮影）
5山仕事用具



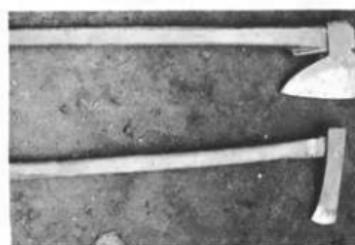
（左）小ワク（右）大ワク（鹿野沢）（青木則子撮影）



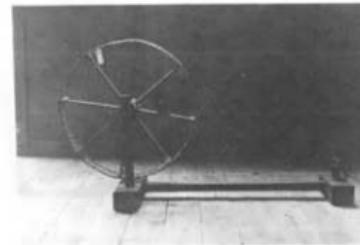
マエビキ（小仁田）（鞘に大正2年の銘あり）
(近藤義雄撮影)



タダマキ（鹿野沢）（青木則子撮影）



ハビロとカリヨキ（小仁田）（近藤義雄撮影）



モメントリ車（鹿野沢）（青木則子撮影）



炭俵などを運ぶソリ（カチニゾリ）（寺間開墾）
(近藤義雄撮影)



炭焼きの道具（小仁田）（近藤義雄撮影）



牛にひかせるソリ（高日向）。木材搬出のとき木材の端を車の上にのせてひかせる。（木村柏好撮影）

二 運搬用具



ハナゾリ。雪の上を木材3石ぐらいまでを運ぶ。木材のハナをこのそりの上にのせ把手でひき、急坂をすべらせるが、あぶない時はすべり止めのガリをかける。
(幸知) (都丸九十九一撮影)



せなかあてと女の仕事着姿（小仁田）
(近藤義雄撮影)



セナカアテ（小仁田）
(中村和三郎撮影)



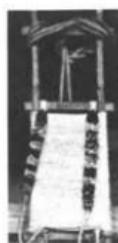
ハナゾリに木材をのせて実演（幸知）
(都丸九十九一撮影)



トヅカリ（小仁田）
(中村和三郎撮影)



タス（小仁田）
(中村和三郎撮影)



セータ（小仁田）
(中村和三郎撮影)



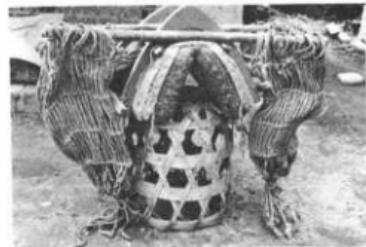
タガラ堆肥などを運ぶ（小仁田）
(佐藤義雄撮影)



フゴ（小仁田）
(中村和三郎撮影)



水汲みの天秤棒（小仁田）(近藤義雄撮影)



馬で堆肥などを運ぶ（小仁田）
(近藤義雄撮影)



桑とりかご ほてい 桑とりかご
目つぶし しょいご 桑とりかご
肥箕 ゲ ざま
しょうぎ (2)

竹製の道具（小仁田）（近藤義雄撮影）



各種のおけ
つまじりおけ にねえ こーけ たらい
後は消毒液をとかすドラムカン

（近藤義雄撮影）



四つづけ桶（小仁田）
(近藤義雄撮影)



三尺ダメ桶（寺間）
山田今朝吉方
(木村柏好撮影)

三 日常家庭用具

燈 火



ウドンアゲ (幸知) (池田秀夫撮影)



ヒヂ鉢 (須田具)
(上野 勇撮影)



半ギレ (小日向) (中村和三郎撮影)



アンドン (小日向) (中村和三郎撮影)



焼もちを焼いたホーレク (寺間) (近藤義雄撮影)



ランプ (小仁田) (近藤義雄撮影)



木鉢 (鹿野沢) (青木貞子撮影)



古くから伝わる鉄びん、茶釜
(小日向) (阿部 孝撮影)

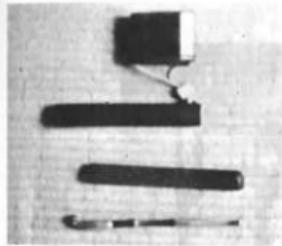
2 勝手道具



箱火鉢とタバコ盆（小日向）（阿部 孝撮影）



ウマカクレ杉でつくったメンバ板（谷川）
（齊木則子撮影）



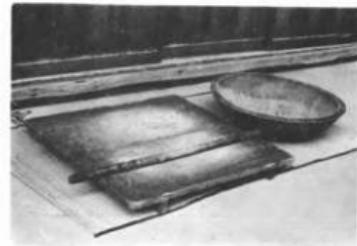
桜の木で作ったタバコ入（寺間）（近藤義雄撮影）



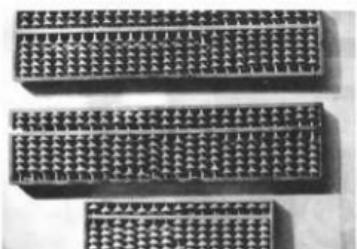
木ぼち（とちの木製）（阿能川）（阿部 孝撮影）



ゼニ箱（小日向）（中村和三郎撮影）



木バチ、メン棒、メンバ板（小日向）
（中村和三郎撮影）



名主、区長引継ぎのソロバン（小仁田）（近藤義雄撮影）

- 350 -



シシ足の火鉢（木製）と火打石と火打
がね（小日向）（中村和三郎撮影）



つづじ 蕎 (寺間開墾) (近藤義雄撮影)



オヒツ、オスマシ、メーメーボン
(小仁田) (中村和三郎撮影)



コザ張りのツヅラ (小日向) (中村和三郎撮影)



はさみ 箱 (小日向) (中村和三郎撮影)



うす (木製、石製) (阿能川) (阿部 孝撮影)



三本杵 (湯の小屋) (上野 勇撮影)



石うす。水車用 (下)、粉引き (上) (湯原)
(阿部 孝撮影)



台所の薺たたき石ときね (小仁田) (近藤義雄撮影)



内裏びな（左）足をつぎあじろという
（鹿野沢）
（青木團子）



ホケイ（左）（湯原）（阿部孝撮影）



おひなさま（小日向）（中村和三郎撮影）



ホケー（小日向）（中村和三郎撮影）



家宝の鎧（石井秀雄氏所蔵）（近藤義雄撮影）



ホケー（小日向）（中村和三郎撮影）



ホケー（小日向）（中村和三郎撮影）

| | | |
|---|-----------------|-----|
| 1 | 谷川郷富士山浅間山菩薩縁起 | 354 |
| 2 | 湯檜曾村根本記 | 355 |
| 3 | 湯檜曾村開発阿部氏出姓根元永代 | 357 |
| 4 | 念仏 | 358 |
| 5 | 藤原おばえがき | 359 |
| 6 | かりの話 | 365 |
| 7 | わらじの由来 | 377 |

谷川郷富士山浅間大菩薩縁起

ひそかにおもんみれば薩河世界南間浮提、青蛙國東山道上野国利根郡谷川郷富士山浅間大菩薩、応跡開闢之差燭を尋ねるに、これを人王一百代後円融院御宇、康暦第二の庚申の歲十二月朔日夜、酉刻より寅刻に到りて、未申の方より白光三道、天に映じて其影、虹の如くにして此の山頂にとどまる。翌日辰の刻、大穴郷に俗人有り、対馬と名す。則ち浅間大菩薩の彼の俗人に乗りうつり託宣してのたまわく、我は是れ富士浅間大菩薩なり。此山に現じて郷里の衆生に福寿を与え、濟度せんと欲す、汝らまさに知るべし、郷里の民、鈴木氏重秀といふ者、神に仕えてゆえり神主となり守護せしむべし、かくの如く示現したもの。此に於郷里の男女感いて渴仰の思いを成し、精進薦焉にして凌ぎ越えたる險阻を巣峯によじ登り、山頂を見れば桃樹秀いで御正体八面、桃枝に掛かれり、是を奥の院宝物とす、石の廟塔立て、伝え聞く岱岳五台に似て、靈感いちじるし、此の内陣に定む。そもそも又、根本富士米由をたずねるに、人王第七孝靈天皇御宇、一夜に涌出す、其の高さ一由碁なり、元、不思山と言う、此の山至りて高うしてせん望するに足きざるが故に、又四時雪尽きざるが故に、此の山神女体にして心、勇士を富(ま)さんと欲つす、かるが故に、世俗祝して以つて富士と名づくるとなり。今、此の山雪尽くること無しと、其の高さ三里余、山石するくして足をかみ、骨肉に徹す、しかれども血一滴も見えず、唯白乳流れ出ず、又、毒蛇多く、林の如くなりといえども、人詣すれば則ちおそれ散り逃げかみやぶらず、是れ此の山の不思議なりと云々。又、山頭丑寅の傍わらに穴有り、常にけむりたつ、則ち人穴と言う、東の峯を秦嶽と名す。岩のかたる瑞光如來の尊形也、信心の行者、来迎を拂し奉る也、岩窟小水涌出す、此の水を以つて目に灌けば眼病たちまちに愈ゆる也と云々、則ち是れ御手洗川と言う。一段下攝海岩有り、其のかたち不動明王也、此に於て

懺悔礼拝す、次に打渡りは二十五町喰路にして御富往還す、次に天神懺いうは、諸天善神現じたもう、岩のかたち皆天神尊形也、また平地にして池有り、波り七余間、斯にして始離を灌ぎ、懺悔礼拝す、鳴有り弁才天まします、鳥居立つ、一階下平地にして岩窟有り、是御室なり、六月朔日より十五日に至りて、祭祀の御旅所也、然ば則ち和光垂迹の根元は群類を結縁して、引摶せんが為の方便也、又、山の分際を測るに、東の嶺より水流れて保土野川と言う、此にして垢離を灌ぐ、また払い川ともい、西の峯の流れを大川と名す、南の麓は広野にして杉松藪深く、常雲つつみ清淨靈地也、社廟建立して美麗也、奥の院山頂は越後上野両州境也、山頂より霊の社の前に一川落合い、富士山境内にして、山林除地也。また此の川岸に温泉涌出す、浅間、御足を灌洗したもう、水変じ湯となり、則ち御湯瀧湯と名す、治病に驗なり、又、上牧郷鳥居原に寒中に學(たかなな)生ず、則ち鳥居立つ、此の竹を鉢運に用ゆ、而してより以來、鳥居原と名す。このゆえに鈴木氏重秀示現に任せ神職を勤む。其の氏性を尋ぬるに、熊野權現四臣の隨一、鈴木党重家の苗裔重秀の子、神勅に随つて參内せしめ司官鈴木駿河守源朝臣重辰に任す、時に人王一百七代正親町院の御宇、天正老十七己丑歳、都司富永又七郎平朝臣助重公、元和四年正月、山宮宮社領を寄附せしむ。人王一百八代後陽成院の御宇、慶長四丙亥曆、当城主真田豆豆守源信直公、社領を寄附せしむ、神主參内せしむ、鈴木駿河守源朝臣重則に任す。人王一百九代太上皇帝の御宇、元和四年正月、源信吉朝臣公、社領を寄附せしむ。人王一百十一代後光明院の御宇、万治元戌成年真田伊豆守源野朝臣源信直公、廟社拜殿瑞應等、悉く造しおわり、簷蓋華蓋之を掛けしむ、宝物とす、神主勘太夫重良嫡子、參内せしめ鈴木駿河守源朝臣重久に任す、勘敬他に異なり、然りといえども天和元辛酉曆、沼田庄御領地と成る、司令として竹村總左衛門尉喜次、熊沢兵衛尉良春、支配せしめらる。しかるに貞享元甲子歳、上意を以つて酒井河畔大守忠明公の家司高須隼人正を奉行と為し、檢地の節、両司令隼人正ええ縁

起を挙げ訴訟せしむ、則ち証文等照覽有りて旧領に載する所之を除かしめ、辯領奉る、則ち水帳所持す。是をひとえに大苦難の加護か、大樹公御慈悲を仰ぐべし、むべなるかな。一度び此山の參詣の輩、現には福寿自在の擁護を獲、當には三明不退覺位に登らんことを疑ひ無きか、これによりて往昔先祖、神殿に納め置く所の縁起、破壊せしむるによつて、今筆画を添えて之を再興して後代にのこしておわりぬ。

(「町誌みなかみ」より、但し書き下し文に改めた。)

湯檜曾村根元記

安倍貞任第三拾五代目

阿部一美複写

尾瀬に居城を構えたる事

時は人王七拾代後涼泉院の御代奥州の国司阿部貞任舍弟鳥の宗任と申也同弟家任盛任八郎の冠者とて三人これ有り

同御代天喜元年阿部貞任宗任謀叛の企てこれ有りしにつき誅戮として源義家公御出馬波合戦始まり五年御取合せあり同御代康平元年源頼義公御出馬波合戦五年戊戌十一月二十九日に打滅され貞任は討死し宗任は生捕られ家任盛任サカイノ冠者の三人は落行く、後三条院の御代延久元己酉年右三人は上野國勢多郡東入り山里北方に当る尾瀬という深山に隠れ居て年月を送り何れも病死す此子孫はあと尾瀬を取立て在城す

尾瀬落城の事

正長元庚申年右の末葉阿部貞道と申す人皆へ上り縁を求めて頼家公に仕え内裏の大番役を勤めけり

爰に尾瀬氏は比類なき早馬を持ち扱て亦ヤツカハギ(八脛)といふ人これあり世に勝れたる男にて足の脛長八丈ありしより八脛と申すなり貞道早馬に乗り八脛を召連れ上州を卯の上刻に打出て辰の上刻に京都え

着す

或時八脛昼寝したるを見給へば脇の下に毒の羽の如き羽根尚の脇下にあり是をあやしみ其羽を取捨て給へば其後は八脛道を早く走ることならず其上件の馬八脛供なわざれば馬の足も進まざりけり故に心ならず内裏の大番役も勤まらずこれに依り尾瀬氏勤勤を蒙り退く

其後花園院の御代永亨十二己酉年鎌倉将軍義教公を大将として官軍を差し下し給う頃は四月より六月中旬まで攻め戦ひたり此時尾瀬氏叶はずして落城す

尾瀬主貞道に子息三人有之親子四人一道に落行く事叶わざ散りくに落り利根川の辺にて可然所に待合せ心静かに自界して名を残さんといひ合いて思ひ落する

貞道先達してよき所に参着し侍居たり一男二男両人參着す三男は何方へ落きしや暫く待てども見えず然れば愛元にて家に伝はる書物など其外品に焼捨てたり其場所はカツハマ村の近所なり其所の者共是を見て尾瀬城主これまで落り大切なる書物など焼捨て給い事場所なればと則宮を建置けり抜久子供衆を待ち候間子待明神を奉拝なり夫より親子三人は後閑村のうちに大きな岩窟有る由聞き給ひここえこもり入り自害せんとかの岩穴へ入りにけり其後八脛も尋入り其外身附の侍共四拾四人追々尋入りけり扱て右の人々身命を送る様もなし貞道父子三人は自界なし残る者共ハ後閑村田場え下り福徳を切り取り暫く身命を送る里人を見てかの岩窟へ尋行き見るに岩穴の上より大きな岩生え下りしをこれをたより下りきて福徳を切取るよと見て此葉を切捨てければ岩穴の通路叶はず皆々相果つるとかや其亡靈にや里人をなやましきる里民驚き入り社を建てヤツカハギ明神と奉拝なり其後御宮三社建立致し則三社権現と奉拝なり

貞道の妻女母娘の事

貞道の妻女並に姫君は武尊山の続きの峯に石に花咲けるよし聞き給ひこれを見給はんとて出給ふ其後にて討手の勢向つて尾瀬落城の由聞き給

ひ上御歌に

紫の雲のたなびくほたか山

世のうき時のかくれ家にせん

如斯謡じ給い鷹となり武尊山に飛び給い親世音菩薩と現はれ給ふと申
揚て姫君は母上に捨てられいかがはせんとあまりものうきままに一首

の歌

おもひきや石に花さく山にきて

かゝるうき身になりはてんとは

右の歌を読み給い（此時より東入花咲村と申里あり）それより姫は人
里へまよい出ていく田村のほとりまで落紛ふ然る所へ里人来る姫君抑け
(る)は我は尾瀬城主貞道の末女子なるが父上や兄弟は尾瀬にて討死候や
若しも浮世にましまさば何方にもても繩りありひとにもかくにもとおもひつ
て是迄ながらえ来たれども女の身なれば心も力も尽き果てたり角虎浮世
に永らへて身のなり果てもさらさんより愛元にて利根川へ身を投げん若
しも我を尋ねる人あらば只今年の話を詳しく語り聞かせてたまわかれしと
心ありげに見参らせてかくはたのみ置候と申拂て利根川江身を投げ給ふ
とかやそのところの湖の名をば「御前のまき」と申なり則ち地蔵堂をこ
とのところに建立せり。

其時の村人は下いくた村の新左衛門先祖にて右の物語申伝へて之を知
れるなり。

貞道の三男孫八郎湯松會開発のこと

爰に尾瀬城主阿部修理大夫貞道の三男貞次は尾瀬落城に依り越後国よ

り信濃甲斐伊豆相模武藏上野と山続麓村々を尋ね廻りけるも父兄弟一族
と通り逢はず銭方なく秩父に入山それより上信国境碓氷がはとりまで尋
ねまわれとも少しの手掛りもなくして依て廢名山を越え川渡猪熊へさしかか
る此村この外賑はしく往来の者が毗しを聞くに主従共に比川に身を投

したるところを御前の湖かやが巻と号しかくも此村にて祭するなりと云

ふ孫八郎立寄り聞けは尾瀬の姫此川上の笠根川へ身を投げしに其小袖流
れ下りて此湖に止まりしを腰元かやと申す女去年五月此所に来て是を見
つけ歎きかなしみ此川下の渕に身を投げし故其小袖を上げてここに埋め
地蔵堂を建てて祭るなりと始終を聞き孫八郎落涙せり。

やがて

村長と思はしき者進み出て申様そこもとは何國より罷越され

しやと問ふに孫八郎拙者ハ奥州の者なりと答える貞次誠に天に二日な

しとは人の教女の身にてもかくの如し此上は親兄弟の成の果を聞かんも

のと利根川に添いて登りける時小川の舟守に尾瀬落城後の由を問うける

に後閑村の岩窟にて主従六人自害し其後郎等大勢來りしが後にそにて

自害せしと由詳しく話し聞かせらるえ孫八郎力なく非數の涙にくれけるがか

くてはならじと後閑の岩窟に立寄り處に一夜通夜して熟々思ふよう父

母兄弟一族郎等に至るまでかくなり果つる上は如何に心を尽すとも世に

出づべき方便なければより尾瀬江立場り又も隠て世を送らんと川に添ひ

登りけるに往来より二丁が程引込みに湯のけむり立つ場所有り往きて見

るに世を忍ぶには屈境のころなりと爰に住所を定め開発して湯の松會村

と号せり。

尾瀬落城より九年目宝徳元己巳年なり

阿部孫八郎貞次は實に湯松會村開発の元祖なり。

水正六年九月二十八日歳にて病死せり法名仰嶽道景居士と申す
昭和三十年七月二十日
署知阿部一美君の
需に依り本家旅館

梅の間に於いて

秀峯佐藤宗次写（花押）

湯檜曾村開発 阿部氏出姓根元永代記

予時人皇七拾五代後冷泉院の御代奥州の国司安倍貞任舍弟鳥海三郎宗任と申也同弟家任盛任八郎の冠者とて三人ありて同御代天喜元癸巳年に安倍貞任宗任謀叛を企有之に付為誅伐源義公御出馬罷在り合戦始まるなり尤も五ヶ年の御取合也同御代康平元年源頼義公御出馬罷在り同五年戊戌十一月廿九日に貞任宗任両人打亡び東州落城す尤も貞任は討死す宗任生捕られ家任盛任八郎の冠者右三人は落行同四年目後三条院の御代延久元己丙午右三人は上野國勢多郡沼田東入の山里北方に当る尾瀬といふ深山へ隠れ居て年月を送り何れも病死す揚此の子孫段々と尾瀬取立在城す。

正長元戊申年右の末妻阿部貞道と申す此人上り縁を求めて朝家に仕奉る内裏の大番役を勤めけり爰に尾瀬氏は比類なき早馬を持ち招また八束經と言ふ舍人有之世にすぐれた大男にて足の脛長さ八束みありしより八束脛と申すなり貞道早馬に乗り八束脛を召連れ上州を卯の刻に打ち出て辰の上刻に京に着す或る時八束脛寝したるを見れば脇の下に鳶の羽の如くなる羽根の脇の下にこれ有るを怪み其の羽を取捨たまえば其の後は八束脛道を早く走ることならず其の上件の馬八束脛伴わざれば馬の足も進まざりけりこの故に心ならず内裏の大番役も勤まらず依て尾瀬氏勧勤を蒙り則ち跋伏の為に其の後花園院の御代永享十二乙酉年謙貞特軍義教公大將として官軍を差し下し給う頃は四月より六月中旬迄攻め戰いたり此時尾瀬氏不叶して落城す尾瀬城主貞道の子息三人有之親子四人はともかく一道に落行事叶うまじちりに落入り利根川の邊にて可然所に待ち合せ心静かに自害して名を残さんとねんごろに言ひ合せて落下る貞道先達して能所へ參著す三男は何方へ落行しか暫く待てども見えず然らば愛元にて家に伝わる書物等其の外品々焼捨てたり其の場所はカツ

バマ村の近所なり其所の者共是を見て尾瀬城主のこれ迄落ち下り大切な書物等焼捨て給う場所なればと則ち宮を建ておきけり。

揚又子供を待ち候間子待明神と申し奉るなり夫より親子三人は後閑村之内に大いなる岩窟ある由聞きたまえ是へこもり入り自害せんと彼の岩窟へ入りにけり其の後八束脛も尋ね入り其の外身附の侍共四十四人追々尋ね入りけり。

揚右の人々身命を送る可様もなく貞道親子三人は自害となり残る者共は後に田場へ下り稲穂を切り取り身命を送る所に里人是を見て彼の岩窟を尋ね行きて見るに岩窟の上より大いなる華生い下りしを是を頼りて下り稲穂を切取るよと見てこの藤を切り捨てければ岩窟の通路相叶わずして皆々相果てるとかや其の亡魂にや里民を悩ますことしばしばなり里民大いに驚き社を建て八束脛明神と申し奉りしより其後宮三社建立し則ち三社權現と申し奉るなり。

貞道妻女並に姫君はほたか山の綾きの峯に石に花咲ける由聞き給い是を見給わんとて出で給う其後討手の勢向いて尾瀬落城の由聞き給い母上の歌に

紫の雲のたなびくほたか山

世の豪き時のかくれ家にせん

如斯詠じ給い鷹となりてほたか山に飛び峯にて観世音菩薩と現われ給うと申伝える也

姫君は母に捨てられ如何せんと余り物豪きままに一首の歌

思ひや石に花咲く山に来て

かかる豪き身になり果てんとは

右の歌を読み給い此の時より東入花園村と申す里なりそれより姫君は人里遠出していくた村の边まで落ち給う然る所里人来り姫君仰せ候は我は尾瀬城主貞道の末女子なるが父上や兄弟は尾瀬にて死候哉若も浮世にはしまさば何方にても巡り合い兎にも角にもと思いつつ是迄ながらえ未だれども女の身なれば精力もつき果てたり兎角浮き世にながらえて身の

成り果てをさらさんより愛元にて利根川へ身を投げ若も我を尋ねる人あらば唯今の物語をくわしく語り聞かせたまわれかしと心有りげに見まい。させて候程にかくは頼み置き候と申捨て利根川へ身を投げ給うとかや其所の淵を名をば御前のまきと申すなり則地蔵堂を建て其時の里人は下いくた村新左衛門先祖にて右の物語申し伝えてこれを知る也。

貞道の三男は上州筋まで落行き方々心をつくせども世に出すべき手筋もなく沼田の田へ立ち帰り利根川につき添段々奥深く入りて見れば湯の煙立つを見て爰を住居にきわめんと開発して則湯のひそ村と里名をつけたる也尾瀬落城より九年目なり。

沼田城主阿部貞道三男阿部孫八郎ことと宝徳元己巳年湯松曾村開発の元祖これなり行年九十八歳にて病死永正六年九月廿八日

と号す。

昭和三十年九月十五日

於本家族館阿部家十九世孫当主阿部一美氏宅

原口 舟書院

念佛

念仏の初御念仏申の御庭には天から百よの花がふる。ひろうて見たれば皆六字夫から御念仏始て六十六国の大曾念仏 南無阿弥陀

「奇妙でうらへ朝かほの露の命を持なかから此世はわづかのかりの宿

「奇妙でうらへ赤城山ふもとで拝は山一つ参りて拝は三つの山を

黒びをたけに鉛がたけ地蔵がおたけで跡は大ぬ小ぬとてぬがふたつ大ぬが八万余丈也小ぬが七万余丈也小鳥が鳴とて弁才天ぬじりに豪傑の十二神是程あらたなお赤城へ一度も参らぬ其人はは

六道の辻(テヌ)にも迷へし一度参りし其人は直にじょうどへ南無阿弥陀へ奇妙でうらへ天竺の小銀の娘のかたびらは染も染たり婦たりかたにや松松子松せすちの懸りをみてあれはなんのいともない此海の女なみ男海の打ところなみにうさぎの乗ところ上手い掛りを見てあれは諸國の大名が集て反歩の割ふをなさるとこ下まい懸りを見てあれは御前女郎衆が集て長崎煙草の新刻やつぎのきせるで呑處是程繕しかたびらお一度も着もせず着もせず十五と申る其春に風の病を引受てけさの露にと消てる小鍛冶夫婦もあがれて此子はそこへと送やろ花ぞのお寺へ送ゆろ花ぞのお寺へ参り参りておぼを詠れは開し桜が十二枝つぼ桜が十二枝開し桜は散もせでつほみし桜が散はてる我子もすなはち阿のことくこうてなくまいなげくまい「道のはたの六地蔵となるい申た御いとくに四十八せきのがれ申て〇にじゅうどへ南無阿弥陀

うらなう隙とて更になし 男雀その座をづんと立 とんびのやかたへ
飛移 我が妻成女雀は 三日先に出でけるが 未行衛も知れされは
うらないたまへやとんび殿 うらなう事は安ければ 神のつかいのし
げければ うらなう隙とてさらになし 男雀その座をすんと立 し
とゞのやかたへ飛移 我が妻成女雀は 三日先に出でけるが 未行
衛もしれざれば うらないたまへやとんび殿 さつしょと唇を引合
是より南のその原に わんに羽をつめられて むなしく成て果たま
う 男雀その座をすんと立 三の館へ飛船 十二の玉子をけつぶして
後は野となれ山となれ 行先れんげの花となれ

(栗沢 阿部国之輔氏方の筆写本に據る)

藤原 おばえがき

藤原おばえがき

1 大声

居住・食物・狩・村制・年中行事・神祭・言葉・妖怪・前兆・ト占

2 青木沢

居住・産育・年中行事・言葉・妖怪・前兆・ト占

藤原ばなし

(註)この「藤原おばえがき」は、「上毛民俗ノート、2」として昭和25年8月25日
に上毛民俗の会より発行されたものである。著者は上野勇氏。昭和25年8月6日
～8日に上野氏が藤原で採集したものである。今回資料編として掲載するにあた
り、前半の藤原たよりとあとがきを省略し、採集した資料のみ掲載した。

1 大声

○ 居住 クレグシ 茅葺の屋根のグシが痛まないやうにするには、茅の先をし

ばるより、土をあけた方が簡単なので、芝土をあげる。土を落さないや
うに、かんそう・ひめゆり・はぎ・ほたるぶくろなどの花のある所を
とつてのせる。中には一年中咲いてゐるものもある。

二十日から雨が降らないと枯れてくるが、一降りあると元通りになる。

茅の先をしばたまで、土をあげないダシはヨシダシといふ。

ヨツヤナイ 棒上祝。餅をついて親類にくばる。

フキモリ 新築祝。屋根の四隅でスミノモチといって一升舟のシツタ

だけの大きさの餅を投げる。

スミノモチを拾ふと運がいいといふので皆ためる。

あとは小さいのを投げる。うちのくらしによつて栗餅を投げる。栗餅は

お祝ひで良いといふ者もある。

○ 食物

カツラコ カツラジの根を粉にしたもの。かいて食べる。何病にもよ
く、栄養がある。かすの黒い粉をノロメコといふ。

ヌマタコ 蔵は食用にしたが、粉にしてヌマタコと名づけて売つたこ
とがある。野火のあとはコがふえる。綿織物の糊に使つた。

○ 狩 シチニンガリ 七人仲間になつて狩をしてはいけない。

ヤバ 狩の時、ヤバの一番重要な場所はボンヤバといつて一番上手な

者が、二番目はカタヤバ、といって二番目の者が、あとはオイコになるが、
背負穂をかけないうちに入た者は、獲物の分け前は同じである。

熊 日本のサンタク(三葉か)は山で熊の體里で人參、海でおつとせ
いといふ。越後では余程の家でも熊の體だけはかかさず持つてゐる。こ
こらでとった熊はヒドクメンをしても筋分けをして越後に送る。越後の
者はジングがいいからノリ(共同)で貰ふ。

雪のある時は山越しに引いて行く。熊の體が背負つてゐる。今は六分位になつた。

マモロは月の輪がびっこでなく平均にある。筋が少い。ムナグラは月

の輪がない。膽があればうんとあるし、なければ全然ない。熊はマルで売ると一貫匁一二〇〇円位、ムキダシといって膽を取出して売ると、膽は一匁二〇〇円位になる。乾すと四匁が一匁になる。穴に寝てある時か一番いいが、雪をなめると六匁が一匁。若葉を食ふと八匁が一匁になる。アナサガシ 熊は木に牙であるとをつける。小さい熊ほど牙のあとをつける。寝ようとしても他の熊の牙のあとがあると、きらってはする。

五六丁エーダメに牙のあとをつけるので、牙のあとをつけて行くと、牙のつけ方で、熊の穴を知る事が出来る。これをアナサガシともネアタリともいふ。このネアタリをたゞして行くことをネアタリツナギといふ。半道位のところ、つなぎをつける。ネグマはなかなかとれなかつたが、こゝ二十年位とれるようになつて来た。今年子を産んだ熊は一番あとまで寝る。去年産んだのは早く穴を出でくる。熊は日中は歩かないの、朝げと晩げ歩く。秋はどんぐりや木の実を食べるが、夏は赤蠅を食べる。赤蠅の塚や、石の下にあるのを掌につけて食べる。

蜜蜂もよくやられる。土の中に巣を作るアローといふ蜂も、土をホツベシカッテ食ふ。

クマノタナ 木の枝は半分牙で傷をつけながら力を入れて引き折る。木の途中に籠のやうなものを作り、そこに枝を引きためて、木の実をとつてゐる。

二人三人乗つてゆすぶつても、枝の組んだのはホドカラナイ。カモシカ カモシカの肉は薬になる。カングラといつて、寒中はうま

いが、暖くなると肉がまづくなる。一冬に一回は食べる。少しかほりがあるが、牛と豚の間位の味だ。毛皮は熱を持ってゐて、着てみると汗が出て来てしめっぽくなる。一番寒い所に住んでゐて、一尺でも二尺でも雪を擡いで、ひばの梢を食つてゐる。

ヤエン ヤエンの頭の黒焼は、脳病の薬になる。
ヤエンマキは、ナカツチマキ、キノネザワマキなど五つ位あつた。どれも一五〇から二〇〇位ゐた。イチバンヤエン、ニバンヤエン、サンバ

ンヤエンなどのカシラはワザニうたないで、真中へんからウチハネール。マキから離れてゐるヒトツッボをとつてみると、耳が裂けてゐるとか、足に傷があるとか、どこか怪我をしてゐる。ヒトツッボの中には、つるむ時見つかってマキをおぼなされたものもある。ヒトツッボは、マキの近所にゐて、山のまほりを廻つてゐるから、ヒトツッボがあると、オッケーマキはどこそこにあるだろうと見当をつける事が出来た。

イチバンヤエンは栗の木の一端先に乗つてキロンキロンあたりを見てゐる。ほかのさるは、いがをうまくとつて、ホー（類）の中に、一合も一合五匁も入れる。イチバンヤエンは、それをおさえつけて、口移しに奪いとる。イチバンヤエンの一声で、木からもきおとすやうに逃げる。テン てんは日光のてんか、奥利根のてんかといはれてゐる。トライブ（とらばきみ）でとる。てんは背中をまるめて一足にとぶ。椎巻には、樺太のギンコギツキ、その次はてん、その次はきつね、むじな。

手際のいいのは一冬に五つ位とる。てんの毛皮は、毛の部分の白いネジロが一番いい。ネジロ、ネアカ、ネアオ、ネクロ、スッテンとあるが、ネジロとネクロとではゲンビ（原皮）で半値の差がある。スッテンはいたち位の値段である。

ムジナ 尾が短く、狸より前足の爪が長く木に登る。冬は油ばかりで、油のカワリシに燃した。

タヌキ むじなより尾が長く、爪は犬の爪のやうで木にのぼれない。シシ 昔は名主がふれを出してシシ（猪）を一度に二十三マル（頭）もとつたが、肉は食はないで腐らせてしまつた。シシを食べれば四百日、くまを食べれば九百日汚れるといった。餓饉の時に、栗沢の者が死ぬか生きるかで、ヤエンを食つたが、よく汚れなかつたと話したものだ。家に孕んでゐる者があるがけのものをうつと、シニツカレル事がある。この時「貴公のかかあは孕んぢやるねえか」と声をかけて貰ふと死ぬ。

パンドリ 腹の皮が二重になつてゐて、とぶと幕を張つたようになる。

木に登るのが遅いからでんにとられる。二月下旬からは脂がぬけてますい。皮が薄いから日本ではなめせない、フランスに送つてある。ねらふと卵型に見える。鼠がまるまっくなつたやうにチマチマしてゐるが、暫くすると大きくなつて見えるので、そこをねらつてうつ。ヤマドリ、雪どけ頃は北に向つて足跡がある。大雪がどさつと降ると、ヤマドリがとれる。

ヤマコトバ

| | |
|------|-------|
| うさぎ | カル |
| さる | ヤエ |
| かもしか | ボー |
| からす | クラ |
| ち | クロツハチ |
| みそ | ノリ |
| | ヒチ |

○ 村制

藤原は、ヨゴ、ナカゴー、イリに分れてゐたが、今はイリが第一区、ナカゴーが第二区、ヨゴが第三区になつてゐる。この区が又各大字に分れ、大字にジッヂ、ヨーがある。伍長とはいはなかつた。ムラ、クミ、シンルイといふことばがあるが、祝儀、不祝儀の時、まづ集るのはシンルイ、それからクミ、次にムラである。特に冬うち葬式の時は雪が深いので、自分のタミ（部落）だけでは、雪を除くことも難かしいので、ムラの者に手伝つて貰う。

このタミとムラとの関係は、

オギノイリとセキガハラ

ハラヒトヒトセダ
ニシヨコハマ

モロイリとクボ
アケガワヒトオーサワ

といふ風に組んでゐて、オギノイリに葬式があるときはオギノイリが

クミ、セキガハラがムラ、セキガハラに葬式があるときはオギノイリがムラである。

この関係は、ヤネガエや田植の時にもあつて、クミは弁当持参で手伝いに来るが、ムラの者にはお昼を出す。（関ヶ原阿部氏）ニンソク、ゆひの事をニンソクをかへすといふ。

前日に五日かけて貰つても、今は三日位しかかへさない。

○ 年中行事

ドンドンヤキ 一月十四日。おしめや松を子供が集める。よく燃えるやうにワラクサを出し合ふ。大人がよく燃えるやうにたばね、御幣を一番高い所にユツケケル。夕飯を食べてから「ドーロクジング、ヨーイ、ヨーイ」と呼ぶと、そろそろ大人が出て来て火をつける。燃えの早い年は豊作である。ドンドンヤキの火にあたると厄病にかゝらない。モエクジは持つて届り屋根に投げる。ヨーサリ火の光で人の影がうつらないと、その年は危い。

コトヨーイカ 二月八日と十二月八日には、座敷の窓の数だけ籠を外に出しておくと、鬼が恐がる。

フブキ 冬でつぼうに春ばくも夏ようつり（魚釣）に秋ぎのこといつて、春はフブキといふばくちをやる事が多かつた。

オーヤマノクチ 五月のチュウの日（伊勢歴には出でる）にカリシキを刈りに山へ入る。この日を過ぎれば何處の草を刈つてもいい。（関ヶ原阿部氏）

ボンダナ 朴の木を一本、仮壇の前に立てて作り、タブチをとつてまく。ムエンボトケは別に低く目のボンダナを作る。

ハツカイサン 八月一日。竿の先に蠟燭をつけて、八海山にあげますといつてともす。

ジューゴヤ 餅をついてあげる。

トーカンヤ 子供たちが「トーカンヤ、トーカンヤ、アサンバキリノ、ヒルダンゴ、ニーメシタッテ、ブタタケ」と、まきわらで、地面を叩

き、もぐらが出ないやうにする。

マツグイ 門松にはヒノキ(ひば)をしんにして、周間に松をつける。大沢では、しんになら木を使ふ。

○ 神 祭

お十二様 月々の十二日は十二様の日で、春秋には営林署でもお祭する。たきての飯は十二様に必ずあげる。山で昼を食べる時も、十二様の分といって、一箸二箸とておく。昔は笛の葉にオコジョ二匹しんせた。オコジョは沼田から買った。白い乾した魚だ。

獲物をうつた時には「十二様アリガトーガンシタ」といふ。熊の腹を割くとタチイがある。これを食つてはならない。その場で十二様にあげる。

山かせぎをするものは「十二様ニ火ヲアゲマス」といって火を消さず立ち退く。フタミドリ、ニホンダチといって、根本が一つで幹が二つの木は、十二様の木だから切らない。鎌のやうに枝の出でるカマエダの木も切らない。ニホンダチの木を切つたり、山に行つて石を転がすと、十二ケニソムイタといって、ばちがあたる。

バンダイモチ 五合煮たのを一串につける。

これはねり方があつて、鍋の中でねる。十二様がきらひだといふので味噌をつけたがらない。クラシシの脂をぬる。

ワカキムカエ 三ヶ月から十日までのうち、曆を見ていい日に山に入り、木の切株にオサゴをふりかけ「十二様今年も木をくれて下さい」といって、もみちを切つて来る。十二様にお茶をあげ、それからはどんな大木でも切つていい。

十二様は三味線の講釈はきらふ。太鼓の話女の話は十二様が好きだからいい。犬がねごとをいふと十二様が喜ぶ。

十二様は男の神様で、十二人の神様の集りだと思う。

ホタカサマ 旧六月二十四日。各大字から一名づゝ出て、里宮まで

草を刈り、ミチカリをする。

お籠りをするものもあるが、村の者は二十五日の早朝お参りする。「女人禁制ひがしやま」といって、昔は十三才以上の女は登れなかつたが、今は構はない。

ホタカサマに雨乞をして、裏見の滝で、和尚に拝んで貰つたら、ホルタ(九太)を滝に投げこんだ。すると細引のやうな雨が降つた。それから「武尊山に願をかけるのはいいが、あれほど事をしちゃならねえ」といつてゐる。

ハチマンサマ 昔八幡太郎が五里、五里の間にロジクして假宮をたてた。沼田、水上、その次に藤原の須田貝に泊つた。ここが今のハチマンサマのある所だ。

その次は尾瀬ヶ原の至仏の東、笠ヶ岳のわき小笠の頂上に達み切つた沼がある。その沼に泊つたが、人がゐなかつたのでお宮がない。千人、人が通れば道になるので、これが道になり、奥羽の人が通るやうになつた。

○ 言 葉

バタケ ウサギ オトナ ナズミ
などアカセントの違いが耳についた。

○ 妖 怪

テングダオシ 「今年もあつた。木もかへつてゐないし、何一つ遊んだけともない。谷に響いてひどいものだ。三人ともつらを見渡してしまつた。たしかに三人で聞いたんだから、迷信ぢやない。」

テーコハタキ ボンボンとヨーサリ音がする。十二様か何かの仕業だらうと思つてたが、遠くの方へ行くほど音がさえる。思ひ切つて近づいてみると、木のうろの中で、かけすより小さい鳥がないてゐた。

アズキアライ 「アズキアラーベー、ヒトツタケベー、ザックザック」と砂をかんますやうに聞えた。いたちのこうろへたのだといふ。

○ 前光・ト占

ヒガナル 火が音を立てて燃えると、コージンサマが笛を吹くといつて珍しいお客様が来る。

朝蜘蛛がおりると何か貰ふ。

女人が始めに来ると沢山お客様が来る。

桐の木を燃すと鼠がふえる。

戌の日に田植をしない。この日田植をすると枕めになる。

苗を束ねた葉の輪の中に、苗を植えるとカクノヤマイになる。だからこの葉は植えた方に投げる。

種子を蒔いてから三十五日目はコネーミ、四十九日目はオーネーミといつて田に入ってはいけない。

咽喉の骨 象牙でなるとさがる。

胸に食物がつかへた時は 人に知られないように、茶碗のいとじりを箸でつづく。

目のこみ 「鬼の目に砂一升云々」ととなへる。

コーデ 二親揃つてある末子に、鉄瓶のつるか、障子の穴から手を出

して、カミヨリでしばって貰ふ。

いば おさこを石の下に入れ、三日月様におがんしょする。

菜葉様のカオカクシトイつて、小さい布がお姿の前にある。この布の端をほぐして、いばをしばる。

2 青木沢

○ 居住

ヨキケヅリ 鉢はもとよりチヨーナもない時代には斧で木を削つた。

大黒柱にあとがある。
ケシネバコ 米穀。虫が出るといふので、炉ばたの近くにおいてあつた。

イッパイ・イッパイマス 二合五勺入る机、明治三十五、六年まではあつた。
バッタリグルマ 水うけが木の両端についてある水車。
シッタタキ 水うけが一方にだけついてゐて、片方には杵がついている水車。
○ 産育 古くなればブチャル（捨てる）。
ヘソノオ 体からテツソク離し、ヘソノオをカミゴクシにしばって切る。カミゴクシは二回廻してしばるしばり方。嫁に行く時までもつてあるもんだ。妻はヘソノオをぬらして拭くと直る。
エナは日蔭に埋める。ウブニ満に流さない。
オブアケイワイ 氏神様にお参りする。産婦がきれいになつて何処へでも出て廻ける。町のやうに七五三の祝はない。
ブマートレモチ・ブマタオレモチ 誕生日に一升について子供に背負はせる餅のこと。
○ 年中行事

オーダチ 年始と三月の節供には、嫁、婿は実家へオーダチといつて一尺二寸かく位の餅を切らずにそのまま持つてゆく。

ドンドンヤキ 一月十四日の朝お飾りをとり、丸めておしめでしばる。子供のために小さいのを作ることもあるが、子供は大概雪を踏む位。ぬけ毛を集めておいて燃やすと頭がやめない。平出・山口・関ヶ原は、昔ドンドンヤキをしたら厄病がはやつたといふのでドンドンヤキをやらな。

三月の節供には柏餅は作らない。丸めてアンビンを作る。

タナバタ もみじの木に短冊をつける。七日の朝川へ流す。雨が三粒でも降らないと厄病神が来る。

ポンダナ 杵の木を四本たてゝ棚を作る。山の花をとつて来てあげる。

作つてゐる花はあげない。

十五夜 団子を作らず、マルノモチの大きいのを一つに、豆を二本根を洗つて木ごとあける。十三夜は豆の代りに大根を二本あげる。

オクンチ 旧九月二十八日の朝、赤飯とおしきを重箱に入れ先を争つて氏神様へお参りする。部落ごとにタンチマツリの日が違ひ、この時は嫁。娘は実家に帰り一族だけでお祭りする。

カービタリ 十二月一日、カビタリモチをついて馬にも食はせる。虫上げだといふ。

(アマサケマツリ) 旧十二月四日。磯前神社のお祭、米を出しあつて、どぶろくを作つてのむ。子供も年寄も全部集まる。

コトヨーカ 厄神がお宮に集つてゐるからいかない方がよい。(八代氏)

ススハライ 十二月十四日はショードンケノススハライといつて日のいい悪いをいはないで焼払ひをする。(八代氏)

ダイシコウ 十二月二十三日。小豆粥を作り團子を握つて入れる。長い茅の箸でしんぜる。この時はダイシコーアレといつて雪が降る。

○ 言葉

ヨーテイカツサイ、ヤー

ヤスマツサイ、ヤー

お寄りなさいね又はお寄りなさいなどいふ感じを持つてゐる。男よりの方が、若い者より年輩の方方が余計使ふやうである。

○ 妖怪

キツネビ オキノイリの桑の木に蠍蟻ほどのあがりがついたことがある。

(アズキコロガシ) 峠の上に出た。

タマコロガシ 木の葉の中を、玉を転がすやうな音がする。

○ 前兆・ト占

年明けて始めて馬の肥出しに申の日は悪い。

はしか 天狗のうちわ—羽のうちわの形のものが神棚にあがつてゐる

一であおぐ。

疱瘡送り 疱瘡して、ついたのが判ると、表に赤い紙をつけたしめを張る。軽くすむようにならぬ紙を作る。今は麻がないから茅で作る。赤い紙で御幣を切つて棚にあげる。この棚は神棚にしんせておく。疱瘡のあたまが固くなると、赤飯を炊き、子供の頭にさんだはらをのせ、笹を二本とつて来て、それで湯を振りかけ、さんだはらは屋根にあげ、棚は三本辻に送り出す。

子供のある家では、子供が炉に落ちた時、すぐひあげるやうに、かぎだけに飯杓子を逆に吊しておく。

目ごみ ごみの入つてゐない方の目をこする

○ 1大芦の話者は中島多花恵氏(47)。2青木沢の話者は林栄(57)みき(50)勤一(30)の三氏である。

資料は分類民俗学文献目録(民俗学研究—民俗学研究所紀要第一輯—)によつて配列した。

藤原 話

とびこみぶくろ

藤原には蚊があないから、町に出て来て夜蚊帳を出されたが、つり方が分らない、そこで上の方を下につり、柱に登つて蚊帳の中に飛びこんだ。一晩蚊に食はれ、朝になり「とびこみぶくろにはこりた」といつた。

くろびやつかん

町から嫁を貰つた藤原の者が、舅の百ヶ日に、嫁の家に出かけた。うどんを御馳走になつたが、大変うまかったので、土産に買って帰ろうと思つたが、名前が分らない。百ヶ日、百ヶ日と皆がいつてゐたから、百ヶ日といふんだろうと思ひこんで「百ヶ日を売つてくれ」と店をたづねたが、なかなか百ヶ日を売つてくれる店は見当らない。根よく「百ヶ日

を売ってくれ」とたづねてみると、これは、百ヶ日によく切昆布を使ふから、きっと切昆布の事だろうと、「はい百ヶ日」と切昆布を売った。藤原に戻って、切昆布を茹で、食べたが少しもうまくなないので、「町でたべた白びやっかんはうまかったが、黒びやっかんにはこりた」といった。

(沼田町 小池いの氏63)

狩りのはなし

○と き

昭和三十六年七月二十八日

○はなし手 中島團次さん(明治三十三年生)

○と ころ 群馬県利根郡水上町藤原字明川

中島さんのお宅

井田安雄・前橋市立女子高校郷土研究部員

以下に記すことは、「熊とり團次」の異名をもつ中島團次さんにお聞きしたことである。

当日は、「大体民俗学入門」の質問事項を中心にして、中島さんと井田との間答の形ではなしをすすめ、その大部分を録音し、後に再生記録したのである。

問 それではこれから狩りのことについてお伺いしたいと思います。一番

答 あるところにないところがある。小屋がないときには、ひばの枝でもたてまわして露營だね。

問 そこへ泊ることはありますか。

答 泊る。水のないところは雪をとかして、飯盒で。地形はなるべく風の弱いところ。これは野宿といふ。小屋は山小屋という炭焼の小屋を利用するときもある。むかしさかんにやる時分は、小屋を夏場行つてなおしておいて、冬行けるようにだんどりをよくして、むかしはやつ

たが、今は氣にみしめねえからねえ。

問 それは炭焼小屋を利用する事がふつうなんですか。

答 ほかの小屋もあります。そのほかに露營する避難小屋もあります。

山の中で、上の方では、営林署のあいた小屋を無断だけでも利用しているところもあります。

問 山小屋の講造はどんなのですか。

答 むかしは、五十年ばかり前は、狩のためにつくつておいた。まどりは、三人か四人泊まれるくらいだから、間口九尺・奥行九尺・九尺まづかくぐら、木の葉をして、ろをつくつておいた。

問 そこには神様はおりましたか。

答 なかには信仰者はあるし、不信心者はあるし……。お十二様をまつてしましましたね。お十二様は、伐採師とか、獣の人が信仰しますね。まあ、行つたときだけ信仰します。

問 とくべつに何かお供えするものは。

答 朝ごはんをたいたとき、飯盒のふたにあげます。新潟県の獣師連中はまだかんにやりますよ。なら沢へ入つて、夏は小屋をおおして、七、八人で、九十九夜ぐらいまではやっています。今でも

毎年きてますよ。小屋おおしに夏場きてね。

問 十二様を小屋にまつるとき、その場所はきまつていますか。

答 きまつていません。新潟県のは、木に十二様と書いてねえ、高いところへあけておきますよ。

問 儀式めいたことはないんですね。
答 そうです。水上の獣師連にくらべると新潟の方が信心していますね。

問 かりゆうどのことはなんといいますか。

答 りょうしといいます。

問 狩りの道具はどんなのがありますか。

答 錐・なた・のこ。寝具類はほとんどちません。

問 狩りの支度はどんなですか。

答 今は昔のようじゃねえ、ナイロンなどのができているからね。

問 狩りの支度はどんなでしたか。

答 らぐつをはいたね。今はほとんどゴムぐつだけだ。

問 かぶりものにはどんなのがありましたか。

答 毛糸でつくったもうろくなんていうのをかぶつたね。

問 そのほかにはどんなものがありましたか。

答 つのづき、さんざくにラシャでつくったもので自分でつくった。

問 首に吹雪が入らないでいいことはいい。えりのところから、吹雪がは

いんねえで……

問 えものの種類にはどんなのがありましたか。

答 この辺では、スポーツとはいうが、かせぎだからね。今は金になるのは熊が主だね。てんまるが金になるね。むかしは、禁猲になる前、

かもしかがとれる時分はよかったです。内が食えたから。禁猲になつたから、猟師が少くなるんですよ。

問 禁猲にはいつごろからなったんですか。

答 いつごろかね。ちょっと二十年はこしているでしょう。

問 それから、狩りのとくべつのことばはありませんか。動物によつては地方の伝説にむすびついたものがあるとおもいますか。

答 かもしかのことは禁猲前はくらしといたね。今は全国的にかもしかといつてあるが田舎の方ではくらしといつたね。

問 ほかにありませんか。

答 むささびとももんがは、本当はちがうんだけど、あれらは書物じやねえ。猿のことはやえんとも言つた。やえん狩りに行くつて、むかしは、わしらが若い時分は……。あれは最近に禁猲になつたんで。以前はとれたんだすよ。かもしかが一回禁猲になつても、えてこうは禁猲に

なんなかつた。二回目のかもしかの連続禁猲になる時分、天然記念物

で猿は禁猲になつた。

問 そうですか。

答 今度は、狩りの方法なんですが、鉄砲でうつというのはいろいろ方法があるんですか。わなだとか……そういうのはなかつたんですね。

答 うさぎなんにはまあ、わなでとつたり、鉄砲でとつたりしたいね。

答 今でもやるけどねえ、だから大勢で猟に行く場合は甲種免状もとつて

いる人がまじっているんですよ。

問 それはどういうわけですか。

答 やっぱり銃のあれば、乙種じや、甲種からみるとねえ、捕獲する

場合、トラップでとなる場合に、甲種の免状がねえととれねえわけだ。

答 だから甲種免状も、大勢山へ行く場合には、一人ぐれえはとつた人が入つていつた。

問 じゃわななどは……

答 あれは甲種ですよ。乙種は鉄砲にかぎついたわけですよ。

答 そうですか。わなでとるのはうさぎぐらいですか。

答 そう。うさぎぐらいたねえ。

問 むかし、いのししのとり方など、別にかわつたことはなかつたですか。

答 やはり銃ですよ。まあ、犬がよければ銃をつかわねえ、犬がとるやつもあつたですよ。

問 大がおつてつてくつくんですか。

答 それから、けのものには通りみちがあるといいますが。

答 そうだかねえ、字でかけは同じだが、ことはでいうとトオリジだいねえ。

問 動物のきまつて通る道のことをそういうわけですか。

答 うさぎでも、くまでも、てんまるでもここがトオリジだというんだねえ。

いね。

それは特別のかたちだとか、まわりとの区別なんかわかるんですか。

答 山相でわかる。うさぎの通り路でも、てんの通り路でも、くまの通り路でも、トオリジというものは氣をする人は新ち氣節でなければ、大体、トオリジというのはわかるんですよ。まあなかなかつりがさかなつりへ行って、タキのかしらにいるとか、セジにいるとか、ミトにいるとか。やっぱりそれと同じ意味ですから、その道に入つていれば、トオリジというのは、長年やっている氣節はみんなわかってるんですよ。

問 その山相というのはどういうのですか。

答 山のかたちだいね。福島へ行こうが、山形へ行こうが、新潟へ行こうが、群馬であろうが、わしらが汽車で旅行へでも行ってみて、山をながめて、あの辺は熊の通りみちだとわかる。

問 そこでもちぶせをすることはありますか。

答 よく、わなをかけるなんかは、そうだね……たとえば、岩なら岩があつて岩の終えたところあたりは、岩が通れねえから、うさぎが通るから、そこへ通りかかってわなへかかる。

問 それから、狩りをする人について伝説はこの辺はどうですか。

答 どうもこの辺じゃ、そういう伝説はありませんね。かわいようだね。神様なんかはどうですか。特別信仰している神様はあるんですけど、ほかの職業とちがつて。

答 まあ、お十二様よりほかはないですね。山の仕事だからね。

問 そのお十二様というのは、さきほどのおはなしにもあつたけれど、かりうどの人でなく、山仕事をする人がですか。

答 一般に信仰しています。

問 あゝ、そうですか。

答 伐採師だとか、山へ仕事に行く人が。

問 そのお十二様は、その……どんな神様だといつてるんですか。

お十二様はまあ、山の神様としてあるからね。

問 山の神様はだれということはいわないのですか。

答 だれということとはいわないやね。ただ山の神様だ。

問 山の神様は、男といつてるんですか、女といつてるんですか。

答 まあ、いろいろのことを人がいっているから、どっちだか(笑)。

問 この辺ではなんといっていますか。

答 部落でいには、ここ山の神は、角をはえらかしたなんていふが……。

問 それは家の中の山の神ですか(笑)。ほんとの山の神はどうですか。

答 ここじや男になつらいねえ。

問 おまつりの日はいつですか。

答 まあ、二月の十二日……まあ、十二日の日をほとんどその御縁日とてあるわけだいね。山仕事をする人は、ほとんどの十二日の日には

よきだてなんぞはしないですよ。かつたりともしないですよ。氣節は十二日にはやるけれども、伐採師は十二日にはやすみます。

問 十二日の中で、とくべつにおまくおまつりする月というのはないのですか。

答 十二講といつて、十二まつりをやるんですよ。

問 それは何月ですか。

答 秋春二回はやらないね。山神祭として。十二まつりだね。

問 この辺の人はいづやるんですか。

答 二月か正月だいね、ひまなとき。

問 おまつりはどこですのですか。

答 その連中できるからね。大概きょうびは旅館でやらないね。水上あ

たりで、旅友会として、旅館で山神祭として、十二まつりを年一回ぐらいたずつやりますよ。

答 部落でも昔は全部やつたですよ。秋の十月一二日と、二月の十二日

に。

問 その宿はどこでしたか。

答 宿は十長の家でした。むかしは、伍長・十長といった。藤原あたりは大概十戸の小部落になっているから、十長（ジフチヨウ）と言つたもんですね。

問 十二講のおまつりの仕方についておしえて下さい。

答 お十二様のかけじでもかけて、それにおみきを、まあ一升あげて、あとはわかしてどんどんのんだ。おみきの方はひやでのんだ。あとはのみ放題のんだ。四升でも五升でも……たべものは

問 山の神が特に好む食べものはないですか。

答 さあ、そういう事はないでしょ。

問 特別の魚を食べるとか、好きだとか……

答 かしらつきといふことは言うわいね。魚をね。

問 石の宮なんかで、特別におまつりしてある十二様もあるわけですか。

答 そういうのはやっぱり熱心な人がね……

上野原を通って、湯の小屋との分れ道のところに、わしがあげたお十二様がありますよ。一年に十三だから熊を取ったから、めずらしいので

建てた。休み場所にも、涼しくていいところへ建てたんですよ。

問 十二様をまつる場所は、特別に信仰ということではなく、都合のいい場所へ建ててるんですか。

答 そうだね。昔はよく、獣にもうかるとお十二様を建てたんですよ。あれから上方（上野原の奥）へ石宮が三カ所も四カ所もあるよ。

答 それは、お十二様へ感謝の気持で建てるんですか。

答 そういうわけだね。別にどこへ建てるというよりも、ないね。狩りなんかへ行くときには、十二様へお参りして行きますか。

答 丁度、とおりすじなら、何かおさこでも持って行って、あげて行こうという。そっちの方向でなければしない。行く先のお十二様へあげるわけだ。誰かが建てたお十二様もいい。おさこでもちょっと、信仰者はあげちゃ行くね。

問 そうですか。十二様が特にしてはならないという事はないですか。

答 つまり、十二様がきらわれるようなことはないですか。

答 そうだねえ。大概お産の時、おかみさんがお産して、それに手でも出して、まあ、子供でもとりあげたとか、そういう場合、一週間ぐらいいは忌みます。不幸よりお産の方がお十二様はきらいますね。不幸なら三ヶ月でも過ぎればいい。

問 イミの期間に、狩りにでもかけると、こうなるという事はないですか。

答 そういうことはないんですけど、まあ、自分の気持だいね。昔から人

が言っているから。

問 それから、話しがちがうのですが、鉄砲のことを他の言葉で何んと

か言つていませんか。

答 鉄砲は鉄砲といふ言葉が一番古い言葉で……

問 鉄砲が使われる前は、とび道具としてどんなのを使つましたか。

答 そうだね。やっぱり……今は機械がよくなつて、鉄は銃でもブローニングちうやつもできたり……、二連発でもできている

し……昔はかんうちなんちう……、わしらはかんうちでは狩猟はしてみなかつたよ。

問 かんうちといふのはどういうのですか。

答 つちをあげて、そこへかんをはさんで、こうふつと出して、中の火薬へ火を入れる。（こここの所、説明不分明）

答 見るにや見てるけど……、どうもわしらは……かんうちの前が火なわになる。その前はやりだいね。

問 やりを使った話はないですか。

答 わしらは、やりを熊の穴つかりへ最初は木についちゃもあるった

ですよ。柄を長くして、やりを先につけた。鉢の具合のわるい時には、

穴にいるやつを、やりで熊をつくんだ。その子供にね、今じゃ機械が

よくなつて、鉢に故障がこないから……。

問 うつたけれど、たまが出ないときは、やりでやるわけですか。

答 そう。大勢できょうびは行く場合には心配はねえからね。機械がよくなつているから。

問 狩りの時もって行くのは、予備のやりとか、なたぐらいですか。

答 今はヨザレといふけど、木の板つべらのつえにつけるやつを持って行くですよ。つえつござつていいってんだけね。

問 長さはどのくらいですか。

答 四尺ぐらいで、巾が五寸ぐらい。木はなんでもかまわない、家で造つていく。

問 それは何に使うんですか。

答 雪を掘る時使う。通りづらい時には道を掘ることもあるし、また、雪を掘つて土穴に冬眠している熊なんかを……。やっぱりえんぴの

ようなものの柄でもぬいてもって行つてもいいが、重いし……。

問 持つて行くものは大体そんなところですか。それから狩りの場所のことは何か特別に言つてあることはないのですか。

答 場所のことはどうも……。まきがりでもする場合にはヤバといふ。ヤバというのをはつて、大勢で人をくばつておいて、中にえのものがいふと、こっちからおつてやるんだね。この場合には、二手にも三手にも分れる。片品の方へ行くと、タックをはるというが、水上だの越後だ

のは、ヤバをはるというだけどね。ここに熊がいる場合には、いきそななどころへ、本ヤバといふんだがね、カタヤバと、こういうふうに、鐵砲ぶちをくばつておくわけだ。それでこっちからおいてが三人なら三人で追いこんでやると、この人のところへ行くか、この人のところへ行く。

へ行く。そこへ追つて、熊なら熊を追つてやるのをホンヤバ、カタヤバという。

問 そうするとたつてているのは、大体三人ぐらいですか。

答 いや、人間によつちや、今いう山相によつちや、三人じや、ここへもにげこむとか、という場合には三人にかぎつたことじやねえ。

問 これをなんといふんですか。

答 メアテといふんだね。カタヤバ、ホンヤバ、この間がメアテ、これはいく人でもいい。カタヤバへ二人いる場合もある。山のかつこうによつて、新潟県なんか、でかでかに七人ぐれえいるからねえ、おいこ

が三人ぐれえ、四人ぐれえいるからにがさねえ。オイコはナリコともいう。(オイコは) ホラホラとおつてついたり、空砲をぶつて追つてお

く。メアテは、谷ならあいむかいにいることもあるんだよ。このあいむかいにして、合図する人があるんですよ。ほら、カタヤバへ向いて

行くぞ、ホンヤバへ向いていくぞと言つて合図する。

問 その指図する人はなんといいますか。

答 これは別に……。メアテぐれこんで、責任はねえわけだ。ホンヤバのあいむかいにいる人をメアテともいつて。人手がないと、ここまででは人をくばねえだよ。だから、人手が大勢でなければ、こんなところへやらねえ。

問 一人でいく狩りのことは何といいますか。

答 一人で行く狩りはなんともいふのがねえ、共同で行く時は、共同がりといふ。

問 人のありかけんで……、どういう意味だか、七人がりといふのは

このまなかつたね。

答 人数は大体どのくらいなんですか。

問 人のありかけんで……、どういう意味だか、七人がりといふのは

このまなかつたね。

問 人数で、何人がりといふ場合もあるんですね。その中で、中心にならる人は……。今のホンヤバですか。

答

そう、おやかたがホンヤバだね。ぶちてのうまい人がおやかたになつて、それがホンヤバに立つ、あとのは、ナリコが新参者だね。一番経験者がホンヤバ、あとのがカタヤバだね。なれないものは、大概ナリコの方へまわるんだね。うちはすして心配して、あたまをやまなくもいいから。

問 その親方になる人はどのくらい経験がいるんですか。

答 まあ、年が若くても、器用、不器用でね。上手な人と、度胸のいい人だ、度胸がわるいけりやだめだね。

問 別に年数はないのですか。

答 そんなことはねえ。それでも新潟県あたりは義理がたいから、年数長年やつたような人をうち手の方へまわすけどね。水上あたりでは、上手で度胸のいい人がうち手の方へまわる。へら(舌)を出しておわれから、せえきってはあるはあいつくりや、「三間先ぐれえおつかなくなるからねえ。だから、度胸がよくなければダメですよ。逃げる人があるんですよ。度胸のわるいもんをヤバに出したつてあんまりえらいけしきでいくからね、おわれるんだから、先に人がいるたあ知らねえで、あかいべらを出してはあはあといつて、二十貫も三十貫もじやぶつなとしてあるんだがね。近かよらしてぶとてとあるんだから、度胸のわるい人じやだめだいね。

問 近いといつて、距離なんかどの位ですか。

答 ぶちはずしてけがでもすると、なんねえから、二間や三間によせねえで、五、六間でぶつた方がいいんだね、あんまり近かよらしてはんやにでもするとなれ、てめえでかんむしられて、けがでもするとバカを見るからねえ。

問 はんやというの。

答 手負いにすることだね。

問 えものをうつた場合に、これはまいったということはすぐわかるん

ですか。

答 わかりますよ。それでも熊なんか猛獸だから、息をしているうちは、あんまり近よらねえでみてるんだね。はあ大丈夫だと思つても……まだ逃げるかも知れねえという場合は、二発も三発もぶつけどね。

問 それはおれでからですか。

答 逃げて走るかぎりやぶつけど、逃げる氣づかいがなければ、二、三間の所で見てる。そのうちに息をひきとる奴もあるからね。

問 あつかい方は、あれですね……

答 まだほかにいま一つという場合には、そんなものにはかまわざ……

問 すんだ場合には。

答 すんだ場合には時間の関係で、小さいものだら、ひきさげる連中と、あと又時間ががあれば狩つておる。時間がねえかぎりは、途中でもちさげなんだね。泊るところまでね。

問 そのひきさげる人はきまつてているのですか。

答 そう、やっぱり新参者のものがひきさげる。

問 その場でわけることはしないのですか。

答 熊なんか、今は金になるからむかねえからね。まるで金にするからねえ。

答 一貫ぬいぐらでね。買ひ手に売つてしまふ。買ひ手は電報でもうつてよびよせる。それでうる。

問 むかしの分ける方法はきまつていなかつたんですか。

答 まあ、禁獣にならねえ前は、カモシカなんかさかんにとれる時分は、にくわけをしたですよ。

問 その方法は。

答 肉をみんな、五人なら五つ山にするんだ。山にわけてくじ引きにする。一番矢も二番矢もねえ、平等に分けた。誰かくじを出す、肉を二貫分ずつ山にしておいて、長くじをひいた人がどれをとるというふ

うに、おくじをのつけておいて、くじを出しておいて、くじを出した人はのこりのくじをとる。

問 そうすると、同じくじを二本ずつつくつておいて、一本のくじはいくのところへおいて、同じもの(くじ)をひけばそれでわかるわけですね。

答 そう。そう、その肉をうちへもってきて室内でわける。能だつてむいた場合はそらするんですよ。

問 その場でむいた場合ですか。

答 そう。胆と皮は金にするとしても、にくはむいた場合はそらするんですよ。

問 胆と皮を金にした場合は、どういう風に分けるんですか。

答 みんな公平ですよ。

問 特別の部分をとくに分けるということはないんですか。あたまとか

答 ないですよ。そういうところは別にしておくからね。

問 この辺では狩りの分け前というのは平等ですね。

答 ええ、平等です。むかしはいろいろの欲のふかい人なんかいると……今はそんなわからない人はいねえからね。

問 むかしは平等でもなかつたんですね。

答 人によつてはなかなか……しつたあ余計にやるべえなんて……

問 その一番いい部分はどこですか。例えば熊でいうと。

答 まあ、ロースとももだね。

問 皮と胆は、むかしも平等に分けたんですか。

答 いや、むかしから皮と胆は金額を見積つて、誰でもひきうけてえ人にまかせた。ほしい人に、金額をきめて、その人にまかせた。その金は公平に分けた。

問 肉の分け方はどんなんだったんですか。

答 てづかみといふのは、今まで、いいかけんのみつもりだね。いい肉

を六人なら六人分山にしておいてまた、わるい肉も公平に分けて、同じような山をつくつて、くじ引きにした。ほんとの差はねえわけだ。

問 またくり返しになるんですが、えものを見つけた人だとか、しとめた人だとか、そういうことの区別なく分けていいわけですね。

答 ぶつた人も、いつこうぶたない人も、わりまえは同じだいね。たま代なんてことはない。

問 それから、えものの肉を山の神様にあげるということはしないですか。

答 肉かね。そう……能なんかダチというやつを、お十二様にしんぜたんだいね。むいた場合は、ダチというのは内職にあるんだが、医者でいえばなんだいね。むかしからダチといつてはいるが、まづくろいべロみたいなもの。わしらは煮てくつたことはねえが、うまくねえとおもんだけど。

問 それを近くの十二様にあげるんですか。

答 いや、どこでも。

問 ダチといふのは、十二様にあげておいたのをさげてくわないのですか。

答 くつたつてまずいから。…………二十匁もあるかな。

問 それから、狩りに参加しないで、そばにいたはいはどうなるんですか。

答 見ていたんですけど、むかしのその獣の儀式からいと、たとえ一人でとつても、ほんとのなわをかけないうちに、あとからほかの獣師がかけつけた場合はわけてやる。

問 なわをかけるといふのは、ひきおろすことですか。

答 そうそう、まあ一人でぶつけえして、ほそびきでつなぐわけだね。

問 つなぐといふのは、

答 しばるわけだね。それは今でもいってますよ。くびでも足でもどこでも、それをする前にかけつけければ多少わけてやんなくっちゃあなん

ねえ、そういう儀式がむかしからあった。今でも、そういうむかしからのことを獣師は大概知っているから。人情的にひとえだくれよかといつて……ひとえだというのは、足でも手でも肉のついたやつを関節からはなしたもの。

問 分けることを何とかいわないのですか。

答 なんともいわねえね。

問 その分ける理由はどういうのですか。かけつけた人に分けてやるという理由は。

答 むかしからのいつたえだ、獣のむかしはきまりまであつたらしく、ぶつかえしてもなわをかけねえうちは、わりめえをやるという。むかしは、かけつけた人に公平に分けた。

問 もし一人でとった所へ二人かけつけたらどうしましたか。

答 やっぱり三分の一ずつやつた。だからえものを見つけてやろうとして段取りをつけている所へ来りやあしめたもん、そういうのが運がいい。

問 わけまえの単位は。

答 一えだのはかは重さでいった。えもの大きさによつて違う。一えだは、三十貫もある熊たどりと一えだといつても、四貫もあるからね。

問 結局、手なんかの時は一えだというし、ほかのところは貫匁でいうのですね。

答 そう。

問 じゃ、いた人の分け前だと、どこをどの人がとるというきまりはないのですか。

答 ああ……きまりはない。あとからきた人はやっぱり遠慮するからねえ、適当に分けてもららかうからね。

問 犬を連れていた場合、犬の分け前はどうしますか。

答 昔はそういう歎の深い獣師もあつたわけだが、最近そういう事は言

わなくなつたいね。

問 じゃあ、犬に分け前をやらんですか。昔はやつたんですか。

答 昔はいい犬をもつてゐる人は、犬の食いぶちぐれえはくれやあ、なんという欲の深い人もあつたけど。

問 別に人間の一人前ではないんですね。

答 ああ、そうじやあないね。その時の氣によつて。犬がよけりやあ人間の一人前どころか二人前も働くこともある。犬の分としては、今はあげねえようだね。

問 犬を一人でつれてきて、えものをとつた人がいたとする。そこへ犬をつれてまた一人の人が来たとすると、昔はそれを半分に分けたわけですか。

答 二つに分けた。

問 犬の分なんかなかった。犬の食いぶちとして分けてやつた事もあった。

答 少なかつたから、むかしは犬が少なかつたので、まあ宋代として分けやつた。

問 大勢で行つた場合に、犬をつれていた人にとくにやつたわけですか。

答 そう、そら、今は犬をつかう人が多いけどむかしは犬をつかう人がそれから、この辺ではえものを幾日も追つてきてその揚句にいとめた時にその場合の分け前はどうですか。

問 そんなことはねえ、公平にやつていくから。

問 内の事を何といいますか。

答 にくという。

問 体の各部分の名前は……

答 せにく、えだにく（手と足）、どうにく、それだけだねえ。

問 その中でどこが一番いいのですか。

答 せにくと、ももだね。

答 かんぞう。焼いてくって胃腸のくすりになる。くまの胆は万病のくすり。

問 くまの胆を、とくにとり出して売る事はないのですか。

答 これが一番金になる。昔から金の値段と同じといっていた。今でも金のねだんと匹敵しているようだね。むかし金が五円する時分だって、熊の胆は五円してたんだから、今の相場でいっても、ながら同じようだね。

問 今はどの位ですか。

答 一匁で二千円ぐらいでしょ。熊の大きさによって、熊の胆の重さはちがう。冬眠中の熊の胆が一番重い。食物を食べないから、ふくろにあるだけは、水があるわけだ。出かけて食べものを食べるときになると、ものを消化するために水を出す。

問 それを分ける時はどうするんですか。

答 分けようとすると、ほして切つてもわけねえと分らない、水だから。新潟県の方では越中富山の薬を使わねえかわりに、自家用の熊の胆のないうちはないですよ。それだから水上あたりでとれた熊の胆も、ほとんど新潟県へ出している。そうするとまるで出している正物もんということがわかるからね。秋田あたりの熊の胆を買うと、ぶたのしょんべんぶくろに百草でもつめたんじやないかというたぐりをうけるからね。南魚沼あたりでは、どのうちへ行つたって自家用にないちはないね。おき薬は使わねえですよ。その代わりには、きずができればきずへ、さかづきへとしてつける。まなく(眼)がわるけりやまなくをあらつたり、つけたりする。新潟県はどつかうところはねえね。どこがわるくとも、熊の胆をつかう。

問 この辺からずっと行くんですね。

答 ええ、おとくいだよ。小さい熊の胆を買う。熱上げにもなるし、胃腸にもいいし。

問 この辺ではつかっていないんですか。

答 胃腸薬と熱上げぐれえだね。

問 はなしは別ですが、狩りに行く時のおまじないはないのですか。

答 人によっては……きまつた唱えごとなど聞かねえね。

問 出かけに縁起のいいとかわるいとかいうことはないですか。

答 それはいますよ。まあ、ちょっと今日は山へ行こうと思つても、家内で言い合いですればよさいね。

問 縁起がいい場合はどんな時がありますか。

答 まあ、きげんがよく山へ行く時が一番いい。人によつたら、お茶前にくもがくるところや縁起がいいなんていって、くもをつかむようだ、なんという人もあるが。

問 方角なんかどうですか。

答 方向なんかわないのでね。まあ、神主なんかに言わせると、春はじめて、この方向へ行くともうかるという神主はあるが……。

問 一般の人はそういうことはいわないんですね。

答 ああ。

問 熊などを、取つた時等のおまつりは、どんな風にしますか。

答 とつた時、うちでおまつりますよ。四、五人でとつた場合は、ひ

きさてき始めた晩、酒にうどんでもつくつて、取つた家で相談してやる。神様はうちのお十二様の掛軸を出して、おみきでもあげてまつる。大概の人はお十二様の掛け軸を持っている。わしのうちじや大きい熊でもとつた時は青年衆を頼んでひき下げる。三十貫ものをまるでもつてくるのだから、若い衆の四、五人のんでひっぱつてくる。つなをかけてね。よいしょ、よいしょとね。その晩はみんな酒、魚で

おこつてね。

問 取つた場所でやることはありますか。

答 そういうことはないですね。

問 忌み詞はないのですか。

答 そういう事はありませんね。

問 狩りに行った時の便所はどうしますか。

答 どこでもかまわない。

問 山の中で出合つてもとてはならない動物とか方角はどうですか。

答 禁獣ぶつだけで、他はいないね。

問 狩りをしてはならない日はどうですか。

答 まあいわいい。春のはじめの、不淨日、あくにちは山へ行かない。

問 お正月にはいつから山に入るのですか。

答 二日が山びらき。家の近所でまとをする。まとをつくって銃でする。

二日には獣師は大概まとうちをする。まととの距離は、二十間とか、三十間とか、五十間とかで、銃の練習だねえ。自分の銃に自信をもたせるのだけれど。まあ、五十間ぐれえの所を、えものが逃げていったところを、うつても大丈夫とれる自信があるかという、そこをためすわけだいねえ。

問 まとをした場所はどこなんですか。

答 どこでもかまわねえですよ。人がいねえよな、あぶなくねえところだね。射的場は見はからってね。

問 やつた人はどういう人ですか。

答 まあ、獣師だね、自分の銃のくせをおぼえるわけだ。

問 そのまとが終つたあとで、なにかお祝いみたいなことをやりましたか。

答 やることもあるし、最近はやられえようだね。

問 むかしはどんな風にやりましたか。

答 むかしは、二月のお十二講に、獣友会がね、十二まつりを祝う前に、銃をもちあわせて、それをやつた。まとをやってから。

問 一月の二日にやつたのではないですか。

答 それは個人的で、最近になつて、獣友会の日どりの方が二日でねえ適当な日になつたからねえ。

問 獣友会の前は、正月の二日にきまつっていたわけですね。

答 そう、大概適宜、部落でやっていますよ。

問 まとは、部落単位で、獣師の人があつまつてやるのでですね。

答 そのときの場所は、あぶなくねえところです。道路などでは人が通るのであぶないから。

問 次に山のまつりについてですが、それが今おはなしの十二さまになるわけですか。

答 そうです。ほかにありません。

問 山の場所によつて、神さまはちがいますか。高いところ、低いところなどです。

答 同じです。十二様です。

問 山の神の供えものはどんなものですか。

答 おまつりにおしあとぎというか、米の粉を十二にこしらえて、大きさは適当におまんじゅうぐらいにこしらえてあげる人もあった。これはゆでないで、かたちに作つて十二あげました。お宮にあげました。そのほかに、かしらつきをあげた程度。

問 山の神のきらいなものはなんですか。

答 あんまりきかねえようだね。

問 山の神の使いとしては、どんなものがいわれていますか。

答 山の神の使いは、むかしはいたつようだが、今はいわねえようだ。

問 むかしはどんな風にいましたか。

答 むかしははすこしかわつたよなことがあると、山の神の使いだなん

ていて。わしらも迷信たかりで山の十二様なんてえのや、天狗様など

てえものはないおもつたら、いつかたまがされてから、そういう

ことをおおせなくたつたね。

問 それはどんな風なことですか。

答 それは丁度さかなつりへ行ったんだが、それまで、いわなの口へ

とまつて、夜が東が白んできたとおもつたら、相むかいで、でっかい

木がねえ、わいわい、どしんなんて、ごんごんごんところんで

来たんですよ。三人だれものをいう人がねえ。なんだろう、風もふかねえに木がけえるわけねえ。その木があれば不思議じやねえんだ、まあ、かざれなり、もつこげえりなり木があればね。ところが木がねえんだ。なんだろう、あれが天狗様とか、お十二様とでもいうのだろう、木の音はあつたんだが、ころんできた木がねえんだ。

ころんのような音がしたわけですね。

そのときは、三人で泊ってたんだ。一人なくなつて、一人まだオオアシというところに生きているけど、まあ、あ、いう不思議なことが

あるからね、お十二様とか、天狗様とか、ねえということはいえねえわけだ。

それはいつごることですか。

答 はあ、余程……丁度田植がすんで、田休みに魚つりにのぼった

んだから……大正……昭和になんなかつたね、大正の……そう

だね、大正八、九年だったかしんねえ。

そういう風な、かわったことがあるといふと、山の神様のしわざだ

とか、天狗様のしわざだと、かいう風にいっているわけですね。

それから、特別に山の神の使いといふものはないのですか。

そう……山の神の使いといふことはあまりいわねえやねえ。

オコジョとか、オコゼといふことはいっていないですか。

いわないねえ。

問 白い子犬のようなもので……

ねずみの大きいのを、オサキといつてゐる。

問 それはなんですか、山の神の使いだといふ風にこの辺ではいってる

んですか。そうもいわないねえ。

問 山の神の使いは別にいっていることはないんですね。オサキといふのが、どこかにいるわけですか。

答 山にはいます。山のオサキも、土地のオサキも同じようなものです。

山の方に多くいるね、里よりは人をばかすようなことはないですよ。ちよこちよこしてて、桑の木の根なんかへちょいとへえつちやいる。またでかけて、ひょととながめたり……。

別に飼いはしません。雪の降ったときなどにみかける程度、ねずみの小さい程度、なんとか名前があるかもしれないがこちの人はオサキといつています。

問 ふつうの人がよく見かけるんですね。

答 そうです。

問 山でおつかないのは天狗様ぐらいで、大男のはなしはないですか。

答 むかしは不思議なことがあったが最近はねえね。ひらけてきたせい

で……

問 どんな不思議なことがありますか。

答 不思議なことは、湯の小屋温泉の二里位オキだかねえ、飯場が立つ

ていて伐採師がのりこんでいたら不思議なことにや屋根を破つて毛だらけの手が、ぐつぐつにえいでいる五升だきの御飯を一つかみつかんで、

あついもんだから、ぶるっと手をふつたら、小屋中が御飯だらけになつたなんちゅう不思議なことが、むかしはあつたことは聞いている。な

にもののしわざかわからなかつた。

問 天狗のほかに何もきかねえね。

答 天狗のはなしはよくある。よきをつかつてゐる音なんぞは……

問 どんな音がするのですか。

答 カチン、カチン、とヨキをつかつて、しめえにヨキが早くなるんだね、カチン、カチン、カチン……とあいぎりきるようにな

パリッと木がけえる音がしてそれで木がねえんだ、倒れた木があれが十二げえりとか、天狗さまが木をけえたとか俗にいっている。

十二げえりとは、十二様が、木をけえたとみなしていわうわけだ。

問 天狗様が子供をさらうということはありませんか。

答 むかしはあつたらしいが……今はそういうことはさっぱりないね。むかしは不思議なことがあってわしはおぼえていねえが、わしらの子供の時分にはヤエガキということを唱えることをおしえただけど、

わしらの時代になってはそういうことをおぼえる気もなかつたし、おそる気もなかつた。ヤエガキということはまよけのとなえごとで、言葉はおぼえていない。山小屋でヤエガキをとなえておけば、小屋の中へまものがこないといつた。

問 狩猟の区域はありますか。

答 あります。狩猟時間ならどこへ行って狩つてもいい。狩猟免状に、他県へ行って狩猟した場合には他県の捕獲権が免状にある。その獣期が終つて有害駆除になると、他県へはいけない。有害駆除というは、獣期の期間外に、作物があらされたという場合とかに、ねがいを出すと許可ができる。これは県知事が許可をおろすので、他県の知事は許可はだせねえわけだ。

問 禁猟区ができる前の狩猟の区域はどんな具合だったのですか。

答 そういうことはなかった。その頃は無免許の人もはじめてやつた。今日ではそうはいかねえ。ゆるやかだが、一村一人ぐらいい免状をうけていれば、二、三人はじつたてわかるねえというか、それで通つてきた。今は嚴重になつた。

狩りよりもやまばなし

一、むかしは二十の微兵検査が終らぬうちに免状を出さなかつた。むかしは年がわからくも、年の大きい人にまじつてやつた。

二、狩りをしていてもくらせねえ、金がのこらねえというので、こんなウタがある。

ナツイオツリニ

アキギノコ

フュデッボウハ、フウフブリマラ
ヌマシマラ

三、獣師の上手下手はうまれつきによる。

獣師には、親方と弟子というよび名がある。

四、秋ぐまには、ふくろがあつても水(組)のないものがある。冬眠中のものにはある。

五、女熊が子供を二匹つれいる場合に、ミツダミという。

六、山の方へ桑とりのときなど女衆は鼻うたいながら桑とりをしていればいいという。(熊よけのため)

七、子供連れの熊は一番あぶない。人間をおびやかしてからにげようとするのであぶない。藤原で熊にかじられた人は四、五人ある。

八、熊に出会ったとき、にげられないときは、うつぶせになつて息をし

九、熊は肉好きもしはするが、果物も好む。

熊の好きなものは、こくもの、ふな、さくらんぼ、ならのみ、とうもろこしなど。

十、熊は大変子熊をかわいがる。子熊がおじけて、にげないでいると、

親もにげない。穴熊など、子をだしている場合など、棒でたたいても、息をこらしてにげないでいる。

(ふるさと 前橋市立女子高等学校郷土研究部より)

わらじの由来

水上湯原の由来は、七百年の昔に遡るといわれていますが、古くから清水峠を越えて越後路へ、また尾瀬を経て会津へ通する要衝であったようです。温泉のはじめについては、

四百年の昔一人の旅僧あり。利根の河中に湯煙の立ち昇るのを見て、石を重ね土を積み、三年近い歳月を費して苦心に苦心の末、温泉のひきあけに成功した。

当時村の名主として旅僧に宿を貸していたのが当家（水上館）の祖先であったが、八月のある朝、雨戸をひきあけると、一足のわらじが軒下の物干に、朝露に濡れてかかっており、爾來旅僧の消息は絶えてきくことが出来なかつた。

祖先その徳を慕い、わらじを以つて湯元の印とし、子孫に伝えていたとわが家の由来記に出ているのですが、その家宝として伝えたわらじも百年ほど前の火災で焼失致しました。

（金森山建明寺 大本堂改修落慶入仏記念供句木村義一氏稿より）

あとがき

昭和三十三年、「片品の民俗」に始った群馬県民俗調査報告書は、この「水上の民俗」を加え、第十三集となった。

民俗調査として、一府県単位に、これほど長期間にわたり、継続して行われた例を、私は知らない。十数年の調査は、毎年新しい組合せの調査班を作ることによる新鮮さと、緊密なチームワークにより、その成果をあげている。

形式的には、群馬県教育委員会主催から、地元の教育委員会ならびに上毛民俗学会の共催となり、今年からは上毛民俗学会が委託されたことになり、多少の変化を見たが、内容においては全く変りがない。

水上町には、「藤原覚書」（昭和二十五年）「山村の風俗と暮らし」（昭和三十四年）「藤原風土記」（昭和三十八年）「町誌みなかみ」等、近年にあたり民俗資料が公刊されている。

この「水上町の民俗」は、屋上に屋を架することなく、貴重な資料として、民俗学界だけでなく、関係諸学界に寄与するものと信じている。

この機会に、御協力いただいた地元の方々、ならびに調査員のみなさんには、厚くお礼申し上げる。

上毛民俗学会
代表 上野 勇

| | | |
|-----------|-------|---------------------------------------|
| わらのまくら | | 167 |
| ワラビ(わらび) | | 6, 20, 21, 23, 25 26, 69, 111, 125 |
| ワラビ粉 | | 20, 25, 26, 65, 68 |
| (わらび粉) | | 69, 73, 96, 218 |
| わらび粉とり | | 44, 125 |
| わらび粉とりのうす | | 68 |
| ワラビの根 | | 20, 25, 65, 68 |
| ワラビ掘り | | 44, 65, 68 |
| わらべ唄 | | 248, 278 |
| ワラミノ | | 11 |
| 割拌殿 | | 266 |
| 悪い夢 | | 87 |
| 悪口 | | 242 |
| わん | | 35 |

| | |
|---------|-------|
| 四カ村兼帯名主 | 2, 98 |
| 四合ぼた | 29 |
| 四升臼 | 228 |
| 四斗だる | 78 |
| 四本シメジ | 20 |
| 四本辻 | 84 |

ラ

| | |
|------|-------------|
| 雷雨 | 243 |
| 癪患者 | 81 |
| 雷歎 | 238 |
| 癪病 | 80 |
| 癪病の薬 | 80 |
| ラオ屋 | 78 |
| 落雷 | 88 |
| ランプ | 42, 66, 270 |

リ

| | |
|-----------|---------------|
| 離縁 | 182 |
| 立冬 | 32, 46 |
| リヤカー | 74 |
| 竈 | 241 |
| リュウケン堀 | 241 |
| 流産 | 52 |
| 竈タツ | 186 |
| 流木 | 47, 122 |
| りょうう師(獣師) | 61, 195, 233 |
| りょうう師仲間 | 64 |
| 両親 | 179, 180 |
| 両刃 | 265 |
| 両刃の舞 | 266 |
| 料理番 | 179, 180, 181 |
| 旅僧 | 151 |
| 隣家の火事 | 81 |
| 臨月 | 167 |
| 臨時集会 | 114 |
| 隣保班長 | 103 |

ル

| | |
|-------|-----|
| 留守居 | 194 |
| 留守の仏壇 | 217 |

レ

| | |
|------|------------|
| 冷害 | 61, 69, 89 |
| レイケン | 92 |
| 靈魂 | 210 |
| 礼服 | 15 |
| 礼回り | 118 |
| レン | 45, 46 |
| レンガク | 207 |

ロ

| | |
|---|---------|
| 炉 | 60, 275 |
|---|---------|

| | |
|-----|-----|
| 浪曲家 | 245 |
|-----|-----|

| | |
|-----|-----|
| 労作唄 | 282 |
|-----|-----|

| | |
|----|----------|
| 老人 | 143, 242 |
|----|----------|

| | |
|----|-----|
| 老衰 | 183 |
|----|-----|

| | |
|------|-----|
| ローフク | 156 |
|------|-----|

| | |
|-----|---|
| 労働着 | 6 |
|-----|---|

| | |
|------|----------|
| 浪人屋敷 | 230, 231 |
|------|----------|

| | |
|------|-----|
| 労力奉仕 | 119 |
|------|-----|

| | |
|------|-----|
| 六月一日 | 213 |
|------|-----|

| | |
|-----|-----|
| 六、三 | 141 |
|-----|-----|

| | |
|-----|--------------------|
| 六地蔵 | 147, 148, 161, 186 |
|-----|--------------------|

| | |
|-------|-----|
| 六地蔵石幢 | 148 |
|-------|-----|

| | |
|------|-----|
| 六字の旗 | 186 |
|------|-----|

| | |
|----|-----|
| 六尺 | 133 |
|----|-----|

| | |
|--------|--|
| 六尺ふんどし | |
|--------|--|

| | |
|----------|---------|
| (六尺フンドシ) | 13, 166 |
|----------|---------|

| | |
|----|----------|
| 六部 | 127, 139 |
|----|----------|

| | |
|-----|----------|
| 六文銭 | 184, 186 |
|-----|----------|

| | |
|----|---------|
| ロジ | 40, 245 |
|----|---------|

| | |
|----|-----|
| 炉縁 | 245 |
|----|-----|

| | |
|-----|----|
| 炉ぼた | 26 |
|-----|----|

ワ

| | |
|-------------|-----|
| ワカイン(ワカイシュ) | 111 |
|-------------|-----|

| | |
|---------|-----|
| ワカインガシラ | 111 |
|---------|-----|

| | |
|-----|----------------------------|
| 若い衆 | 13, 75, 177, 181, 232, 235 |
|-----|----------------------------|

| | |
|-----------|-----|
| 若い衆へのふるまい | 181 |
|-----------|-----|

| | |
|----|----------------------------|
| 若衆 | 65, 90, 174, 206, 214, 285 |
|----|----------------------------|

| | |
|-----|-----|
| 若衆頭 | 174 |
|-----|-----|

| | |
|---------|-----|
| (若衆頭)代理 | 174 |
|---------|-----|

| | |
|-----|-----|
| 若衆組 | 174 |
|-----|-----|

| | |
|-----|----|
| ワカエ | 20 |
|-----|----|

| | |
|----|-----|
| 若木 | 198 |
|----|-----|

| | |
|------|---------------|
| 若木迎え | 195, 198, 205 |
|------|---------------|

| | |
|---------|----|
| わかくくりばし | 76 |
|---------|----|

| | |
|------|---------|
| ワカサレ | 74, 245 |
|------|---------|

| | |
|-----|-----|
| 若夫婦 | 218 |
|-----|-----|

| | |
|----|----------|
| 若水 | 193, 197 |
|----|----------|

| | |
|------|-----|
| 若水汲み | 193 |
|------|-----|

| | |
|------|---------------|
| 若宮八幡 | 129, 139, 231 |
|------|---------------|

| | |
|-------|---|
| わかめ売り | 5 |
|-------|---|

| | |
|----|-----|
| 若餅 | 199 |
|----|-----|

| | |
|----|---------|
| 若者 | 96, 111 |
|----|---------|

| | |
|-----|----------|
| 若者組 | 111, 174 |
|-----|----------|

| | |
|---------|-----|
| 若者組の付合い | 111 |
|---------|-----|

| | |
|------|----|
| ワカレギ | 31 |
|------|----|

| | |
|-------|----|
| ワカレット | 74 |
|-------|----|

| | |
|-------|--------------|
| ワカンジキ | 6, 9, 15, 74 |
|-------|--------------|

| | |
|----|----|
| 脇差 | 92 |
|----|----|

| | |
|----|----|
| 伴製 | 57 |
|----|----|

| | |
|-----|----------|
| 若え衆 | 154, 219 |
|-----|----------|

| | |
|------|-----|
| 若え衆頭 | 174 |
|------|-----|

| | |
|------|-----|
| ワケナン | 245 |
|------|-----|

| | |
|-----|--------|
| 分け前 | 63, 64 |
|-----|--------|

| | |
|----|----------|
| 和讀 | 149, 211 |
|----|----------|

| | |
|-------|-----|
| わた(錦) | 170 |
|-------|-----|

| | |
|------|----|
| わたいれ | 90 |
|------|----|

| | |
|---------|----|
| 綿入れの半切れ | 17 |
|---------|----|

| | |
|------|-----|
| ワタゴ様 | 139 |
|------|-----|

| | |
|-----|----|
| 渡し場 | 76 |
|-----|----|

| | |
|----------|--------|
| ワタマジ(移徒) | 34, 35 |
|----------|--------|

| | |
|--------------|----|
| ワタリガユ(ワタリゲエ) | 35 |
|--------------|----|

| | |
|-----|-----|
| 渡り木 | 279 |
|-----|-----|

| | |
|-----|-----|
| ワタゴ | 139 |
|-----|-----|

| | |
|--------|----|
| ワタマシ祝イ | 34 |
|--------|----|

| | |
|--------|----|
| ワタマシの祝 | 35 |
|--------|----|

| | |
|------|---------------|
| 渡り職人 | 248, 277, 282 |
|------|---------------|

| | |
|----|----|
| わな | 64 |
|----|----|

| | |
|-----------|----------|
| ワニロ(わにぐち) | 186, 276 |
|-----------|----------|

| | |
|----------|-------------|
| ワラ(わら、藁) | 42, 84, 167 |
|----------|-------------|

| | |
|--|----------|
| | 202, 220 |
|--|----------|

| | |
|----------|------------------|
| ワラグツ(わらぐ | 6, 9, 13, 14, 17 |
|----------|------------------|

| | |
|--------|-----------------|
| つ、藁ぐつ) | 22, 65, 90, 118 |
|--------|-----------------|

| | |
|------|------------|
| わら細工 | 9, 38, 229 |
|------|------------|

| | |
|-----|-----------------------|
| ワラジ | 9, 13, 14, 15, 16, 66 |
|-----|-----------------------|

| | |
|-------|-------------------------|
| (わらじ、 | 73, 77, 78, 90, 91, 135 |
|-------|-------------------------|

| | |
|-----|--------------------|
| 草鞋) | 158, 187, 211, 219 |
|-----|--------------------|

| | |
|--|---------------|
| | 254, 261, 278 |
|--|---------------|

| | |
|-------|----|
| ワラジガケ | 16 |
|-------|----|

| | |
|------|----|
| わら仕事 | 38 |
|------|----|

| | |
|-------|-----|
| わらじぬぎ | 116 |
|-------|-----|

| | |
|-------|---------|
| わらじばき | 13, 164 |
|-------|---------|

| | |
|------|----|
| ワラシビ | 10 |
|------|----|

| | |
|--------|-----|
| ワラジをぬぐ | 116 |
|--------|-----|

| | |
|----------|--|
| ワラゾウリ(わら | |
|----------|--|

| | |
|----------|-----------------|
| ぞうり、藁草履) | 13, 16, 68, 186 |
|----------|-----------------|

| | |
|----------|----|
| わらぞうりづくり | 68 |
|----------|----|

| | |
|-------|----|
| わらたたき | 68 |
|-------|----|

| | |
|--------|----|
| わらたたき石 | 68 |
|--------|----|

| | |
|-----|----|
| わら束 | 38 |
|-----|----|

| | |
|-----|-----|
| わら俵 | 198 |
|-----|-----|

| | |
|--------|--|
| ワラデッボウ | |
|--------|--|

| | |
|----------|----------|
| (わらでっぽう) | 223, 224 |
|----------|----------|

| | |
|-----|--------------|
| わら籠 | 77, 200, 217 |
|-----|--------------|

| | |
|-------|----|
| ワラ長グフ | 14 |
|-------|----|

| | |
|-----|-----|
| 藁ニウ | 246 |
|-----|-----|

| | |
|-----|----|
| 藁人形 | 82 |
|-----|----|

| | |
|--------|-----|
| ワラのソトコ | 204 |
|--------|-----|

| | | | |
|-----------|--|------------|---|
| 湯株 | 96, 113 | ゆりやき | 215 |
| 湯カン(湯灌) | 184 | ユルリ | 38, 40 |
| 湯かん酒 | 184 | ヨ | |
| 雪 | 85, 88, 242, 246 | 夜遊び | 177, 219 |
| 雪おろし(雪下し) | 42, 115 | 酔い | 81 |
| 雪かき | 74, 75 | 宵節供 | 212 |
| 雪がこい(雪開い) | 10, 41, 42 | ヨイマチ | 143 |
| ユキグツ(雪グツ) | 13, 14, 16 | ヨイマツリ(ヨイ | 130, 135, 208, |
| 雪ゾリ(雪そり) | 74, 75 | 祭り、宵祭り) | 215, 234 |
| 雪の峠交通 | 73 | よい夢 | 87 |
| ユキバカマ(雪バ | 6, 9, 12 | 陽気 | 201, 203 |
| カマ、雪ばかま) | 15, 16 | ようけ舞 | 267 |
| 雪ふみ | 73, 115 | 養蚕 | 27, 36, 38, 39, 45, 57, 65 91, 121, 134, 218, 269, 287 |
| 雪ホリ(雪掘り) | 4, 73, 74, 115 | 養蚕當て | 157 |
| 雪道 | 73 | 養蚕龍 | 287 |
| ユキムロ | 6 | 養蚕信仰 | 143 |
| 雪除け | 81, 281 | 養蚕の神 | 39 |
| ユズリ | 188 | 養蚕(の)部屋 | 10, 60 |
| ユタン | 75 | 養子 | 123, 167, 247 |
| 湯の権利 | 113 | ヨウシッコ | 123 |
| 湯の小屋 | 3, 42, 70, 101 (湯の小屋) | 養子の盆腹 | 247 |
| | 235, 249, 252 | 用水 | 55, 115 |
| 湯の小屋温泉 | 7 | ヨエモン | 231 |
| 湯ノ小屋薬師 | 149 | ヨエモン潤 | 231 |
| 湯ノ小屋薬師堂 | 122 | ヨガ | 242 |
| 湯の花湯泉 | 7 | ヨカヨカアヤメ | 276 |
| 湯原 | 3, 99 | ヨキ(よき) | 208, 282, 283 |
| 湯原稻荷 | 141 | 余興 | 174 |
| 湯原温泉 | 7 | 余興舞 | 267 |
| 湯原赤 | 52 | 夜ダモ | 87 |
| 湯原神社 | 164 | ヨケグロ | 53 |
| 湯原地区 | 248 | 夜後 | 2 |
| 湯原の翁面 | 275 | ヨコザ | 40, 125, 244 |
| 湯原の諭訪様 | 133 | 夜後地区 | 256 |
| 湯原ばし | 76 | 夜後三ヶ組 | 96 |
| | 3, 74, 79, 80, 98 | 夜後三ヶ組獅子 | 256 |
| 湯桧曾 | 112, 120, 178, 215 226, 231, 235, 236 | 夜後部落 | 249 |
| 湯桧曾温泉 | 7 | 夜後村 | 98 |
| 湯桧曾川 | 80 | 横山 | 249 |
| 湯桧曾口留番所 | 80 | 予算 | 114 |
| 湯桧曾ぬすっと | 242 | ヨシ | 109 |
| 湯桧曾の開発の根 | 80 | ヨシ賛 | 39 |
| 湯桧曾の火事 | 116 | ヨシグシ | 35 |
| 湯桧曾の本家 | 75, 98, 128 | ヨシの墓 | 82 |
| 湯桧曾の湯元 | 113 | 吉本村 | 107 |
| 弓の舞 | 265, 266 | よせめし | 24 |
| 弓はじめ | 195 | よそいき(よそゆき) | 15, 178 |
| 夢 | 87, 196 | ヨタ | 233 |
| 夢まけ | 196 | | |
| ユリ | 20 | | |

| | | | | | |
|--------------------|------------------------|---------------------------|------------------------|----------------------------|--------------------|
| 厄病神 | 82, 208, 216 | ヤネコボシ(屋根コボシ).... | 28, 33 | 山ナシの樹皮..... | 18 |
| 厄病除け | 256 | 96 | | 山に入っては悪い日..... | 144 |
| 厄除け | 82, 174 | | | ヤマネ..... | 85 |
| ヤグラ(櫓) | 36, 287 | 屋根のふきかえ..... | 27 | 山のクチ..... | 120 |
| 櫓ノ構造仕様書 | 286 | 屋根の棟..... | 183 | 山の屋根..... | 242 |
| 矢車 | 212 | 屋根ふき..... | 33 | 山の怪..... | 234 |
| やけど(火傷) | 81, 82 | 屋根ふしん(屋根普請).... | 32, 33 | 山の神..... | 129, 143, 145, 209 |
| 焼け祭り | 209 | 181 | | 山の草..... | 45 |
| ヤゴイ | 242 | ヤネ屋(屋根屋)..... | 32, 33, 34 | 山の草刈り..... | 112 |
| 屋号 | 121, 122 | 35, 95 | | ヤマノクチ(山の口).... | 44, 45, 95 |
| 屋号の由来 | 121 | 屋根職人..... | 33 | 112, 113, 235 | |
| やさい | 61 | やねやぶるまい (屋根屋ぶるまい)..... | 34, 35 | 山の口の世話..... | 103 |
| 八坂神社 | 139, 215, 216 | ヤノムネ..... | 32, 188 | 山のしきたり..... | 64 |
| 屋敷 | 29 | ヤビラ..... | 34 | 山の仕事始め..... | 143 |
| | 127, 141, 142 | 矢びらき..... | 195 | 山の斜面..... | 242 |
| 屋敷福荷(様) | 171, 193, 206 | 山..... | 13 | 山の元締め..... | 281 |
| | 207, 227, 229 | 山犬..... | 44, 63, 139, 157 | 山番..... | 126 |
| 屋敷取り | 10, 29 | 山イモ(山芋)..... | 20, 24 | 山ヒバ..... | 44, 50 |
| 屋敷の神 | 29 | 山入り..... | 95, 112, 195, 206 | 山開き..... | 136, 214 |
| 屋敷の鬼門除け | 31 | 山ウド..... | 20 | 山伏..... | 141 |
| ヤシャ | 18 | ヤマカガシ..... | 133 | 山ブドウ(山ぶどう)..... | 20 |
| ヤシャの木の実 | 18 | やまがかり(邪魔懸り).... | 257, 259 | 山ミヤゲ..... | 28 |
| ヤシャの実 | 9 | 山羊..... | 73, 77 | ヤママ(やまめ)..... | 20, 64 |
| 屋印 | 121 | 山火事..... | 116 | 山元..... | 33 |
| 社吉利 | 259 | 山かせぎ..... | 57 | 山モモヒキ..... | 12 |
| 休み木 | 50 | ヤマキ..... | 121 | 山焼き..... | 50 |
| ヤスミダンゴ (休み団子) | 27, 45, 59 | ヤマギ(山着)..... | 11, 12, 16 | 山ユリ(山ゆり)..... | 20, 24 |
| ヤセ馬 | 209 | 山口..... | 33, 102 | 山シマユ..... | 170 |
| やぞう | 282 | 山口組..... | 99 | 八竜左衛門..... | 5 |
| 屋台 | 130 | 山口のこと..... | 98 | ヤンメ..... | 82, 83 |
| ヤチ | 242 | 山桑の木..... | 70 | | |
| ヤチ田 | 231 | ヤマゴシ..... | 85 | ユ | |
| ヤツカハギ(八束脛) | 232 | 山言葉..... | 242 | 湯アビ..... | 130 |
| や月子 | 246 | 山ゴボウ..... | 20 | ユイノウ(結納)..... | 118, 179 |
| ヤツタラ | 241 | 山小屋..... | 27, 28, 50, 209 | 結納祝儀..... | 107 |
| 八ツの九日 | 222 | 山仕事..... | 15, 28, 46, 49, 66, 85 | ユイノウの酒..... | 179 |
| ヤド(宿) | 117, 127, 157 | 86, 93, 208, 209, 277 | | ユイノウビラキ (結納びらき)..... | 118, 179 |
| ヤド番(宿番) | 117, 131 | 山仕事唄..... | 277 | ユイノウ目録..... | 179 |
| ヤドミソキヅン (宿味噌木損) | 44, 62, 115, 131 | 山仕事関係の俗信..... | 50 | ユイモン..... | 39 |
| ヤナギコウリ | 78 | 山ジュバン..... | 16 | 夕顔の汁..... | 85 |
| 夜尿症 | 24 | ヤマセ..... | 121 | 遊芸人..... | 78 |
| 屋主 | 116 | 山出し..... | 30 | タ立..... | 79, 88, 134, 243 |
| 屋根 | 34, 35, 84, 183 | ヤマデッポウ..... | 11, 16 | ユウハン(ゆうはん、 夕はん、夕飯)..... | 24, 28 |
| 屋根がえ | 10, 26, 28, 32, 33, 34 | 日本武尊..... | 7, 211 | 遊宝田..... | 232 |
| (屋根替え) | "35, 96, 112, 119, 120 | 日本武尊の舞..... | 267 | タメし..... | 279 |
| 屋根替り | 112 | 山ドリ(山鳥)..... | 26, 85, 182 | ユウモヨウ..... | 87 |
| 屋根替ふしん | 95 | 山鳥の羽..... | 57 | 床下..... | 170 |
| 屋根替無尽 | 33, 34, 120 | 山ナシ..... | 20 | ユカタ..... | 184 |
| ヤネガヤ(屋根ガヤ) | 46, 112 | 山ナシの皮(出梨の皮)..... | 9, 18 | | |

| | | | | | |
|--------------|-------------------------------------|---|---|------------|----------------------------------|
| 命名 | 171 | もじくさ | 82 | モリジメ | 228 |
| 明和のききん | 101 | モタシ | 20 | モリバナ | 198 |
| メータジ | 203 | モチ | 20, 24, 26, 27, 34, 118 (もち) 132, 172, 174, 182, 192 餅) | 森原渡し | 76 |
| メーホシ | 59 | 197, 209, 211, 212, 219 220, 221, 223, 224 | モレーニン | 245 | |
| 夫婦衫 | 130 | 餅アワ | 24 | もろ枝 | 50 |
| 妾 | 128 | モチグサ(もちぐさ、餅草) | 20, 209 | モロの諫訪さま | 133, 134 |
| メカゴ(めかご) | 38, 82 | モチ米(もち米) | 53, 86, 182 | モン(紋所) | 279 |
| めがねばなし | 76 | 餅さし | 219 | 門 | 220, 227 |
| 女神 | 201 | 餅つき | 160, 227, 228 | もんつき | 15 |
| メギバラ | 83 | もちつき臼 | 284 | 門徒 | 246 |
| メクリ(めくり) | 122, 203 24, 25, 28, 29, 117 | 餅搗舞 | 267, 268 | モンペ | 9, 12, 13, 16 |
| めし(飯) | 154, 157, 187, 224 234, 235, 279 | もちどうし | 72 | (モンペー、門牌) | 184, 185, 187 |
| 牝獅子(雌獅子) | 254, 256, 280 262, 263 | モチの木 | 208 | ヤ | |
| 雌(牝)獅子隱し | 250, 254, 257 | 餅をつく日(モチをつくる日) | 26 | ヤエンボー | 50 |
| めじじゃくし | 124 | モッコ | 37, 71, 72 | 八百万神 | 193, 223 |
| めしたき | 66 | 元肥 | 51 | 夜学 | 177 |
| めしのしゃくし | 82 | モトユイ | 81 | 屋がや | 29 |
| メジロ | 246 | 物置 | 10, 38, 39 | ヤカリマタ | 63 |
| メショウ(雌蝶) | 180 | ものさし | 123 | 葉かん | 85 |
| 目つぶし | 78 | モノダチ | 164 | ヤキカガシ | 206 |
| メド | 57 | ものづくり(モノ 作り、物作り) | 198, 199, 203 | 矢木沢 | 62 |
| メド觸い | 57 | モノ日 | 27, 148 | ヤキフバタケ | 51 |
| 眼のゴミ | 82 | 物見塚 | 241 | ヤキハガシ | 27 |
| 目の悪い人 | 149 | モノモライ(もの もらい、物もらい) | 82, 185 | ヤキハガシ | 215 |
| 目ぼうたる | 247 | モミ(もみ、穂)…85, 123, 185, 284 | 燒烟 | 51 | |
| メメズ | 245 | もみこなし | 235 | 八木節 | 277, 284, 286, 287 |
| メリング | 78 | もみじ | 218 | 八木節以前 | 285 |
| メンバ(めんぱ) | 29, 62, 211 245, 279 | モミジ(もみじ)の枝 | 198, 199 | 燒ぬか | 57 |
| メンバイト(板) | 39, 231, 245 | もみすり機 | 277 | 焼き飯 | 29 |
| メンドリ | 87 | もみとうし | 72 | ヤキモチ(やきもち) | 25, 28 |
| めん類 | 24 | もみの保存 | 55 | ヤキモチコ | 123 |
| モ | | もめん | 15 | 役 | 122 |
| モイササリ | 245 | 木綿糸 | 18 | 厄おとし(厄落とし) | 201, 202 |
| モイックジ(モニックジ) | 245 | 木綿織 | 91 | ヤクザ家 | 42 |
| 盲腸 | 83 | 桃栗三年柿八年 | 247 | 薬師 | 151 |
| 毛布 | 11 | 桃の枝 | 83 | 薬師様 | 39, 82, 83, 113 149, 151, 235 |
| もえさし | 245 | モモノ節供 | 210 | 薬師堂 | 122, 151 |
| モガリ | 87, 166 | モモヒキ(引) | 12, 13, 116 154, 261 | 薬師如来 | 126 |
| モギクヅバ | 46 | モモ(桃)ワレ | 17 | やく石 | 47 |
| 木材 | 95 | 桃割れ髪 | 270 | 厄年 | 160, 173, 174, 201, 202 |
| 木材運搬 | 77 | モヤ | 39 | 厄年子 | 173 |
| 木炭 | 44, 48, 73, 74, 99, 113, 154 | モヤイ | 50 | 厄年の人 | 202 |
| 木炭組合 | 113 | モヤイニン | 32 | 役人 | 122 |
| モグラ(もぐら) | 223, 224 | もらい方(買ひ方) | 111, 119 | 役場 | 182 |
| モグラ除け | 223 | もらひ方(買ひ方) | 178, 180 | 役始め | 196 |
| もし木置場 | 40 | | | 厄ばらい | 207 |
| | | | | 厄病 | 202, 203, 249 |

| | | | | | |
|---------------|-----------------------------------|--------------|---|------------|------------------------|
| ミゾデ | 246 | みもすその湯 | 7 | ムシズ | 25 |
| ミソナメ | 161 | みやげ | 209 | ムシツルベ | 56 |
| ミソナメジイサン | 161 | ミヤツ | 11 | ムジナ(むじな) | 44, 64, 92 228, 246 |
| ミソナメジイサン、バアサン | 161 | 宮参り | 169, 172 | ムジナフキ | 92 |
| ミソハギの葉 | 217 | ミヤツブ | 20 | むじなにばかされた話 | 236 |
| ミソふみ | 22 | ミヤモリ(宮守) | 143 | むしば(虫唐) | 83, 199, 201, 228 |
| ミソフミグヅ | 22 | ミヨウガ(みょうが) | 223, 224 | 虫封じ | 83, 173 |
| 道 | 74 | 妙見様 | 148 | 虫干し | 215 |
| ミチガリ | 4, 114, 115, 131, 135 (道切り) | 苗字 | 102, 126, 221, 232 | 虫よけ(虫除け) | 82 |
| ミチギリ | 85 | 苗字帶力 | 5, 126 | ムシロ | 43 |
| 道草刈り | 115 | ミルク | 169 | ムシロ(むしろ)織り | 247 |
| 道しるべ | 74 | ミロクスン | 76 | 無尽 | 119, 121 |
| 道ぶしん | 115 | 民家 | 270 | ムスピ(むすび) | 54, 119 |
| 道ふみ | 115 | 民謡 | 248, 253 | 結び豆腐 | 181 |
| 三日のオトキ | 188 | 民謡踊り | 253 | 娘 | 10, 17, 68 |
| みつくち | 167 | ム | | 無税地 | 145 |
| 三つ口(兎口)の子 | 85, 167 | 六日ダメ | 197 | ムトウ坊 | 231 |
| 三ツ身 | 19 | 六日年 | 197 | 裸上げ祝 | 32 |
| 三ツ峯 | 60 | 無縫仏 | 217, 218 | 裸上げの餅 | 32 |
| 三ツ峯講 | 156, 157, 221 | 迎え火 | 217, 220 | むな木(裸木) | 31, 50, 85 |
| 三ツ峯様 | 39, 60, 157 | 迎え盆 | 217 | 裸木祝い | 81 |
| 三峯神社 | 105, 221 | ムカシ | 232 | 裸札 | 195 |
| ミツメのボタモチ | 170 | 昔ばなし | 232 | 胸のつかえ | 84 |
| 三つ紋 | 179 | 麦 | 20, 24, 51, 65, 184 186, 204, 213 | 無報酬 | 116 |
| ミトドケ | 181 | 麦刈りの祝い | 213 | 無縫塔 | 83, 231 |
| 箕なおし | 78 | 麦のたねまき | 85 | ムラ(村) | 35, 116, 118, 119 |
| 水上 | 65, 66, 115 | 麦のノゲ | 83 | 村入り | 116 |
| 水上駅 | 149 | 麦まき | 91 | 村がら | 101 |
| 水上温泉 | 95 | 麦飯 | 24 | 村境 | 219 |
| 水上温泉群 | 248 | 麦ワラボウシ(麦藁帽子) | 11, 49 | ムラサキシメジ | 20 |
| 水上座 | 269 | ムコ(むこ) | 29, 33, 54, 82, 111, 116 118, 123, 124, 179, 180 | 村人足 | 115 |
| 水上振興会々則 | 110 | 蟹(蟹) | 181, 182, 187, 195, 209 | 村人の入口 | 82 |
| 水上七湯 | 241 | 蟹イチゲン | 179 | 村のカヤ場 | 33 |
| 水上電電所 | 98 | 向う三軒両隣 | 85 | 村の世話人 | 34 |
| 水上町 | 114, 269 | 向山 | 2 | 村の鎮守 | 154, 221 |
| ミナガワ | 38 | 向山村 | 98 | 村のつきあい | 100 |
| ミナクチ(水口) | 53, 204, 212 | 蟹方 | 182 | ムラのもの | 119 |
| 水口祝い | 212 | 蟹の親 | 181 | 村の役員 | 103 |
| 皆さんよび | 119 | むこの組 | 188 | 村八分 | 112 |
| 源頼朝 | 231, 263 | 無言劇 | 253, 268 | ムラヤク | |
| 源頼朝寄進 | 135 | 無言參り | 161 | (ムラ役、村役) | 95, 102, 118, 184 |
| ミネの三股 | 144 | ムサ | 245, 246 | 村役人 | 96, 120 |
| ミネバリ(みねばり) | 49 | ムシ | 245, 246 | 村湯 | 113 |
| みねばりの木 | 70 | 虫 | 82, 204 | ムラヨリエ | 114 |
| ミノ(みの) | 6, 11, 16, 17, 73 77, 164, 211 | 虫ぎらし | 19 | めいせん | |
| 己の日 | 19, 86 | 虫業 | 83 | 明治三十九年の冷害 | 102 |
| ミズ(みず) | 86, 245 | 虫消毒 | 60 | めいせん | |
| 耳だれ | 82, 173 | | | | |

| | | | |
|--------------|--------------------------------------|---------------|-------------------------------------|
| 孫ひこ | 247 | 丸津 | 57 |
| 正夢 | 87 | マンガ | 54, 66, 213 |
| マス(ます、鱈) | 20, 64 | マンガアレエ(マンガ洗い) | 54, 213 |
| マス(ます、橋) | 87, 127, 207 | 万才 | 236 |
| マスの塩やき | 64 | 万才とネコのはなし | 236 |
| マセ | 62 | マンサク | 88 |
| まぜ御飯 | 220 | 万作の吉利 | 259, 260 |
| マセッポー(マセンボー) | 245 | まんじゅう | 187 |
| まぜ餅 | 27, 226, 228 | まんじゅう笠 | 78 |
| 又イトコ | 217 | マンドウ | 214 |
| マタギ | 62 | マンノウ | 54, 71 |
| マタ木 | 46 | 万病の毒 | 172 |
| マタタビ(またたび) | 20, 246 | ミ | |
| マタタビの実 | 21 | み(箕) | 172, 173, 219, 221 224, 228, 246 |
| 松 | 180, 199, 202, 204 226, 227, 229 | 見合い | 178 |
| マツオウ | 20 | 見合なし | 120 |
| 松飾り | 200, 201, 202 | 三河万才 | 276 |
| 松吉利 | 259, 260 42, 198, 200 201, 221 | ミカン(みかん) | 83, 201, 202 228, 229 |
| マツグイ(松グイ) | | みかんの皮 | 19 |
| マッコ | 40, 245 | 三下半 | 182 |
| マッコブチ | 245 | 三国戦争 | 233 |
| マツタケ | 20 | 三国峠(三国の峠) | 77, 95 |
| マッチ | 118, 241 | 三毛猫供養 | 152 |
| 松の内 | 197 | みご | 83 |
| 松ノ皮モチ | 25 | ミコシ(御興) | 139, 214 |
| マフヒデ(松ヒデ) | 220 | みこしのお仮屋 | 239 |
| 松もらい | 201 | 見沢 | 256 |
| 祭り | 131, 174, 177 | 三島様 | 161 |
| マツリガカリ | 115 | 三島神社のご神体 | 138 |
| マフリダナ | 229 | 水あび | 214, 236 |
| 祭の日 | 249 | 水鉢 | 78 |
| 祭のまんどう | 99 | 水ごり | 183 |
| マト | 62 | 水帳 | 104 |
| マドウ | 226 | 水帳保管箱 | 104 |
| まとうち | 195 | ミズナ(みずな) | 20 |
| 窓木 | 144 | みずひき(水引き) | 252, 262 |
| マナコ | 86 | 水引幕 | 275 |
| まないた | 197 | ミズブサ(みずぶさ) | 81, 195, 198 199, 200 |
| 真庭組 | 127 | 水不足 | 164 |
| 真庭神明 | 97, 222 | ミソ(みそ) | 6, 22, 25, 27, 28, 52, 62 |
| 間引き | 120, 124, 169 | 味噌 | 158, 171, 172, 207, 225 |
| マブ | 86 | ミソザケ | 83 |
| マブシ(麿) | 38, 46, 60, 207, 208 | みそ汁(味噌汁) | 23, 33, 247 |
| マブシ織り機 | 38 | ミソたき(味噌たき) | 19, 22 |
| マブシガヤ | 112 | ミソダマ(ミソ玉、みそ) | 9, 17, 22 |
| マブリ | 19 | だま、みそ玉、味噌玉) | 23, 201 |
| マヘビ | 14, 60, 201 | | |

| | | | | | |
|--------------|---------------------------|-------------|-------------------------|-------------|-------------------------|
| 菩提寺 | 86 | ホホキ | 234 | 盆参り | 220 |
| 武尊 | 62, 94, 211 | ホマチ | 69, 125 | 盆むかえ(盆迎え) | 219, 220, 285 |
| 武尊川 | 237 | ほや | 40 | ホンムジ | 64 |
| 武尊越し | 225 | ボヤ置場 | 40 | 盆橋 | 287 |
| 武尊さま | 86, 139, 164, 216 | ボヤ切り | 141 | 盆礼 | 220 |
| 武尊山 | 6, 135, 215 | ボヤ作り | 91 | | マ |
| | 39, 45, 97, 116, 129, 135 | ボヤ(薪)の山 | 38 | アイ買い | 59, 78 |
| 武尊神社 | 136, 139, 193, 194, 211 | ホラアナ | 241 | 舞子 | 116 |
| 武尊神社 | 212, 216, 221, 227, 263 | ホラ貝い | 114, 141, 288 | まいし | 47 |
| | 264, 266 | ホリ虫 | 56 | 埋葬 | 186 |
| 武尊神社奥の院 | 135 | ボロ | 13, 43 | 埋葬許可書 | 184 |
| 武尊神社祭典 | 138 | ぼろおり | 18 | マイタケ(まいたけ) | 20 |
| 武尊様(武尊神社)の氏子 | 86, 139 | ほん | 118 | マイダマ(マイ玉) | 94, 195, 198 |
| 武尊神社のお札 | 137, 164 | 盆 | 26, 121, 177, 182 | まい(玉) | 199, 201, 207 |
| 武尊さまのお札くばり | 103 | | 217, 219, 220, 285 | マイ玉正月 | 199 |
| 武尊神社の神楽面 | 137 | 盆送り | 220 | まいたまだんご | 199 |
| 武尊神社の十一面観音 | 138 | 盆踊り | 248, 285, 287 | 舞殿 | 221, 266, 268 |
| 武尊神社の掃除 | 115 | 盆踊り唄 | 248, 277, 284 | 舞人 | 268 |
| 武尊神社の鉄の宮 | 137 | | 285, 286, 287 | | |
| 武尊神社の奉納品 | 137 | 盆ガラ | 215 | 前かけ(前掛け) | 11, 12, 78 |
| 武尊神社の祭り | 211, 216 | 盆行事 | 192 | 前吉利 | 259 |
| 武尊大明神 | 263 | 盆暮勘定 | 78, 228 | 前獅子 | 256 |
| ホタッコ | 42 | 盆暮れの仕着せ | 174 | 前知らせ | 182 |
| ホタ餅(ほたもち) | 27, 88, 180, 182 | ホンクロ | 215 | マエビキ | 67 |
| ほた餅 | 210, 217, 218 | 本家 | 113, 123, 126, 127, 184 | 前ヒサシ(前ビサシ) | 36, 38 |
| | 219, 220, 247 | 本家族館の釜がゆ | 226 | マキ(動物のグループ) | 242 |
| 牡丹餅をつくる日 | 26 | 盆ごさ | 220 | マキ(薪) | 6, 37, 89, 95, 112, 122 |
| ホタル | 243 | 盆さい | 122 | マキ(族制) | 126 |
| はたるとり | 277 | 盆様 | 220 | マキ(潤) | 122 |
| ボタンドリ | 277 | 本山犬 | 64 | マキ(田の面積) | 79, 89 |
| 墓地 | 85, 126, 186, 217, 227 | ホンシロ | 215 | 巻き狩り | 61 |
| ボッヂ | 32, 54, 119 | 本膳 | 179, 180 | 薪切り | 91, 237 |
| ボット | 245 | 本尊様 | 193 | マキケーン | 116 |
| ホッペ | 68 | ほんだらち(本だらち) | 19 | マキニユウ | 37 |
| ホッペタ | 245 | 盆だな(盆棚) | 216, 217, 219, 220 | マキマワシ | 131 |
| ぽてい | 78 | ホンツボ | 88 | マキメ | 245 |
| ボテつり | 73 | ポンデン(ほんでん) | 31, 84, 127 | 巻き物 | 120 |
| ほど | 25 | | 201, 202 | マクサ | 42 |
| ホトーバ | 188 | ポンデン岩 | 234 | マグサ場(まぐさば) | 45, 66 |
| 仏岩 | 233 | ポンテンマイリ | 219 | マグソ | 82 |
| 仏供養 | 94 | 本堂 | 183 | 枕 | 162 |
| 仏さま | 91, 124, 193, 197, 199 | 盆の行事 | 249 | マクラダンゴ(枕ダ | 27, 56, 183 |
| (仏様) | 204, 210, 215, 217, 228 | 盆の禁忌 | 220 | ソゴ、枕だんご) | 184, 198 |
| 仏様のしょい庵 | 220 | 盆の罠 | 234 | 枕直し | 183 |
| 仏様の正月 | 204 | 盆の食習 | 220 | 枕めし(枕飯) | 52, 56, 183 |
| 仏様のたたり | 87 | 盆(盆花) | 218, 220 | 184, 186 | |
| 仏さま(様)の年取り | 197, 204 | 本分家関係 | 126 | マクリ | 169 |
| 母乳 | 169 | 盆舞 | 245 | 孫 | 177, 236 |
| 骨 | 61 | | 267, 268 | マゴタロムシ | 83 |
| 骨ひろい | 85 | | | | |
| ほほかぶり | 16 | | | | |

| | | | | | |
|-------------|--------------------------------------|----------------------|--|-------------------|------------------------------------|
| ぶつぶし | 63 | ハイヨツリ | 26 | 方言 | 243 |
| 仏滅 | 184 | ヘート | 245 | 奉公 | 66 |
| 部頭 | 115 | ヘシモチ | 26 | 農作物の実入り | 203 |
| ぶどう | 20 | ヘソ | 81 | 坊さん | 147, 183, 196, 211, 236 |
| 不動様(不動さん) | 39, 86, 149 205, 247 | ヘソクリ | 125 | 豊葦祈願 | 143 |
| 不動様祭り | 205 | ヘソクリガネ | 125 | 坊さんの年始(廻り) | 196 |
| 不動尊御日待講中帳 | 149 | ヘそくり場所 | 125 | 法事 | 106, 188, 237 |
| 不動堂 | 97, 117 | ヘソノオ(ヘソノ緒) | 168, 171 | ボウシ | 148 |
| フトリ | 18 | ヘソマキ | 122 | ボウジメ | 193, 228 |
| ふとん(布団、蒲団) | 43, 91, 166 167, 183 | ベタヅチ | 57 | ぼうず(坊主) | 196, 197, 242, 282 |
| 布団がわ | 18 | 別座敷 | 180 | 坊主頭 | 174 |
| ブナ | 47, 49 | ベッヂョ | 245 | ホーゼキの根 | 169 |
| 船日待 | 132 | ベットウ(別当) | 130, 222 | 防雪 | 42 |
| フブキ | 122 | ベニド | 69 | ホウソウ(ほう) ホウソウ神 | 5, 84, 126, 160 (ほうそう) 161, 232 |
| フブキバクチ | 149 | ヘノコ | 245 | ホウソウ(ほうろく) | 84 |
| 父母 | 123, 210 | ヘビー服 | 61, 79, 84, 86, 87 93, 94, 133, 134 | ホウソウ神 | 84, 160, 161 |
| フミワケ | 74 | ヘビゴンキ(蛇ゴンキ) | 237, 245 | 包丁 | 197 |
| フユガキ | 6 | ヘビ酒 | 93 | 報徳社 | 114 |
| 冬仕事 | 47, 48 | ヘビのいびき | 237 | 豊年 | 203 |
| フユナカ | 61 | 蛇のぬし | 237 | ホウの木 | 220 |
| ヅヨ | 43 | 蛇洞 | 231 | ホウノ木の葉 | 130 |
| 部落総会 | 114 | 蛇の夢 | 87 | ホウの葉 | 128, 220 |
| 降りこみ線子 | 182 | ヘビ除け | 79 | 豊年踊挙行許可願 | 286 |
| 降り年 | 88 | ヘビヨケダンゴ (蛇ヨケダンゴ) | 93, 199, 201 | 訪問着 | 181 |
| 振子 | 250, 256 | ヘビ除けだんご | 79 | ボーリング | 113 |
| 古足袋 | 13 | 蛇を串にした急板 | 74 | ホウロク(ほうろく) | 25, 27, 205 207, 213 |
| ブルトーザー | 115 | ヘヤ | 167 | ホオカムリ | 10 |
| ふるや | 99 | 部屋住み | 123 | ほおたろ | 278 |
| フレ(ふれ) | 45, 46, 114 | 38, 83, 86, 160, 170 | 募金 | 114 | |
| 風呂 | 21, 33, 86, 91, 165 212, 227, 244 | 便所 | 171, 194, 199, 203 206, 218, 228, 244 | ほぐき | 203 |
| フロウ | 213, 220 | 160, 198 | 木刀 | 202 | |
| フロウマメ(フロウ豆) | 86, 127 | 便所神様(便所の神様) | 228 | ホクラ | 74 |
| ふろしき | 78, 188 | 便所参り | 170 | 鉢の舞 | 267 |
| ふろしき包み | 178 | 弁当 | 24, 28, 29, 49 77, 82, 116, 211 | 星 | 88 |
| 風呂たき | 91 | 弁当箱 | 245 | ほしうどん(干しうどん) | 118 218 |
| 風呂の湯 | 19 | 返問 | 252 | 干し柿(干柿) | 21, 118, 193, 228 |
| 風呂場 | 38 | ホ | | 干草 | 201 |
| 分家 | 123 | ホイト | 245 | 干草刈 | 112 |
| 分家筋 | 245 | 方 | 195 | 干草場 | 68 |
| 分湯 | 113 | ホウ(ほう) | 221, 222 | 干ししいたけ | 81 |
| ふんどし(禪) | 13, 133, 202 | ボー | 243 | 干せんまい | 170 |
| 分配 | 62 | 法印さま(法印様) | 39, 60, 92, 173 | 補習 | 177 |
| へ | | ホーク(ホウキ、ほうき) | 81, 84 | 補習学校 | 66 |
| ハイソク(幣束) | 84, 161, 219 | 宝きょう印塔 | 85, 204 | 墓羅簿 | 128 |
| 米飯 | 24 | (宝匱印塔) | 163, 231 | 保存食 | 23 |
| 兵隊 | 222 | | | ボタ(ぼた) | 10, 27 |

| | | | | | |
|----------|---------------------|-----------|-------------------------|------------------------------|---------------------------|
| ひね | 20 | 星ね | 86 | 富士山 | 7 |
| ヒネリヤ | 82 | ヒルメン(星飯) | 28, 279 | 富士浅間神社 | 135, 193, 211, 214 |
| ヒノキ | 10, 28 | ひるめし場 | 33 | 富士浅間大菩薩 | 7 |
| 桧繩 | 44 | 拾い親 | 173 | 父子相伝 | 256 |
| 火の神 | 244 | ひろう宴 | 180 | 藤の花 | 211, 212 |
| 火の乾燥 | 59 | ヒロ(ヨードリ) | 121 | 藤の花酒 | 211, 212 |
| 火の玉 | 233 | ヒロロ | 11, 17 | フジの実 | 20 |
| 火の番 | 116, 174 | 火渡り | 165 | ふじや | 99 |
| ヒバ(ひば) | 20, 21, 24, 197 | 貧乏神 | 42, 83, 229 | 不祝儀 | 15 |
| ヒデナオシ | 225 | びんぼうよめ | 124 | 不淨 | 196 |
| 火ぶせ(火伏せ) | 34, 42, 157 | フ | | | |
| | 203, 215 | ふ | 170, 172 | フジョウジュニチ | |
| 火伏せの神様 | 147, 225 | フウ(フー) | 221, 222, 231 | (不成就日) | 195, 196 |
| 火伏せの真水 | 34 | 笛 | 221, 252, 262, 266, 268 | 不淨日 | 196 |
| 紐 | 87 | 笛方 | 256, 263 | 1, 2, 3, 4, 5, 8, 22, 30, 47 | |
| ヒモドシ | 82 | 笛吹 | 250 | 48, 52, 61, 65, 69, 73, 74 | |
| ヒモダチ | 183 | フーキ | 20 | 藤原 | 75, 95, 98, 113, 120, 154 |
| 百姓 | 48, 101, 174, 196 | フーコカムリ | 10 | 169, 178, 210, 213, 235 | |
| 百姓しごと | 225 | (フウコッカブリ) | 10 | 238, 263, 270, 272 | |
| 百姓の神(さま) | 117, 154, 156 | フウコッカブリ | 16 | 藤原ことば | 246 |
| 百姓の正月 | 198 | フウッ葉 | 220 | 藤原下組 | 258 |
| 百姓のまつり | 191 | フウテ | 74 | 藤原下組の獅子舞 | 256 |
| 百姓の休み | 211 | 夫婦 | 124, 166 | 藤原中 | 26 |
| 百姓賣い | 173 | 夫婦の契り | 181 | 藤原中の總まつり | 216 |
| 百日参り | 126 | 夫婦養子 | 123 | 藤原青年会 | 174 |
| 百八灯 | 130 | 武運長久 | 183 | 藤原地区 | 248, 249, 273 |
| 百番供養塔 | 161, 162 | 深醉 | 81 | 藤原のかせぎ | 65 |
| 百万遍の珠数 | 152 | フキ(ふき、蘿) | 20, 26 | 藤原の区長 | 103 |
| 百目ろうそく | 270 | フキ(吹きこむ雪) | 42 | 藤原の祭典 | 263 |
| 白狐 | 141 | ふき上げ | 119 | 藤原の獅子舞 | 249, 252 |
| 日やとい(人) | 65, 120 | ふき替え | 10, 119 | 藤原の下地区 | 256 |
| 評議員 | 103 | フキカエシ | 62 | 藤原の諏訪神社 | 268 |
| 評議員会 | 114 | ふき掃除 | 91 | 藤原の祭り | 45, 249, 250, 255 |
| 病気 | 57, 164 | フキゴモリ | 34, 35 | 藤原村獅子舞之由来 | 262 |
| 病気直し | 211 | フキゴモリ祝 | 34, 35 | 普請 | 10 |
| 病人 | 24, 183 | 副食 | 9 | 普請帳 | 119 |
| 病人食 | 69 | 副食品 | 26 | 豚 | 82 |
| ひょっとこ | 266 | 副食料 | 20 | 舞台 | 164, 213, 262, 269 |
| ヒヨトリ | 247 | 吹き竹 | 178 | | 270, 274, 275 |
| ヒラ | 28, 242 | 吹流し | 212 | ふた子(二つ子) | 87, 173 |
| 平井権八 | 78 | 副葬品 | 184, 186 | 二つの名前 | 238 |
| 平出 | 249, 256, 269 | 福 | 206, 207 | 二又の木 | 46 |
| 平出 クンチ | 221 | 福の神 | 87 | 二またの松 | 202 |
| 平入り | 36 | 福は内鬼は外 | 206, 207 | ふだん着 | 15 |
| ひら膳 | 225 | 福引き | 149, 211 | ぶちうどん | 27 |
| 平付の種 | 57 | 不幸 | 185, 188, 194 | 仏事 | 23, 118 |
| ヒラツボ | 89 | 不作 | 29 | ブッタオシモチ | |
| 平舞台 | 272 | | | (ブッタオシ舞) | 172 |
| 肥料 | 45, 51, 52, 56, 113 | | | 仏だん(仏壇) | 39, 40, 87, 167, 170 |
| ヒル | 93 | | | 仏壇 | 216, 218, 220 |
| 昇御版 | 220 | | | フッチ | 17 |

| | | | | | |
|------------------------------------|---------------------------|---------------------|---|---------------------------|---------------------|
| 林氏の先祖 | 129, 231 | はんてん(半天) | 21, 90 | ヒクサ | 66 |
| 林万右衛門 | 261 | 半天半日 | 90 | ヒクサニュウ | 68 |
| はやり目 | 83 | 阪東館 | 270 | ヒクサの山の口 | 46, 112 |
| はやりやまい | 131 | パントマイム | 253, 266 | 日鞍をぶつな | 75 |
| 腹帯 | 166 | 半人夫 | 90 | ヒコオビ | 11 |
| 腹薬 | 83 | ハンノキ | 47 | ビゴガイド | 241 |
| 原組 | 99 | 榛の実 | 182 | ひさし | 38 |
| バラ種 | 57 | 飯場 | 234, 279 | ヒシ餅(菱餅) | 209 |
| ハラミ馬 | 52 | 半巾帯 | 11 | ひしゃく | 189 |
| ハラミバン(ハラミ箸) | 199, 201 203, 204 | パンマワリ | 103 | ビシャモンテン | 134 |
| 染 | 36, 38 | パンメーリ(晩参り) | 219 | 火たきじょうや | 281 |
| 針カエシ | 33 | 半めし | 24 | 干だら | 77 |
| 針供養 | 226 | ヒ | | | |
| 春秋の衛生検査 | 103 | 火入れ | 35 | ヒッカケ | 63 |
| 春一番 | 207 | 火打石 | 192 | ヒツギ | 186 |
| 春蚕 | 57, 121 | 火打ち金 | 179 | ヒップメ | 17 |
| 春祈禱 | 161, 194 | ヒエ(ひえ、 神)… | 9, 20, 21, 24, 44, 51 52, 55, 59, 75, 102 | ヒッパジキ | 187 |
| 春駒 | 194, 276 | …121, 184, 185, 186 | ヒッパリ | 126 | |
| 春ソバ | 52, 89 | 191, 204, 227 | ヒデ | 42, 62, 217, 219 | |
| 櫻名湖 | 30 | ひえがら | 202 | ヒデアカシ | 62 |
| 櫻名講 | 157 | ヒエ食地帯 | 9 | ヒデバチ(ひで鉢) | 41, 62 |
| 櫻名さん | 30 | ヒエダンゴ | 25, 27, 198, 202 | 一色餅 | 227 |
| 櫻名山 | 88, 89 | (ヒエのダンゴ)… | 25, 27, 198, 202 | 単衣 | 90 |
| 櫻名神社 | 88, 191 | ヒエボ(ヒーボ) | 200, 201, 204 | ひとえもの(ひとえ物) | 90, 214 |
| 櫻名神社講 | 157 | ヒエまき | 89 | ヒトオロギ | 89 |
| 春普請 | 33 | ヒエめし(ヒエ飯) | 9, 24, 54 | ヒトケ | 53 |
| 春祭り | 116, 195, 211 | ヒエモチ | 26 | ヒトケサク | 85 |
| 馬鉛箔 | 99 | 火返し | 49 | 一畠田 | 96, 249 |
| 晴れ着 | 15 | 東入り | 44 | 一畠田壠 | 55 |
| はれもの | 81 | 東かみなり | 247 | 一畠田の氏神 | 136 |
| 半うらない | 51 | 東山の武尊さま | 216 | ヒトダメ | 182 |
| 板木 | 114 | 日がま | 48 | ヒトタラ | 89 |
| 板木の合図 | 114 | ヒカリダマ(ひかり玉) | 182, 235 | 一ツカ | 89 |
| 半切り | 69 | 彼岸 | 26, 45, 51, 54, 68, 114 182, 201, 210, 221 | ヒツヅネ | 45 |
| 半切り桶 | 78 | 彼岸入口 | 27 | ヒツボ(一坪) | 89, 91 |
| ハンギレ | 11, 15 | 彼岸しまい | 27 | 一ツ身(一つ身、ヒツ身) | 19 |
| 半キレジュバン | 16 | 彼岸中日 | 27 | ヒトナノカ(ひと七日、 ひとなぬか、一七日) | 27, 185 187, 188 |
| 半毛 | 102 | 引唄 | 255 | ヒトヒロ | 89 |
| 半夏 | 54 | 弾き語り | 270 | ヒトマキ | 126 |
| 半夏生 | 213 | ひき口 | 47 | 一マド | 91 |
| 飯ごう | 211 | ヒキグマ | 61 | 人寄せ | 29, 90 |
| 晚秋菴 | 121, 247 | ひきまゆ | 19 | ひとより | 11 |
| 晚秋菴と味噌汁 | 121 | ヒキメ | 19 | ヒドロッ田 | 18 |
| パンダイモチ(パン ダイ餅、ばんだい餅、 ばんだいもち) | 28, 86 144, 145 208 | ヒキモノ | 35, 179, 181 (ひきもん、引き物)… | ヒナ飾り | 209 |
| 番茶 | 169 | ヒナ様(ひなさま、 ひな様) | 184, 187 | ヒナタ | 93 |
| 班長 | 102, 103, 117 | ひきわり | 278 | ひなまつり(ヒナ祭り) | 209 |
| 番長 | 131 | ヒク | 44 | 日向水 | 19 |
| ハンデ(ハンマー) | 42, 227 | ピク | 11, 17, 77, 211, 235 | | |

| | | | | | |
|------------------------------------|-------------------|------------------|--------------------------|-----------------------------|-------------------------|
| バクチ(ばくち)..... | 96, 231 | 八十八夜 | 211, 266, 268, 269 | 馬頭観音 | 145, 146, 147 |
| バクチウチ(バクチうち)..... | 85, 122 | はちぶせ..... | 64 | (馬頭観世音) | 160, 277 |
| バクチ好き | 122 | ハチマキ | 10 | 馬頭観音講 | 75 |
| バクチ場 | 122 | 八幡 | 97 | 馬頭尊の碑 | 76 |
| ばく徒 | 234 | 八幡宮 | 134, 218 | ハナ(芝居関係) | 270 |
| 白米 | 73 | 八幡宮石宮 | 135 | ハナ(小正月関係) | 198, 199, 200 |
| はくらく(伯楽) | 61, 65 | 八幡さま(様) | 228, 250 | 201, 203, 204 | |
| バクロウ | 75 | 八幡神社 | 219, 251 | はな(先端のこと) | 282 |
| バクロウ八才 | 75 | ハチミツ | 82 | 鼻 | 84 |
| 羽黒神社 | 134 | 初卯 | 234 | ハナアワセ | 122 |
| ハゲットウ | 241 | 初午 | 26, 27, 60, 94, 141, 143 | ハナオ(ハナ緒) | 13 |
| ばけネコ | 236 | | 199, 201, 207, 208 | ハナカキナタ | 200 |
| はげん | 54 | 初午団子 | 208 | ハナカゴ(花籠) | 184, 186 |
| はげん田植 | 54 | 初駄売り | 194 | 花籠踊り | 287 |
| ハゲンブロー | 213 | 初買い | 195 | 花笠 | 256, 262 |
| 羽子板 | 118 | 初会合 | 208 | 花笠役 | 256 |
| 箱入りびな | 247 | 八海講 | 157 | 花菫子 | 199 |
| ハコオトシ | 62 | 八海山 | 157, 160, 218 | ハナ金 | 121 |
| はさみとぎ | 78 | 二十日正月 | 199, 201, 205, 228 | ハナガンナ | 200 |
| はし(箸) ... 8, 82, 84, 171, 172, 224 | | 初ガマ | 47 | ハナシ | 24 |
| 橋 | 76, 85, 170 | 初雷 | 206, 207 | 花吸い | 256 |
| はしうつし | 85 | 初吉利 | 259 | ハナヅリ | 74, 75 |
| 橋かけ | 45, 115 | 初栗めし | 118 | はなてこ | 282 |
| ハジキ | 187 | 初クンチ | 221 | 花ドドメ | 57 |
| ハシゴ(はしご) | 37, 86 | 初子 | 126, 168, 169, 171, 181 | はなの木 | 70 |
| ハシゴコイ人 | 169 | ハッコウ | 89 | ハナ薯 | 203 |
| 橋詰 | 256 | ハッサク(八朔) | 139, 160, 182 | 花火 | 122 |
| ハシナタ | 198 | | 191, 218, 256 | 花札 | 122, 234 |
| 柱 | 31, 39 | 八朔の節供 | 218 | 花まつり | 38 |
| バスケット | 77 | ハッサク礼(八朔礼) | 218 | 花見世の座 | 260 |
| ハスの葉 | 217 | 初正月 | 192 | ハナミズ | 245 |
| はた(機) | 52, 86 | 初正月の年始 | 181 | ハナヌスピゾウウリ (花結びの草履) | 13, 94 |
| ハタアシ(はたあし) | 17 | 初筋供(匂) | 173, 209, 210 | ハナ餅 | 209 |
| 機糸 | 18 | バッタリグルマ | 21, 56, 212 | ハネイド | 245 |
| はた織 | 12 | 初誕生 | 172 | ハネ木 | 269, 270 |
| 機織りのオサ | 35 | 八丁ジメ(八丁じめ) | 82, 219 | はねばし | 76 |
| 機織の糊 | 69 | | 42, 46, 54, 66, 116 | 羽ばうき | 57 |
| 裸っ子 | 246 | | 119, 191, 228 | 母 | 122, 246 |
| 裸ろうそく | 157 | はつなり(初鳴り) | 81 | ハベキ(はばき) | 12, 13, 14 |
| 肌着 | 11, 170 | はつなり(初なり) | 214, 215 | 16, 17, 52 | |
| はたけ | 51, 123, 126, 246 | 初成物 | 118 | ハビロ | 67 |
| 烟の境 | 52 | ハッピ | 116, 279 | 羽二重 | 15 |
| 烟のさくきり | 90 | 初詣り | 193 | はま矢 | 118 |
| 烟の虫 | 207 | 初孫 | 209 | ハミ | 63 |
| はだし | 13 | 初物 | 118 | 囃子 | 257 |
| はだっこ | 66 | 初夢 | 195, 196 | 囃子方 | 250, 252, 256, 262, 268 |
| 旗本領 | 178 | 初嫁と妻 | 124 | 林小八郎 | 261 |
| ハチ | 84, 203, 205 | 初寄合 | 102, 120, 208 | | |
| 揆 | 252 | ハデ | 55 | | |
| 八十八の祝い | 177 | ハト | 52 | | |

| | | | | | |
|----------------|----------------------|--------------|---------------|----------------|-------------------------|
| ニワトコ | 208 | ネズミ(ねずみ、鼠) | 60, 61, 82 | ノメヒロ | 20 |
| にわとこの木 | 82 | ねずみよけ(ねずみ) | 93, 134, 157 | 野火 | 25, 52 |
| ニワトリ(にわとり、鶏) | 86, 139 245 | 除け、鼠除け) | 60, 82, 133 | 野辺の送り | 185, 186, 244 |
| 鶴の夜鳴き | 87 | ネキ(根雪) | 62, 89 | ノボリ(のぼり、 織) | 132, 165, 167, 173, 221 |
| 庭はき | 28 | ネラシ | 48 | 飲みぬけ | 29 |
| 庭見 | 258 | ネルメ | 25 | のみ(菫)の夫婦 | 246 |
| 庭見の唄 | 254 | 年忌 | 26, 188 | ノメシ(のめし) | 211, 212 230, 246 |
| 庭見の座 | 259 | 年忌の供養 | 210 | のめしもん | 216 |
| 姫姫 | 85, 88, 166, 167 | 年始 | 182, 194, 196 | ノメリ | 20 |
| ニンジン(人参) | 193, 197 | 年始客 | 194 | 野良着 | 17 |
| 姫姫中絶 | 169 | 年始まわり(年始回り) | 117, 118 | 呪い | 82 |
| 人足 | 34 | 年始通り | 194, 195 | ノロメ | 25, 26 |
| 人足帳 | 119 | 年に二度の葬式 | 189 | ノロメダンゴ(だんご) | 26 |
| ニンソクナラシ(人足ならし) | 115 | 年番 | 103, 104 | ノロメヤキモチ | 26 |
| 人足ヤクギ | 33 | 年番の宿 | 127 | ノンビ | 50 |
| 人足わり(人足割) | 56, 115 | 念仏供養塔 | 164 | | |
| | | 燃料 | 37 | | |
| ヌ | | | | ハ | |
| スカ | 57 | 野あらし | 157 | はあけ | 123 |
| 貫前神社 | 156 | 農家 | 38, 49 | ハアゲ | 182 |
| 貫前神社の講 | 156 | 納棺 | 184 | バサン(ばあさん) | 124, 161 |
| スクハイ | 88 | 農具に使われる木 | 70 | 灰 | 19, 51, 166, 167 |
| スコット | 245 | 農事署 | 79 | ハイコンチャ | 242 |
| スコットグモ | 87 | 農村歌舞伎舞台 | 269 | 灰のアクリ | 19 |
| 布 | 170 | 能の式三番 | 248, 275 | 灰のアク水 | 23 |
| 布きれ | 170 | 能の仕舞 | 248 | 灰焼き | 51 |
| スノコ | 170 | 能面 | 103 | 羽織 | 15, 179 |
| ぬのこ半天 | 16 | 農業でみられなくなった虫 | 243 | 羽織袴 | 179, 252 |
| 沼田様 | 121 | 農休み | 213 | 墓 | 183, 184, 187, 189, 200 |
| 沼田のお神明様 | 204 | 軒下 | 37 | バカ | 88 |
| 沼田の正覚寺 | 174 | 乃木将軍 | 284 | 墓直し | 188 |
| ヌリッカワ | 60 | ノキバッケ | 34 | 墓場 | 227, 228, 236 |
| ヌリデ | 203 | ノゲトリ | 83 | 墓場掃除 | 215 |
| ヌルメ | 53, 245 | のこぎり | 244 | ハカラ | 12, 13, 15, 16, 17 |
| ぬる湯 | 83 | 鋸ひき | 283 | (はか・ま、持) | 179, 186, 211, 264 |
| ヌ | | 锯屋 | 78 | 墓参り | 210, 217 |
| ネエサンカブリ(カムリ) | 10, 12 | ノコズリ | 92 | 墓参りだんご | 188 |
| ネーマ | 53, 245 | ノシ | 170, 179 | ハギ(はぎ) | 53, 61 |
| ネエバ | 56 | のしもち(のし餅) | 193, 198 | 掃立て | 57, 59 |
| ネエラ | 94 | 望(のぞみ)の庭 | 250, 255 | ハキタテユワイ(掃立祝い) | 57 59 |
| 寝棺(寝せ棺) | 184, 187 | ノヂ | 51 | はぎの山の口 | 45, 113 |
| ネギ | 197 | ノチ産(後産) | 168 | ハギの山の口明き | 112 |
| ネギタバ | 169 | ノヅチ | 235 | はき物 | 13, 14 |
| ネコ(散物) | 38, 58, 231, 235 | ノッポー土 | 51 | 履物類 | 172 |
| ネコ(猫) | 55, 85, 88, 226, 246 | ノッポー烟 | 51 | 葉切り包丁 | 58 |
| 猫なで声 | 246 | 野道具つくり | 184 | 博奕 | 234 |
| ネコばばあ | 236 | のどの骨 | 83 | 白菜 | 20, 197 |
| ねて食う | 86 | ノドヤキ | 20 | 白式尉 | 248, 268, 275 |
| ネドコ | 166 | ノコバンテン | 17 | | |

| | | | |
|---------------------------|-------------------------------|-------------------|--|
| 仲人送り | 181 | ナベのブル | 85 |
| 仲人親 | 126 | 鍋のふち | 86 |
| 仲人の妻 | 180 | なべもと | 9, 22, 124 |
| ナシ | 220 | ナマエの家(なまえの家) | 80, 131 |
| 梨の皮 | 18 | 怠け者 | 230 |
| ナス | 187, 217, 220, 226, 247 | ナマス | 127 |
| ナズナ | 197 | ナミノハナ | 164 |
| ナスの牛(なすの牛) | 217, 218 | ナミヤシカタリ | 245 |
| ナスの馬 | 220 | なめこ | 20 |
| なすびの鉢 | 196 | 納屋 | 9, 36 |
| なぜをき林 | 283 | ナラ | 49, 112 |
| ナタ(なた、鉈) | 62, 66, 93, 183 280, 281 | ナラザワオロシ | 242 |
| ナタネ | 185 | ナラの木(ならの木) | 47, 49, 70 |
| 名付け | 171 | ナラの実 | 9, 18 |
| 名付け親 | 126 | ならもたせ | 20 |
| 夏蓋 | 199 | 成木責め | 203 |
| 夏土用 | 56 | 成田山 | 157 |
| なっぽ(葉) | 24, 197 | なわ(纏) | 17, 33, 34, 62, 68, 76 89, 119, 218, 219, 223 |
| なっぽ(火) | 29 | 繩網 | 38 |
| 夏祭り | 111, 130, 172, 191 | 苗代 | 53, 203, 211, 212, 245 |
| 夏焼き | 47 | 苗代づくり | 192, 204 |
| ナツワリ | 114 | 苗代の水口 | 203, 204 |
| 七色唐辛子 | 52 | なわない(離ない) | 68, 90, 205 |
| 七草 | 197 | 繩ない機 | 38 |
| 七草ガユ (七草がゆ、七草粥) | 197, 227 | 繩の帯 | 184 |
| 七草正月 | 197 | 南京米 | 102 |
| 七草ゾウシイ(七草ぞう すい、七草そうせい) | 197 | 南京豆 | 69 |
| ななこ | 118 | なんご | 243 |
| 七種の物 | 197 | 難産 | 84, 87, 167, 169 |
| 七升ウドン | 155 | 南西の風 | 88 |
| 七升ブチのオガシショ | 155 | 南天 | 81 |
| なな月子 | 246 | なんど | 166, 167 |
| ナナフノナキハナドリ | 66 | 納戸屋 | 167 |
| 七ツ坊主(七つ坊主) | 166, 174 | 二 | |
| 七人講 | 155, 156 | 新潟 | 11, 33, 78, 178 |
| 名主(名主さん) | 88, 103, 120 178, 236, 283 | 新潟県 | 166, 286 |
| 名主入札箱 | 95 | ニウ | 246 |
| 名主年始 | 107 | 二階 | 38, 57 |
| 名主の書類引継ぎ | 275 | 二階の蚕室 | 58 |
| ナノカ(七日、七日の日) | 127, 188 | 二階の利用 | 38 |
| 七日ゲエリ | 85 | 二階屋 | 10 |
| 七日正月 | 197 | 二月八日 | 208 |
| ナノカの供養 | 188 | 握り井戸 | 10, 29 |
| なべ | 33, 82, 279 | にぎり飯(握り飯) | 28, 29, 222 |
| ナベカリ | 195 | 肉 | 26, 62 |
| ナベス:(鍋すみ) | 83, 88 | 二合おけえ | 29 |
| | | にごわめし | 27 |
| | | ニシ | 246 |
| | | 西入り | 44, 88, 178 |
| | | 西入カンダチ | 88 |
| | | 西宮大神 | 206 |
| | | 西宮大神宮のお札 | 117 |
| | | にしめ | 157 |
| | | 二十一夜待 | 147, 148, 155 |
| | | 二十三夜さま (二十三夜様) | 117, 156, 233 |
| | | 二十三夜塔 | 117 |
| | | 二十三夜の月 | 156 |
| | | 二十三夜待 | 157 |
| | | 二十二夜様 | 39, 155, 156 |
| | | ニシン(にしん) | 23, 26, 54 121, 213, 229 |
| | | ニシンヅケ | 26 |
| | | 二鷺 | 196 |
| | | 日用品 | 74 |
| | | 日露戦役の戦死者 | 129 |
| | | 日露戦争 | 102, 130, 139 |
| | | 日光様 | 129 |
| | | 日清戦争 | 130, 131 |
| | | 新田義貞 | 149, 241 |
| | | 日天月天 | 266, 268 |
| | | 日当 | 90, 115 |
| | | ニナイ桶(にない桶) | 71, 76, 77 |
| | | ニナワ(荷繩) | 17, 77 |
| | | 二人手間 | 54 |
| | | 二人扶持 | 232 |
| | | 三番きばな | 281 |
| | | 三番草 | 54 |
| | | 三番蒔き | 52 |
| | | 二百十日 | 164 |
| | | 二百十日の舞 | 267 |
| | | ニボー | 67 |
| | | 二總運懸(にはんがかり) | 257 258 |
| | | ニュウ | 33, 66, 68, 198 |
| | | 入家式 | 179 |
| | | 入れ祝い | 30 |
| | | 入植者 | 99 |
| | | 入植条件 | 99 |
| | | ニュウリのしり | 85 |
| | | 女房 | 81, 85 |
| | | 女人禁制 | 134, 136 |
| | | ニワ | 10, 57 |
| | | ニワ起き | 57 |
| | | にわがき | 47 |
| | | 庭清め | 266, 268 |
| | | 庭清めの舞 | 268 |
| | | ニワットリ | 245 |

| | | | | | |
|------------------------|--|---------------------------|-----------------------------------|---------------------|--|
| 年男 | 126, 192, 193, 197 198, 207, 228 | 隣組制度 | 103 | ドンドンヤキ | 128, 164, 174 (ドンドン焼き、 どんと焼き) |
| 年神さま(年神様、 歳神さま) | 192, 198, 199 208, 226, 227 228, 229 | 隣組長 | 102 | ドンドン焼き | 201, 202 239, 245 |
| 年神團 | 193, 229 | 利根川 | 30, 46, 122, 158 213, 234, 237 | ドンドンヤキの場所 | 204 |
| 年越 | 196 | 駁様 | 56 | ドンノタボ(どんのくぼ) | 174 234 |
| 年越そば | 228 | 駁田 | 55 | とんび | 277 |
| 年懶 | 205 | ど場 | 280 | トンボ | 243 |
| 年玉 | 192, 194 | 賭博禁止規約締薄 | 107 | 間屋 | 68 |
| 土質 | 51 | トビ(とび) | 280, 282 | 春龍上人 | 174 |
| 土質の呼称 | 241 | トビロ | 278 | ナ | |
| 年とり(年取り) | 197, 203 227, 229 | どぶ | 222 | 葉 | 26 |
| 年取り金 | 21 | ドブロク(どぶろく) | 22, 127, 130 131, 156 | 苗 | 89, 213 |
| 年とりそば | 197 | トボウ(斗棒) | 177 | ナイマ(ナエマ、 ナーマ、苗間) | 53, 85 86, 245 |
| 年取りザカナ | 229 | トボグチ | 207 | なえとり(苗とり) | 54, 85 |
| 年とりの晩(年取りの晩) | 227, 229 | どぼり | 47 | 長季 | 25 |
| どじょう | 77 | 土間 | 38, 39, 55, 80, 183, 245 | 長唄 | 253, 254, 258, 264 |
| 年寄(り) | 13, 68, 124, 168, 195 | 牛ます | 71 | ナカオキ | 28 |
| 年寄(り)組 | 111, 143 | トマト | 187, 243 | 仲買人 | 69 |
| 年寄り衆 | 154 | とまの座敷 | 244 | ながぎ(長着) | 12, 15 |
| 年寄りっ子 | 246 | とまの十二(様) | 195 | 中吉利 | 258, 259 |
| 渡世人 | 278, 279 | トマノメ(トマノメ イ、トマンデー、トマノ) | 36, 179 182, 186 | ナガグフ(長靴) | 6, 13 |
| 土葬 | 187 | デエ、とまのだい) | 216, 244 | ナカクボ | 122 |
| 土藏 | 57, 235, 252 | トマリソメ(とまり初め) | 178 | 中郷 | 96 |
| とそ酒 | 193 | 土まんじゅう(土饅頭) | 86, 183 | なかし | 46 |
| 土そり | 75 | トモ | 187 | ナガシ | 26 |
| 土ぞりひき | 29 | トメ | 34 | 中舞子 | 250, 254, 256 |
| ドタ(どた) | 77, 280 | 友引き | 169 | 中島の十二様 | 97 |
| トチ | 24, 68 | 富山の楽屋 | 184 | 長袖 | 11 |
| トチゾウセイ | 24 | トヨ | 145 | 長袖の石塔 | 154 |
| トチダマ | 23 | 土用 | 20, 23, 45, 52, 84, 89, 112 | 中つて山 | 283 |
| 土地の呼称 | 241 | 豊受大神宮 | 222 | 中のクンチ(ナカの九日) | 221 |
| トチの花 | 89 | 土用うち | 68 | 中のべ | 280 |
| トチの実、桜の実) | 20, 23, 27 | 土用のアキ | 52 | 中のり | 47 |
| トチモチ(トチ餅、柄餅) | 20, 24 | 土用のミツメ | 213 | 仲間同志 | 123 |
| とつぎ先 | 25, 27 | トラック | 74 | ナガメ | 68 |
| トツキトウバ(十月トウバ) | 168 | 寅歳の人 | 66 | ながむし | 134 |
| 毒ヶシ(毒消し) | 5, 77, 81, 197 | トラフ | 69 | 中村氏(中村家) | 128, 236 |
| 毒消し売り | 78 | トリ(狩のこと) | 85 | 中村グンチ | 221 |
| トトクイゲ(トトク クイゲ、とくい毛) | 84, 174, 245 | トリアシ | 82 | 長湯 | 167 |
| トトクビ | 173 | トリアゲバアサン (とりあげばあさん) | 168, 170 | 仲よし集り | 202 |
| トトゲ | 174 | 鳥追(い)笠 | 248, 252, 262, 264 | ながれ | 82 |
| ドドメ | 245 | 鳥追(い)行事 | 278 | 流れカンジョウ | 189 |
| 隣り近所の人 | 179 | とりの日 | 22, 53 | 流れ木 | 220 |
| 隣近所三軒の便所 | 170 | 取り結びの式 | 179, 180 | 鳴声 | 242 |
| 隣組 | 102 | どろぼう(泥ぼう) | 87, 245 | 薙刀の舞 | 265, 266 |
| | | トロロ(とろろ) | 172, 192, 193 | 投げ餅 | 32, 34, 81 |
| | | | | 仲人 | 118, 170, 178, 179 180, 181, 182, 212 |

| | | | |
|--------------|--------------------------------|---------------|----------------------------------|
| 手ヨキ | 28 | 天びん棒(天秤棒) | 76, 77, 78 |
| 寺 | 86, 183, 184 | デンブン | 69 |
| 寺へのご年始 | 195 | 天保鉄 | 237 |
| 寺の住職 | 237 | 天明の飢きん | 25 |
| 寺の年始 | 196 | ト | |
| 寺参り | 193, 210 | ど | 64, 280 |
| 寺間開息 | 231 | 土合 | 3 |
| 寺間の開拓部落 | 98 | とい(穂) | 115, 245, 282, 283 |
| 寺間の天狗様 | 233 | と石(砾石) | 67, 69, 245 |
| 照り年 | 88 | 砥石売りさばき | 69 |
| デロレン | 288 | 穂引き | 282 |
| 天あげ | 48 | 穂引きうた(唄) | 277, 282, 283 |
| 天あげ祝い | 48 | 穂引き団 | 282 |
| 天蓋 | 184, 186 | トイミ(問味) | 117 |
| 田楽 | 207 | ど入れ眼 | 277, 279, 280 |
| デンキノタマ | 244 | トウガ | 226 |
| テンキマツリ(天氣) | 89, 164 | 東寛坊の御師 | 88 |
| まつり(天氣祭り) | 256 | 胴ガラ | 62 |
| 電球 | 244 | トウカシヤ(十日夜) | 26, 88, 191 223, 224 |
| 天狗 | 92, 232, 233, 266 | 十日夜あれ | 88 |
| 天狗様 | 51, 233 | 十日夜の天気 | 223 |
| 天狗下 | 51 | 十日夜の餅 | 223 |
| 天狗のカラキオリ | 234 | トーキビ | 219 |
| 天狗のまつり(天狗祭り) | 234 | トーギミ(とうきみ) | 217, 245 |
| デンギルマ | 244 | 東京地下鉄寮 | 113 |
| 天狐 | 265, 266 | 道具 | 252, 262 |
| てんこの舞 | 266 | 洞穴 | 232 |
| 天井 | 23, 38, 47, 48, 55, 235, 274 | 唐ぐわ(唐縫) | 50, 51, 68, 74, 116 |
| 天井あげ | 48 | 峠 | 74, 235 |
| 天井祝い | 49 | 峠越し | 120 |
| テンジョウグロ | 53 | 峠のフケコシ | 75 |
| 天照皇大神 | 128 | 湯治 | 78, 133, 225 |
| 天照皇太神宮 | 39 | 冬至 | 61, 226 |
| 天照皇太神の掛地 | 181 | 冬至トウガ | 226 |
| デンシングイ | 244 | 冬至豆腐 | 226 |
| 天神講 | 155 | 当日のムラヤク | 184 |
| 天神さま(天神様) | 144, 210 239, 271 | ドウジョウハ払い(ドウジ) | 116, 147 |
| 天神ばし | 76 | ヨウハレニ(道場払い) | 270 |
| 天神マチ(天神まち、 | 155, 157 | トウショ | 121 |
| 天神待) | 209, 210 | 湯善薬師(湯前) | |
| 伝説破片 | 232 | 薬師(湯善薬師) | 149, 151, 211 |
| 伝染病 | 82 | 湯善薬師像 | 152 |
| 電柱 | 244 | 湯善薬師の義貴坊 | 151 |
| デンデンムシ | 244 | 同族 | 96, 126 82, 84, 128, 133, 159 |
| 電燈 | 42 | 道祖神(様) | 160, 201, 202 217, 245, 278 |
| 天王宮湖水神社 | 134 | 道祖神行事 | 278 |
| 天王さま(天王様) | 134, 213, 214 215, 216, 250 | 道祖神の眼 | 278 |
| 天王様の石宮 | 214 | | |

| | |
|------------|-------------------------------------|
| チャンチャン | 220 |
| (ちゃんちゃん) | 19, 170 |
| ちゅう着 | 15 |
| 中気 | 14, 81 |
| 昼食 | 33 |
| 駐在さん | 103 |
| 駐在所 | 177 |
| 中日 | 210 |
| 中蔵 | 18 |
| チュウヤド(中宿) | 179 |
| 中看 | 90 |
| 中若衆 | 90 |
| ちょいちょい着 | 19 |
| 町会議員 | 216 |
| 銃子 | 46 |
| 銃子の渡し場 | 76 |
| 銃子ばし | 76 |
| 朝鮮ビエ | 24 |
| チョウチン(ちょう) | 111, 160, 179 |
| うちん、提灯) | 180, 218, 219 |
| チョウチン番 | 111 |
| 長男 | 35, 92, 116, 123 186, 187, 194 |
| 長男のお産 | 168 |
| 帳場 | 184, 185 |
| 丁半 | 122, 203 |
| 微兵検査前 | 90 |
| 町民税 | 114 |
| 調味料 | 9 |
| 調理 | 23 |
| チョボクレ | 276 |
| 千代の松 | 232 |
| チョンマゲ | 17 |
| ちりめん | 19 |
| チン | 197 |
| 賞金 | 30 |
| チング | 166 |
| 鎮守(様) | 133, 134, 171, 194 205, 227, 231 |
| 鎮守の赤城様 | 171 |
| ツ | |
| 通婚圈 | 178 |
| ツーメエ | 122 |
| 通夜 | 185 |
| ツカ | 79, 89 |
| つきあい(つき合い) | 95, 116 |
| 月見 | 86 |
| 月見会 | 117 |
| 月見ダンゴ | 27 |
| つくりものの馬 | 220 |
| ツゲ(告げ) | 118, 183, 184 |
| つけ木 | 118 |
| つけにぐら | 67 |
| 柘植のくし | 82 |
| 漬け物 | 21 |
| 辻 | 173, 186, 217 |
| ツェュウダンゴ | 225 |
| 土入れ | 248 |
| 土ぼり | 49 |
| ツタウルシ | 83 |
| 頭痛 | 212 |
| ツッカケ(つっかけ) | 13, 14 |
| ツッカケグフ | 14 |
| ツッコミミソ | 23 |
| ツツジの花 | 210 |
| ツツジホーキー | 51 |
| つっぽう | 15 |
| つづら折 | 74 |
| フト | 229 |
| フトコ(つとっこ) | 26, 157 204, 223 |
| 綱懸(り) | 250, 254, 255 |
| 綱子 | 3, 17, 98, 269 |
| 綱子戸敷 | 96 |
| 綱子のさ流し唄 | 279 |
| 綱子の村落構成図 | 97 |
| 綱子ばくち | 242 |
| ツノガタシ | 10 |
| ツノズキン | 10, 17 |
| ツバ | 82 |
| ツバキ | 84 |
| つぶれ屋敷 | 101, 102 |
| つぼ | 193 |
| ツボッコ | 14 |
| つゆひき | 262 |
| 妻 | 10, 123 |
| 妻の実家 | 195 |
| 積立金 | 127 |
| ツムギ車 | 35 |
| つむじ | 245 |
| つり橋 | 122 |
| ツルイチゴ | 20 |
| 鶴亀 | 180 |
| フルクヅバ | 46 |
| フルゴシ | 85 |
| フレ | 46 |
| テ | |
| デイ | 12 |
| 亭主 | 85 |
| 出入口 | 29 |
| 帝国砥石株式会社 | 70 |
| 帝撰 | 266, 268 |
| デーコン | 197 |
| デーシ講(デエシ講) | 225 |
| デーシ講荒レ | 225 |
| デーシ講のダンゴ | 225 |
| デーシ様(デエシ様) | 225 |
| 手踊り | 285, 287 |
| 手斧 | 28 |
| 手かご | 17 |
| 出かせぎ | 65 |
| 手ガンナ | 67 |
| デキモノ | 61 |
| できもん | 84 |
| 出口 | 207 |
| 出耕作 | 3 |
| テコ持ち | 282 |
| テゴヤ | 234, 235 |
| 手提げランプ | 42 |
| 手傷 | 42 |
| 手染め | 18 |
| 手甲 | 11, 16, 17, 184 |
| ティコハッコ | 244 |
| ティサク | 49 |
| 手伝い | 34, 119, 120 |
| 手伝い・合い | 120 |
| 手伝ぼう | 279 |
| 鉄道馬車 | 74 |
| ツツビン(鉄ビン) | 83, 242 |
| 鉄瓶の口 | 85 |
| 鉄砲 | 63, 195 |
| ティボウジュバン | 16 |
| 鉄砲出し | 77 |
| 鉄砲流し | 279 |
| てっぽうばをり | 281 |
| 鉄砲ヅチ(鉄砲ぶち) | 70, 235 |
| テト馬車 | 74 |
| 手ドリ | 54 |
| てぬぐい | 10, 116, 118 |
| (手ぬぐい、手拭) | 178, 181, 182 187, 194, 202 |
| デハ | 185, 186 |
| 手ひき | 78 |
| 手袋 | 63 |
| 手弁当 | 119 |
| 手ボロ | 67 |
| 手間 | 65 |
| 手前弁当 | 33 |
| 出水 | 30 |

| | |
|-------------|---|
| タテナワ | 13 |
| タテバ | 49 |
| 立札 | 33 |
| タテマエ(建前) | 32, 85 |
| タテマタ | 47 |
| タドウシ | 121 |
| 棚 | 161, 218 |
| たな板 | 227 |
| タナカンジヨウ | 89 |
| タナコ | 122 |
| タナバタ(七夕) | 191, 213, 215, 216 |
| 七夕様 | 214, 215 |
| 谷川……… | 3, 62, 88, 94, 210, 235, 236 |
| 谷川おろし | 98 |
| 谷川温泉 | 7, 135 |
| 谷川カンダチ | 88 |
| 谷川信仰 | 6 |
| 谷川神社 | 134 |
| 谷用岳 | 6, 80, 134, 135, 136, 164 211, 214, 215, 244 |
| 谷川富士 | 7 |
| タニシ(たにし) | 77, 86 |
| 狸 | 64 |
| 種紙 | 57 |
| タネギ | 144 |
| 種まき(種播き) | 53, 265 |
| たねもみ(種もみ) | 55, 102 |
| 田の植えきりの日 | 54, 182 |
| 田の禁忌 | 56 |
| 田の草とり(取り) | 54, 90 |
| 田のくろ | 92 |
| 田の畦壁 | 90 |
| 田の肥やし | 94 |
| 田のしつけ | 179 |
| 田の虫 | 207 |
| 田の水口 | 203 |
| タバコ(たばこ、煙草) | 45, 52, 99 |
| 煙草入れ | 83 |
| タバコヤ | 122 |
| 田畠 | 89 |
| タバッタラ | 195 |
| 旅 | 196 |
| 足袋 | 14, 15, 16, 252, 261 |
| 旅芸人 | 275, 276 |
| 旅芝居 | 269 |
| 食べものごしらえ | 66 |
| 食べ物の一人前 | 29 |
| たまご | 26 |
| 卯酒 | 83 |
| たまづめ | 279, 283 |

| | |
|-------------------|--|
| たまづめる | 283 |
| たまびらき | 195 |
| タマ蕭 | 18 |
| だまり虫 | 246 |
| ダム工事 | 113 |
| たむし | 83 |
| ため | 51 |
| タメビタシ | 11 |
| タモト | 19 |
| タモトの着物 | 174 |
| たらい | 187 |
| タラシヤキ | 28 |
| タラヤキ | 25 |
| タル入れ(樽入れ) | 178, 179 |
| ダルマ | 202 |
| タロッペ(たろっぺ) | 20 |
| タフラ(俵) | 46, 200 |
| 俵かます | 201 |
| 俵神様 | 199 |
| 俵ごしらえ | 47 |
| 俵づめ | 48 |
| ダンゴ | 20, 24, 27, 54, 57, 60, 83 93, 141, 149, 156, 184 |
| (だんご、 | 187, 198, 199, 201, 202 |
| 団子) | 203, 204, 208, 209, 210 218, 219, 224, 225 |
| ダンゴ正月 | 198, 199 |
| ダンゴかざり | 198 |
| だんご木(ダンゴの木、 | 195, 199 |
| 団子の木、団子木) | 201, 202 |
| だんご木切り | 195 |
| 団子の火 | 246 |
| 団子をつくる日 | 26 |
| 田の肥やし | 245 |
| 男根 | 245 |
| 誕生 | 118 |
| 誕生の贈り物 | 172 |
| 誕生日 | 26, 172 |
| 誕生モチ | 26 |
| 男女の別 | 169 |
| たんすの小ひき出し | 168 |
| 壇衆 | 211 |
| 旦那(旦那さま、 旦那さん) | 28, 66, 124, 125, 179 |
| 旦那ザシキ | 40 |
| 旦那衆 | 116 |
| 丹波栗 | 141 |
| 玉原 | 74 |
| 玉原越え(玉原越し) | 73, 77 |
| タンボ | 244 |
| 田圃 | 85 |
| たんぽぼ | 20 |

子

| | |
|------------|---|
| 地下たび(地下足袋) | 12, 14 15, 16 |
| 地堅め | 85 |
| 力石 | 177 |
| 力くらべ | 177 |
| 力くらべする石 | 177 |
| 力綱 | 167 |
| 地口行燈 | 130 |
| 地券 | 105, 106 |
| 地獄 | 86 |
| 稚子舞 | 267 |
| 地獄の釜のフタ | 215 |
| 地芝居 | 269, 270 |
| 地蔵様 | 148 |
| 乳 | 172 |
| 父 | 122, 179, 246 |
| 父親 | 173 |
| 乳はれもん | 81 |
| 秩父講 | 157 |
| チチンカンブン | 84 |
| 地鎮祭 | 31 |
| チチンブイブイ | 83 |
| 地つき田 | 56 |
| チッチャイアニイ | 123 |
| チヅナ | 168 |
| チップ材 | 113 |
| 血どめ | 84 |
| 地主惣代入札箱 | 105 |
| 地方歌舞伎 | 248 |
| 地方歌舞伎舞台 | 249 |
| ちまき | 17, 28, 212 |
| 地まつり(地祭) | 31, 165 |
| 地名 | 241 |
| 茶 | 28, 94, 164, 180, 182 192, 193, 197, 198 |
| 茶がし | 180 |
| 茶蓋 | 192 |
| 茶ゴト | 187 |
| 茶タチ | 183 |
| チャタテムシ | 174 |
| | 10, 38, 39, 40, 60, 112, 124 125, 143, 168, 179, 180 |
| 茶の間 | 185, 186, 192, 207, 208 217, 218, 227, 228, 229, 233 |
| 茶呼び | 187 |
| 茶飯 | 204 |
| 茶わん(茶碗) | 84, 86, 171 |
| チアン | 123 |

| | | | | | |
|------------------------|--------------------------|------------------------------|-------------------------------|--------------|-------------------|
| 供えもち | 32 | 大根の葉 | 24 | 田起し | 54, 90 |
| 供えもの | 192 | 代参 | 156, 157, 160, 209, 218 | 高砂 | 173, 180 |
| 20, 24, 27, 44, 50, 51 | | 代参講 | 157 | タカジョウ | 14 |
| 52, 61, 85, 184, 186 | | 大師あれ | 88 | 高須隼人 | 104 |
| ソバ(そば)… | 193, 197, 204, 212 | 太子講(大師講)… | 26, 27, 155, 225 | タカタナキ | 38 |
| 217, 228, 245 | | 大師講あれ | 88 | 高橋お伝 | 111 |
| ソバカキ(ソバカキ、 | | 大師さま | 88 | タカハタ(高機) | 18 |
| そばっかき)… | 24, 25, 52 | 大食 | 117 | 高張り提灯 | 179 |
| ソバ切り | 182 | 大尽 | 85, 121 | 高天原 | 223 |
| ソバ粉 | 24 | 大神宮(様)… | 40, 192, 193, 198 | 高盛り | 157 |
| そばの汁 | 24 | 199, 223, 227, 228 | | タガラ(たがら) | 38, 57, 62 |
| ソバぶち | 66 | 大神宮様の棚 | 229 | タガラウエ | 53 |
| 祖父母 | 123, 210, 246 | 大豆… | 22, 44, 52, 99, 118, 170, 219 | 宝川 | 3, 136, 213, 236 |
| そぼまき | 91 | 大豆がゆ | 225 | 宝川温泉 | 7 |
| ソバマキトンボ | 243 | 大豆の年取り | 219 | 宝川の湯 | 144 |
| 祖父 | 126, 171 | 鯛釣り | 266 | 宝船 | 195, 198 |
| 祖母 | 171 | 太々 | 212 | タカンバリ笠 | 16 |
| ソマ(杣)… | 30, 32, 154 | 太々神楽 | 116, 211, 212 | ダキカエリの滝 | 73, 74 |
| そま代人 | 279, 281 | 太々講 | 267, 268 | たきぎ | 76 |
| そめもの | 15 | 太々講供養 | 163 | たくあん | 20 |
| 染物屋 | 16 | 蒂刀 | 232 | タケ(竹)… | 57, 213, 218, 244 |
| ソラッキカズ | 244 | 大東亜戦 | 130 | 竹筒(竹の筒)… | 83, 207 |
| ソラミミハシャガシテ | 244 | 台所… | 9, 10, 21, 38, 39, 40 | タケノコ(たけのこ)… | 20, 21 |
| ソリ(そり)… | 74, 75, 119, 242, 244 | 168, 208, 229, 278, 279 | 竹のひしゃく | 192 | |
| ソロバン | 104, 177 | ダイドコルリ | 40 | たけみかづち | 266 |
| 村社 | 130 | 大般若 | 147 | 山車 | 214 |
| ソニニヤの話 | 235 | 大般若經 | 210, 211 | 手力雄(男)… | 265 |
| タ | | 堆肥 | 45, 52 | だし芝居 | 99 |
| 田 | 13, 123, 240 | 堆肥の山 | 246 | 田シブ(田しぶ)… | 9, 18 |
| タークテ | 244 | 代表区長 | 103 | 田しぶ染め | 18 |
| 綱 | 171 | 大風子 | 81 | タジリ | 53 |
| 太夫 | 270 | 大福餅 | 27 | たすき | 11 |
| 大工… | 31, 32, 81, 95, 154, 270 | 胎糞 | 169 | 豊 | 38, 82 |
| 大工の棟梁 | 81 | タイマイ(たいまつ)… | 16, 179, 180 | たち曰 | 72 |
| 大工ぶるまい… | 31 | 代用食品 | 24 | タチブルマイ(立ち振舞) | 132, 133 |
| 78, 221, 250 | | 平 | 193 | タチ餅 | 195 |
| タイコ(太鼓)… | 262, 288 | 内裏様 | 210 | 駄貢 | 49, 75, 223 |
| 太鼓方 | 256, 263 | 代理者 | 103 | 駄貢ぎめ | 154 |
| 大黒… | 206, 224, 226 | 内裏ビナ | 173 | 駄貢つけ(づけ)… | 65, 154 |
| 大黒シメジ… | 20 | ダイロクダエン様 | 158 | タツ頭 | 186 |
| 大黒柱… | 39, 60, 199, 205, 244 | 台灣米… | 25, 102 | タツチュウ場 | 168, 241 |
| 太鼓の報… | 262 | 11, 23, 25, 27, 45, 53, | | 立付袴 | 261, 264 |
| 20, 62, 82, 193, 197 | | 田植(田植え)… | 54, 85, 86, 89, 90, 120, | タツデッボウ… | 11 |
| 大根… | 219, 221, 223, 224 | 121, 164, 178, 203, 213, 225 | | タツミの風 | 242 |
| 大根オロシ(大根おろし)… | 19, 225 | タウエイチゴ… | 20 | タテ石 | 231 |
| 大根(の)切り干し… | 20, 54, 213 | 田植唄 | 253 | タテゴ… | 244 |
| 大根汁… | 225 | 田植えの食事… | 54 | 伊達様の奥方 | 167 |
| 大根づけ… | 29, 53 | 田植の人足… | 54 | 建て初め… | 31 |
| 大根のつけたもの… | 26 | 田打車… | 54 | タテナガ… | 17 |
| 大根の年取り… | 224 | 田ウナイ… | 54 | | |

| | | | | | |
|-------------------------------------|---|-------------|--|-------------|---|
| セイロン鳥 | 81 | 銭 | 29 | 葬儀までの女の仕事 | 184 |
| セエ | 54 | セリ | 20, 197 | 雑巾がけ | 28 |
| セガイ | 36 | セリ出し | 270 | 象牙 | 83 |
| セガキ（施餓鬼） | 211, 219, 220 | セリタタキ | 197 | 送迎会 | 103 |
| 施餓鬼接待 | 185 | 世話人 | 121, 210, 214 | ソウケン | 90, 111, 116 174, 214, 270 |
| セキ | 10, 30, 91, 174, 193, 244 | 騎 | 171, 180, 186, 220 | 社健衆 | 90 |
| 開ケ原 | 88, 272, 285 | 仙岩越え | 73 | 社健席 | 111 |
| せき彌り | 115 | 全快祝い | 117, 118 | 宗吾神社講 | 157 |
| 石祠 | 164 | 選舉 | 116 | 底抜けびしゃく（柄杓） | 166, 167 |
| 石尊様 | 131, 205 | 浅間様 | 135 | 總裁 | 281 |
| 石尊神社 | 215 | 浅間様の鳥居 | 193 | そうじ | 204 |
| 石塔 | 154, 188, 210 | 浅間神社 | 135 | 葬式 | 27, 28, 53, 56, 86, 87 94, 96, 118, 182, 184 188, 189, 236, 244 |
| セキ止 | 83 | 線香 | 81, 94, 126, 127, 186 188, 217, 218 | 葬式費用 | 187 |
| 煙の水かけ | 115 | 洗剤 | 19 | 總ジメ | 229 |
| 赤版 | 27, 54, 83, 84, 126, 127, 128 130, 132, 145, 160, 161, 170 | 禪宗 | 246 | ソウシラット | 74 |
| 赤版 | 171, 177, 179, 181, 191, 213 215, 218, 219, 220, 221, 222 | 千手觀音 | 147 | 雑炊組 | 127 |
| | 224, 225 | 千手觀音堂の棟札 | 146 | ゾウセイ（雑炊） | 24, 127, 196, 197 |
| 赤版をつくる日 | 26 | 先祖 | 121, 158, 202, 211, 232, 236 | 葬送 | 187 |
| 石碑 | 164 | 先祖のお待 | 127 | 相続人 | 184, 186 |
| せきぶしん | 115 | 先祖の供養 | 216 | 曾祖父母 | 123 |
| 世間 | 90, 91 | 先祖の系図 | 127 | 総代人 | 188 |
| 世間ばなし（世間話） | 63, 124 | 先祖の墓詣り | 127 | ソーダイネ | 244 |
| 施主 | 32, 33, 34, 35, 117, 119, 184 185, 186, 188, 220, 245 | 先祖まつり | 126 | ソウダベアン | 246 |
| 世帯主 | 192 | 洗たく | 204 | ソウダムシ | 246 |
| セチモチ | 26 | 驕作り | 193 | ソウデガンサイムシ | 246 |
| 石階 | 274 | 先手 | 47 | 贈答 | 118 |
| 節供（節句） | 106, 118, 182 | センニンズメ | 241 | 贈答品 | 210 |
| セックモチ | 209 | ゼンノ餅（ゼンノの餅、 | 118, 173 | ゾーニ（雑煮） | 24, 192, 193, 197 198, 202 |
| 節供礼 | 209 | 膳の餅 | 195 | 雑煮家例 | 126 |
| セッケエゼン | 222 | センヌ | 72 | 雑煮餅 | 180 |
| 石けん | 19 | 膳箱 | 29 | ソウメン（そうめん） | 182, 218 |
| セッコ | 244 | 千匹がゆ（千匹ゲー、 | | ゾウリ（ぞうり、 | 9, 13, 14, 32, 90 91, 94, 219, 252 |
| 殺生 | 204 | せんびきげえ） | 204 | ぞうりかくし唄 | 278 |
| セッチン | 196, 244 | 糲米 | 183 | ゾウリグツ | 9, 14 |
| セッチン神（様） | 129, 171 | 洗米 | 187 | ぞうり作り | 91 |
| セッチンビナ | 129 | ゼンマイ | 15, 20, 21, 23, 26 | ソウリョウ | 123 |
| セッチンメリ | 170 | （ゼンまい） | 54, 170, 213, 278 | ソウリョウ娘 | 123 |
| 節分 | 192, 194, 206 | 先（占）有權 | 62 | 造林 | 113 |
| 節分の晩 | 206 | 占有表示 | 122 | 葬礼 | 106 |
| 節分の豆 | 81, 88, 207 | 膳櫻 | 187 | 葬列 | 186 |
| 節分の豆占い | 206 | 染料 | 18 | 祖先 | 193 |
| 節分の豆まき | 206 | ソ | | 祖先代々 | 193 |
| 節分の夜 | 206 | 雜 | 47 | 祖先の墓 | 228 |
| セド | 244 | 總会 | 114 | ソダ（そだ） | 62, 74, 89 |
| 背中 | 244 | 雜木 | 50 | ソドルミ | 244 |
| セナカアテ（セナカ 一テ、背中当テ、背 中あて、背中當テ） | 11, 38, 49 72, 76, 77 | 葬儀 | 188 | ソトワ | 187 |
| | | 雜木林 | 45 | | |
| | | 葬儀までの男の仕事 | 184 | | |

| | | | | | |
|------------|--------------------------------|---------------|---|---|---|
| 新竹 | 216 | スギ(杉) | 34, 50 | 炭俵作り | 91 |
| 新樂 | 10 | スキー場 | 114 | 炭俵のカヤ | 112 |
| 新築の家 | 35 | 杉の葉 | 38, 220 | 墨付 | 126 |
| 神道一心流 | 92 | スギノボリ | 33 | スミ豆腐 | 141 |
| 新年宴会 | 98 | 直越馬峰 | 73 | スミノ餅 | 32 |
| 人物の評価 | 116 | すぐじ | 74 | 炭ぶるい | 47 |
| 神保広大寺くづし | 286 | すげ子 | 17 | 炭焼き | 10, 44, 46, 47, 48, 49, 65 66, 90, 91, 111, 117, 144 |
| 新聞 | 288 | スゲ笠(すげ笠、菅笠) | 9, 11, 16 73, 211 | 相撲 | 237 |
| 新米 | 118 | スゲツフル | 85 | 角力甚句 | 277 |
| 針葉樹 | 45 | スケット(助けっこ) | 54, 245 | ズリ | 244 |
| 人力車 | 74 | スゲボウシ | 6, 10 | スリエ | 172 |
| 親類 | 33, 101, 119, 161, 171, 179 | スゲの山の口 | (すげの山の口) | スリコギ(すりこぎ) | 84, 184, 244 |
| 親類仲間 | 126 | (すげの山の口) | 44, 45, 112 | スリコギボ | 244 |
| 新暦 | 196, 209, 221, 223 | すじ(寿司) | 27, 94, 180, 186, 210 | スリッパ | 14 |
| 新郎新婦 | 181 | スナオ(ささのお) | 139, 266 | すり鉢 | 225 |
| 新築 | 222 | スヌオトコ(スヌ男、煤男) | 226 | すりや | 78 |
| 神仏混淆 | 133 | スキ(すき) | 219 | するす | 284 |
| 神明宮 | 128, 194, 221 | すす竹 | 226 | するす眼 | 277, 284 |
| 神明宮の祭り | 221 | ズズ念佛 | 188 | するすずり | 284 |
| 神明さま(神明様) | 116, 127, 132 216, 221, 250 | スヌハキ(煤はき) | 226 | するすき唄 | 284 |
| 神明さま(様)の祭り | 27, 127 | 鉛木もんどう(主水) | 284 | スルメ(するめ) | 170, 171, 174 228, 229 |
| 神明造 | 129 | 鉛木の先祖祭 | 127 | するめ代 | 178 |
| 神明まつり(神明祭) | 131, 222 | 雀の吉利 | 260 | 諏訪様(神社)のお使い | 60, 93 |
| ス | | 硯 | 104 | 諏訪神社の秋祭り | 220 |
| ス | 84 | スシリダンゴ | 57 | 60, 89, 130, 131, 133 215, 237, 248, 249 | |
| 炊事 | 91 | そなが | 12 | 諏訪神社 | 250, 256, 264, 270 272, 273, 274 |
| 水車 | 21, 24, 56, 113 | 須田貝 | 4, 17, 222, 249 | 諏訪神社の祭り | 103 |
| 水神(様) | 155, 227 | 須田貝ダム | 42 | 諏訪様祭 | 114, 215, 218 |
| 水神まち(待) | 155, 228 | スッポングフ(靴) | 9, 14 | スマラジ | 16 |
| スイゼン様 | 193 | 捨犬 | 64 | スマリアガル | 244 |
| 水前様 | 227 | 捨吉 | 171 | 座りまりつき唄 | 278 |
| 水田 | 8, 9, 44, 99 | すばい | 49 | スンター | 244, 246 |
| 水天宮様 | 167 | 砂ブルイショウギ | 71 | セ | |
| 水道 | 30 | スペエ小屋 | 48 | 税金 | 133 |
| スイナー | 208, 244 | ズボン | 9, 16 | セイジョウ(清淨)神様 | 198 |
| スイヒロ | 244 | スマシ(すまし) | 23, 197 | 晴天祈願祭 | 89 |
| スイヒロ桶 | 244 | すまし汁 | 213 | 青年 | 131, 285 |
| 吸物 | 180 | 墨 | 83 | 青年会 | 111, 174 |
| スイモン | 28 | 炭 | 49, 61, 65, 74, 75 89, 112, 125, 174 | 青年会員積立帳 | 176 |
| 水雷 | 88 | すみがま(炭がま) | 50, 233 | 青年だけの講 | 117 |
| ズー | 57, 244 | 炭俵 | 17, 45, 46, 48, 90 | 青年団 | 111, 270 |
| 末子 | 83, 123 | 炭俵あみ | 49, 90 | 精のつく業 | 84 |
| 末広 | 180 | 炭俵ガヤ刈り | 112 | 歳暮 | 182, 229 |
| スエシ | 244 | | | 西北の風 | 88 |
| スエル | 244 | | | 清滌の吉利 | 259, 260 |
| スカリ | 9, 15 | | | | |
| スカリカッチキ | 15, 144 | | | | |
| スカリカンジキ | 6 | | | | |

| | | | | | |
|------------|--------------------------------------|--------------|-----------------------|--|--|
| 主人 | 29, 125 | 上棟式 | 32, 81 | 汁かけめし | 50 |
| 數珠 | 188 | 聖徳太子 | 225 | しるじゃくし | 124 |
| ジエズマワシ | 188 | 小児養育 | 106 | 素人演劇 | 272 |
| 出棺 | 186, 236 | 商人の守り神 | 224 | 素人演劇興行顧 | 271 |
| 出産 | 118 | 上納年貢 | 70 | 次郎の一日 | 206 |
| 種痘 | 238 | ショウブ(しょうぶ) | 82, 212 | シロカキ | 54 |
| 樹皮 | 18 | しょうぶかざり | 212 | 代がき | 247 |
| 主婦 | 35, 194, 226, 244 | ショウブ酒 | 212 | シロカキ団子 | 54 |
| 主婦の座席 | 40, 124 | ショウブ湯(しょうぶ湯) | 212 | シロカキ棒 | 53 |
| 修羅落し | 248 | 小便だめ | 11, 17 | 白けし | 44, 47 |
| 巡査 | 243 | 消防 | 115 | 白すみ | 47, 48, 49 |
| 順養子 | 123 | 消防小屋 | 45 | 白鷹 | 7 |
| ショイコ(しょいこ) | 76, 77 | 消防費 | 115 | 白薙の湯 | 7 |
| ショイハシゴ | 67, 72, 76 | 定紋入りの膳椀 | 102 | 白蛇 | 81 |
| ショイ袋 | 29 | 照明 | 42 | 白無垢 | 215 |
| 女陰 | 245 | 誕文 | 121 | 白餅 | 209, 228 |
| 上越線 | 65, 74, 236, 248 | しゅうや | 281 | 新あわ | 118 |
| 上演 | 250 | ジョーヤ | 244 | 新入り | 116 |
| 正月 | 26, 27, 56, 88, 173 182, 192, 221 | しゅうゆ | 22, 23, 124, 222, 229 | ジンガン | 186 |
| 小学校 | 177 | 少林山 | 39 | シンカンジョウリ | 186 |
| 正月様 | 83, 192, 193, 199, 206 | 淨瑠璃 | 253 | 新帰元 | 185 |
| 正月棚 | 193, 196, 228, 229 | 昭和四年大火 | 98 | 寝具 | 43 |
| 正月の贈物 | 118 | 食事についての言葉 | 29 | しんげん袋 | 77 |
| 正月のおそなえもち | 93 | 食制 | 28 | 信仰 | 95 |
| 正月の松 | 199, 204 | 職人 | 33, 120 | シンコ | 170 |
| 正月の松飾り | 201 | 職人会 | 154 | 神礼 | 219 |
| 正月祭り | 94 | 食用野草果実 | 20 | 神事芸能 | 248, 250, 262, 275 |
| 正月餅 | 227 | 食糧 | 62 | 寝室 | 166 |
| 正月札 | 118 | 食料増産 | 57 | シンシ造り | 10 |
| しょうぎ | 17 | 食糧難 | 227 | 神事舞 | 267 |
| 貞草検地帳 | 95 | 食料の種類 | 20 | 神社 | 200 |
| 焼香 | 190 | 食糧品 | 74 | 神社合併 | 134 |
| 招魂社 | 129 | 植林 | 113 | 神社修理 | 45 |
| 障子 | 38, 180 | 初産 | 168 | シンシャ造り | 38 |
| 上州の着だおれ | 246 | 助役 | 216 | 神酒 | 221 |
| ショウジンバ | 241 | 諸役御免 | 232 | 信州 | 46 |
| 精進料理 | 217 | 除夜の鐘 | 194, 229 | シンショウ(しん しゅう、身上) | 85, 86, 94, 121 124, 178, 209 |
| ショウジンミマイ | 94 | ジョンジョグツ | 14 | 身上わたし | 96, 124 |
| ショウズカジイサン | 161 | ジョンベン | 182 | 10, 27, 28, 31, 32, 35, 54 77, 118, 119, 123, 147 | |
| 常設歌舞伎舞台 | 272 | 白井権八 | 284 | 親せき | 172, 174, 178, 180, 181 |
| 常設の舞台 | 269 | シラガ(白髪) | 202, 229 | (親戚) | 184, 185, 186, 188, 189 194, 213, 215, 218, 222 |
| 上蓋 | 57, 59, 61 | シラクチ | 20 | 神葬祭 | 166, 190 |
| ショウブクバ | 241 | しら出し唄 | 281 | 親族呼称 | 122 |
| 定欄 | 228 | 白っかゆ | 154 | 身体 | 243 |
| ショウチュウ | 93 | シラット | 74 | ジンダイづくり | 29 |
| ショウズカバアサン | 147, 158 | 白歯 | 17 | シンタク(新宅) | 102, 122, 123 126, 184 |
| ショウフケントボ | 243 | 知り合い | 174 | ジンタケ(じんたけ) | 16, 20 |
| 上棟 | 33, 34 | じりやき | 25, 215 | | |
| | | 飼料 | 46, 113 | | |
| | | 汁 | 28, 187, 224, 279 | | |

| | | | | | |
|-----------------------|-------------------------|------------|-------------------|-----------------------------------|-----------------------------|
| 七分人足 | 90 | シブキ除け | 37 | 十惡 | 195 |
| 質屋 | 121 | 四方ジメ | 228, 229 | 十王 | 158 |
| 実演記録 | 255 | 四本辻 | 115 | 十王堂 | 97, 117, 126 |
| 実家 | 118, 124, 148, 170 | 死亡診断書 | 184 | 集会所 | 250, 262 |
| 実家の親もと | 195 | シマイダンチ | 221 | 祝儀 | 15, 90, 179 |
| シッキリジバン | 16 | しまい正月 | 205 | 祝儀の翌日 | 181 |
| シッキレ | 11, 12 | シマダ | 91 | 祝儀料理 | 28 |
| シッキレジュバン | 16 | 島田 | 17, 182 | 十五日ゲー(十五日) | 53, 203, 204 |
| しつけ | 91 | シマ台(島台) | 180, 181 | かゆ, 十五日粥 | 205, 212 |
| ジッコ(実戸) | 3, 98, 99 | しまへび | 93 | 十五日(かゆ) | |
| ジッタケ | 62 | 清水 | 30, 53, 183 | 十五夜 | 26, 191, 218, 221, 223 |
| ジッタタキ | 56 | 清水越え | 73, 160 | 十三年忌 | 188 |
| 湿地帯 | 242 | 清水国道 | 73 | 十三念佛 | 188 |
| ジッチョウ | 95, 98, 103, 104 | 清水峰 | 4, 74, 77 | 十三仏の掛図 | 87 |
| (じっちょう) | 112, 144, 145, 164, | 清水峠越し | 178 | 十三夜 | 26, 27, 191, 221, 223 |
| 什長 | 194, 208, 215, 216 | 事務の引継 | 114 | 住職 | 183 |
| | 221, 250 | シミックリ | 228 | 終戦 | 113 |
| ジッチョウ組(什長組) | 96, 114 | しみ大根 | 20 | 9, 22, 29, 82 | |
| 什長さん | 115 | シミ豆腐 | 23 | しゅうと(姑) | 118, 124, 171 |
| 什長の家 | 148 | しみぬき | 19 | 172, 236, 246 | |
| 什長の事務引継ぎ | 194 | シメ(しめ、注連) | 82, 164, 198 | シュウト礼 | 195 |
| 什長のひきつき | 104 | | 219, 229 | 十二月八日 | 26 |
| ジフチョウの引き纏り | 208 | シメエ年忌 | 210 | 十二講 | 88, 117, 143, 208, 209, 222 |
| ジッチョウ箱(什長箱) | 104, 114 | シメ縫り | 201, 227 | 十二講アレ | 117 |
| 実母散 | 208 | シメジ | 20 | 6, 15, 32, 34, 40, 62, 104 | |
| シデ | 251 | メ太鼓(締め太鼓) | 252, 266, 268 | 116, 117, 129, 130, 131 | |
| 四天王 | 127 | シメ縄(注連縄) | 31, 131, 201, 202 | 十二さま | 133, 143, 144, 145, 149 |
| 自動車 | 74 | | 219, 227, 228 | (十二様) | 159, 160, 166, 167, 174 |
| シトギ | 117 | しめなわくばり | 227 | 195, 198, 199, 204, 208 | |
| シトギダンゴ | 143, 221 | 霜 | 52 | 209, 223, 226, 227, 228, 233, 236 | |
| 四斗だる | 78 | 下組舞子唄 | 258 | 十二様のオシギ | 144 |
| シナ(しな) | 6, 11, 17, 201 | 下仁田祇 | 69 | 十二様のかけじ(掛軸) | 117, 144 |
| シナ皮(シナッ皮、 シナの皮) | 13, 16, 76, 77 | シャカ(しゃか様) | 210, 211 | 十二様の時 | 26 |
| 次男 | 168 | ジャガイモ | 38 | 十二様の餅 | 34 |
| 死に水 | 183 | シャク | 189 | 十二様のよい祭 | 198 |
| 死人 | 85, 167 | シャクシ(しゃくし) | 9, 22, 68 | 十二山神 | 208 |
| 死人の魂 | 26 | 鎌杖 | 288 | 十二山大神 | 39 |
| 死人の杖 | 185 | しゃくしわたし | 124 | 十二神社 | 39, 195 |
| 死人の枕めし | 86 | シャジキ | 221 | 十二の餅 | 34 |
| シノミ(シノ箕) | 172, 173 | 社地刈り | 221 | 十二まつり | 191 |
| 芝居 | 174, 254, 270, 271, 276 | シャックリ | 84 | 十二薬師 | 149 |
| 芝居小屋 | 269 | 社堂の普請 | 115 | 収入わり | 113 |
| シバステバ | 145 | 社日 | 210 | 収納祝い | 221 |
| シビ(しば) | 43, 167 | ジャヌケ | 241 | 重箱 | 81, 128, 170, 211, 213, 221 |
| 至仏 | 62 | 蛇洞 | 231 | 十八ゲー(十八日かゆ) | 205 |
| 死びと | 236 | シャモジ(しゃもじ) | 22, 29, 40 | 十四日 | 60 |
| シビぶとん(シビ布団、 しひぶとん) | 10, 42 | | 125, 172 | 十六個の団子 | 208 |
| 洪川稻荷講 | 43, 166 | しゃもじわたし | 124 | 十六マイ玉 | 204 |
| | 157 | じゃん | 118 | 十六夜供養塔 | 163 |
| | | じゃンカ | 224 | 祝祭食品 | 26 |
| | | ジャンボン | 244 | 熟亞 | 244 |
| | | | | 主食品 | 24 |
| | | | | 主食料 | 20 |
| | | | | 主食料の変遷 | 20 |

| | | | | | |
|-------------------------|-------------------------|--------------------------|---|---|--------------------------------|
| 産気づく | 166 | 82, 84, 115, 121, 145 | 獅子 | 249, 250, 256, 262, 264, 266 | |
| 三軒の便所 | 170 | 三本辻 | 158, 160, 161, 173, 187 204, 207, 217, 218 | 獅子唄 | 250, 253, 254, 255, 257, 258 |
| 三軒回り | 171 | 産見舞 | 170 | しし踊り | 263 |
| 三幸神社 | 131 | 三夜講 | 157 | 獅子カシラ | 250, 251, 260 (獅子頭) |
| 産後の食事 | 171 | 三夜様 | 156 | 獅子組 | 249, 255, 256 260, 264, 273 |
| 三合ボタ | 28 | 三夜さまの晩 | 156 | シシタケ | 20 |
| 三合めし | 29 | 山林 | 95, 126, 240 | 地芝居 | 272 |
| 山菜 | 6, 9, 20, 21, 23 | 山林しごと | 65 | じじま | 18 |
| 山菜料理 | 131 | サンリンボ(三りんぼう、 サンリンボウ様) | 83, 86 94, 165 | 103, 139, 214, 218, 221 248, 249, 250, 252, 253 259, 260, 261, 263, 273 | |
| 三又路 | 84 | シ | | 獅子舞大頭 | 263 |
| 三々九度 | 180 | 背 | 63 | 獅子舞頭役 | 263 |
| 叢室 | 36, 57, 61, 157 | 四悪 | 195 | 獅子舞経墨書 | 263 |
| 産室 | 166, 167 | 飼育 | 57 | 獅子舞ノ起源 | 262 |
| 三尺だめ | 51 | ジーコ | 57 | 獅子舞の構成 | 250, 256 |
| 三尺まき | 91 | シイタケ(しいたけ) | 20 | 獅子の踊り | 252 |
| 蚕種 | 57 | 自営消防 | 115 | 獅子の年番 | 103 |
| 三十三年忌 | 188, 210 | 塩 | 6, 23, 25, 26, 48, 183, 187, 193 | 獅子宝剣の舞 | 267 |
| 三十五日 | 56 | 塩釜様 | 167 | シシ餅 | 227 |
| サンショ(さんしょう、 山しょう、山椒) | 20, 84 | シオビキ(塩びき) | 172, 228 235, 279 | 死者 | 87, 131, 183, 184, 186, 187 |
| 三升臼 | 228 | 塩マス(ます) | 26, 279 | ジジャ | 16 |
| サンジョ様 | 88 | シオモノダチ | 183 | シジ休み | 57 |
| サンショウウのスリゴキ | 184 | 鹿 | 44, 63, 236 | 四十九日 | 56, 94, 185, 186, 187, 188 |
| 三升まき | 91 | 鹿踊り | 248, 263 | 四十九日のモチ(もち) | 26, 53 |
| 三升餅 | 34 | 鹿狩り | 63 | 七十七才の祝い | 177 |
| 山神祭 | 222, 223 | ジカの日 | 53 | 四十二色の虫の口焼き | 206 |
| 産泰様 | 161, 166, 167 | 四月八日 | 38, 191, 210, 211 | 四十二才 | 173 |
| サンダワラ(サン俵) | 84, 161 | 自家発電 | 42 | 四十二様 | 207 |
| サントク酒 | 22 | しきい(敷居) | 85, 168 | 四十二の二っ子 | 173 |
| 三度まき | 207 | 仕着せ | 121 | 四十八(女の歳)の はじかきっ子 | 169 |
| 三茄子 | 196 | 子宫 | 169 | 姫女の舞 | 267 |
| 三人山 | 50 | 時局ニ対スル水上村 | | ゼゼミ | 243 |
| 三年忌 | 188, 210 | 勘定報告書 | 109 | シソ | 20 |
| 三年ミソ | 23 | ジタミ | 244 | 下帯 | 202 |
| 産の神 | 166, 167 | 嗜好品 | 28 | 下刈り | 113, 216 |
| 産の報告 | 170 | シコッタマ | 244 | 下刈り用 | 50 |
| 産の方法 | 166 | 仕事着 | 11, 13, 16 | シタザ(下ザ) | 40, 125 |
| 産婆 | 168, 169, 170, 172, 189 | 仕事しまい | 143 | シタデ | 40 |
| 産婦の死 | 189 | しごと始め(仕事は) | 30, 68, 195 | 下まくら | 282 |
| サンペヤ(産部屋) | 166, 167, 168 | じめ、仕事始め) | 197, 206 | 七五三 | 174 |
| 三方 | 180 | しこみの適期 | 23 | 七五三飾り | 200 |
| 三宝大荒神 | 158 | 私財 | 125 | 七生仏 | 155 |
| 三方辻 | 204 | 自在鉤 | 243 | 七人講 | 117, 154, 156 |
| 三本釘 | 54 | 資産わり | 113 | 七人山 | 50 |
| 三本剣 | 266, 268 | 死産 | 189 | 七年忌 | 188 |
| 三本剣の舞 | 269 | シジ | 57 | 七分龍 | 59 |

| | | | | | | |
|-----------------------|-------------------------|------------|---|--------------------|---------------------------|---------------|
| 婚姻 | 5, 95 | 盃ごと | 180 | 里イモ(里芋) | 193, 219 | |
| 婚姻園 | 5, 120, 166 | 魚 | 229 | 里芋の年取り | 221 | |
| 婚期 | 86 | 魚釣り | 26, 78 | 里イモの葉 | 217 | |
| コングリミソ | 23 | サカバヤシ | 21 | さとう(砂糖) | 118, 172, 182, 220 | |
| 権現(様) | 74, 149 | 坂道 | 74 | 佐藤ケンチ | 221 | |
| コンジイ | 62 | 酒盛 | 209 | さとう湯 | 169 | |
| コンジイ | 215 | 酒屋 | 28, 77, 151 | 里親 | 170 | |
| コンジン様 | 158 | 左官 | 32 | 里がえり | 124, 181, 210 | |
| コンター | 245, 246 | 座棺 | 184 | 里神楽 | 264, 266 | |
| コンチャ | 242 | 先獅子 | 250, 260, 262 | 里の親 | 226 | |
| コンニャク | 83 | サギッチャ(ウ) | 183, 187 | 里宮 | 212 | |
| 柑の脚絆 | 78 | さきて | 46 | さ流し | 44, 46, 77, 122, 248 | |
| コンビラ様(金びら様) | 130, 137 | 作業唄 | 248 | (木流し) | 279, 281, 282 | |
| 金比羅さま、金比羅様 | 148, 197 | 作業着 | 15, 17, 178 | さ流し唄 | 277, 278, 279, 280 | |
| 金比羅神宮 | 130 | 作業場 | 36 | さ流し職人 | 280 | |
| コンビラダル | 148 | 作業道 | 76 | さ流しをする職人の階級 | 281 | |
| コンブ(こんぶ、昆布) | 179, 197 | サク杖 | 276 | サナギ | 60, 207 | |
| ゴンボー | 244 | サク立て | 198 | 真田伊賀守 | 55 | |
| 婚礼と若者 | 111 | サクビリョウ | 121 | ザマカゴ(ざまかご、 ザマ籠) | 57, 67, 78 | |
| 婚礼の座興 | 111 | 作物の豊凶 | 88 | 三味線 | 78, 269, 270 | |
| 婚礼の世話 | 174 | 咲耶姫 | 266, 268 | サムイムシ | 246 | |
| サ | | 桜 | 70 | 寒さ除け | 281 | |
| さいころ | 122 | ザグリ(座縁り) | 91, 99 | さら | 86 | |
| 財産 | 92, 102, 121 | 蛙 | 182 | サラン木綿 | 170 | |
| 財産をのこした人 | 121 | | 22, 28, 30, 33, 54, 62, 64, 65 73, 77, 81, 83, 90, 94, 103 111, 112, 114, 116, 117, 130 143, 154, 155, 164, 174, 178 179, 180, 181, 182, 187, 188 195, 202, 206, 208, 210, 211 212, 213, 215, 217, 219, 229 | サル(猿) | 50, 92, 242 | |
| 歳時唄 | 278 | | 234 | ざる | 78 | |
| 賽銭 | 214 | 酒売り | 77 | 猿田彦(猿田彦) | 29, 132, 154 サマ、猿田彦大神) | 265, 266, 268 |
| 採草地 | 240 | 酒菓子 | 107 | 猿田彦さまの砂 | 30 | |
| 祭典 | 135 | ささ(簾) | 46, 84 | 申年の飢きん | 25 | |
| サイナ | 242 | ササグマ | 64 | サルの日(申の日) | 19, 22, 184, 206 | |
| 罪人の流刑地 | 101 | ササの実 | 20 | サルマタ | 13 | |
| 財布 | 124, 223 | ササマキ | 28 | サワガニ | 83 | |
| 裁縫 | 66, 123, 177 | ささ餅 | 28 | サワキ | 51, 52 | |
| 裁縫女学校 | 66 | ササラ(ささら) | 203, 252, 262 | サワキだめ | 52 | |
| 材木 | 6, 75, 281 | 坐產 | 167, 169 | サワグルミ | 10, 68 | |
| 祭文 | 276, 277, 284, 287, 288 | ざしき(座敷) | 14, 38, 288 | サワシ補 | 21 | |
| 祭文語り | 276, 287, 288 | 棲數 | 221 | 沢の二股 | 144 | |
| サエモン | 5, 78 | サシバ(の歯) | 87 | 沢向う | 122 | |
| さお | 220 | サスマタ | 48 | 産あがり | 189 | |
| さお入れ | 111 | 座着ケノ餅 | 180 | 三角唐鏡 | 71 | |
| サカキ | 31 | サッコさし | 247 | 三角餅 | 198 | |
| 酒蔵 | 30 | サツダワタ | 90 | 三月節句(供) | 26, 173 | |
| サカサギ(サカサフキ) | 40, 85 | 雜穀 | 101, 123 | 三月のお節供 | 26 | |
| サカサッコ(サカサ ッコ、さかさ子) | 40, 167, 169 | サツマイモ(さつま) | 25, 54, 222 | 三カ日 | 24, 126, 192, 193, 196 | |
| 逆さ水 | 182, 193 | サデブルイ | 39 | 三韓玉取 | 267, 268, 269 | |
| 酒ダル(酒樽) | 148, 285 | 里 | 124 | サンギフミ | 55 | |
| 盃 | 120, 132, 180 | | | 参勤交代 | 167 | |
| | | | | 参宮 | 106 | |

| | | | |
|--------------|-------------------------|---|---|
| 御神酒 | 193, 198, 234 | コナカキ団子 | 54 |
| ご神体 | 157 | 紛がし折 | 181 |
| 戸敷わり | 114 | こなしもの(こなしもん) | 157 205 |
| コスギガケ | 34 | 紛ひき | 66 |
| ゴゼ(ごぜ) | 5, 77, 78, 276 | 紛ブルイ | 39 |
| ゴゼのショパン | 23 | コナラ | 195 |
| 御先祖様 | 217 | 紛をひく石臼 | 39 |
| 子育地蔵 | 148, 173 | 小仁田 | 104 |
| 子育ての神 | 7 | 小仁田神楽を演じた人々 | 268 |
| こたつ布団 | 18 | 小仁田青年会 | 174 |
| コタツヤグラ | 247 | 小仁田青年会々則 | 174 |
| ゴダン(後段) | 180 | 小仁田の神楽 | 266 |
| コチ風 | 242 | 小仁田の神楽座 | 267 |
| ごちそうの格 | 27 | 小仁田の共有地 | 112 |
| 戸長 | 118, 215 | 小仁田の地名 | 239 |
| 伍長 | 102, 103, 208, 250 | 小仁田の薬師堂 | 152 |
| こづかい(小づかい・錢) | 125, 174 209 | 五人組 | 96, 101, 116, 118, 126, 181 |
| ごっしゃ道 | 74 | こぬか | 19 |
| 骨ひろい | 85 | 小雫三合 | 182 |
| コデ | 125 | 小布 | 170 |
| 固定資産税 | 114 | コネエミ | 56 |
| 御殿 | 173 | コネミ | 85 |
| 小天狗 | 234 | ご(御)年始 | 118, 126, 181, 193 194, 195, 196 |
| ゴトウ三尺のび | 57 | このはモタセ | 20 |
| 五十の家 | 33 | コノミ | 24 |
| 事おさめ(事納め) | 226 | ゴハイ | 48 |
| コドシ(こどし) | 27, 93, 204, 205 | コハゼ(こはぜ) | 11, 14 |
| コドシのダンゴ | 201, 204 | ごはん | 20, 22, 24, 26, 28 178, 192, 193 |
| コドシのマユ玉 | 199 | 小判 | 34 |
| こどしみえ | 88 | ごはんたき | 22 |
| 小どしもち | 204 | 狐尾 | 149 |
| 事代主命 | 224 | コビキ(木びき、 木挽き) | 283 |
| ことはじめ | 88, 208 | 木挽仕事 | 279 |
| ゴトハチコク | 244 | 木挽職人 | 277 |
| 琴平様の祭 | 148 | コビキノコズリ | 38 |
| 琴平神社祭 | 211 | コビル | 119 |
| 子ども | 19, 28, 29, 68, 86, 118 | コブ | 193, 197, 229 |
| (子供) | 131, 144, 171, 188, 242 | 古峯が原講 | 157 |
| 子供会 | 155 | 呉服屋 | 78 |
| 子供衆 | 177 | ごぶなが | 281 |
| 子どものお祝い | 118 | コブレ | 114 |
| 子どもの着物 | 19, 214 | ゴハイ(ごへい、 御幣、御幣束) | 31, 81, 134 194, 209 |
| 子どもの墓 | 189 | ゴボウ(ごぼう) | 89, 193, 197, 244 |
| 子供の虫 | 83 | | |
| 子供は神さま | 174 | | |
| コドリ | 38 | | |
| 小取り | 78 | | |
| コドリ龍 | 208 | | |
| 粉 | 20, 34, 218 | | |
| | | ゴボー葉 | 20 |
| | | 小堀 | 10 |
| | | ゴマ | 86, 88, 139 |
| | | ゴマエ | 225 |
| | | 小松渡し | 76 |
| | | 駒の吉利 | 259, 260 |
| | | ゴマのボタモチ | 170 |
| | | コマノマラ | 20 |
| | | 古峯講 | 157 |
| | | ゴミ捨て場 | 240 |
| | | 小向い組 | 96, 116 |
| | | 小麦 | 25 |
| | | ゴム底 | 12 |
| | | ゴム長靴 | 6 |
| | | 9, 20, 24, 29, 33, 34, 40 46, 65, 73, 77, 78, 89, 101 117, 119, 126, 131, 132 | |
| | | コメ(米) | 149, 154, 155, 170, 172 182, 184, 186, 188, 204 209, 227, 284 |
| | | 米買イザシキ | |
| | | (米買イ座敷) | 40, 125 |
| | | 米助け | 24 |
| | | 米俵 | 90, 177 |
| | | 米ダンゴ(コメのダン ゴ、米のダンゴ) | 27, 198, 202 |
| | | 米つき | 56 |
| | | 米のアエ | 52 |
| | | 米の粉 | 222, 225 |
| | | コメ花 | 217 |
| | | 米びつ | 22 |
| | | コメボ | 199, 200 |
| | | 米や | 99 |
| | | コモ | 247 |
| | | 子持神社 | 233 |
| | | 子もり(子守り、コモ) | 10, 66, 91 |
| | | リッコ、子守りっ子 | 121, 174 |
| | | 子もり唄 | 278 |
| | | 小屋 | 46, 48, 61, 201 202, 222, 279 |
| | | 小屋掛け | 46, 269 |
| | | こやし | 66 |
| | | 小やな | 64 |
| | | 五葉松 | 226, 227 |
| | | こよみ(暦) | 208, 210, 226, 227 |
| | | 御利益 | 157 |
| | | 五輪塔 | 161 |
| | | コロガシ | 53 |
| | | コワリ | 114 |
| | | 小若 | 90 |
| | | コワカイン(小若衆) | 90, 111 |
| | | こわめし | 170 |
| | | こわめしの重箱 | 171 |

| | | | | | |
|---------|-------------|---|---------------|--|------------|
| 建明寺年頭 | 197 | 紅白の餅 | 209, 210 | 五合ボタ | 28 |
| 建明寺の坊さん | 211 | 鉢夫 | 120 | 御合力 | 116 |
| 原野 | 95, 123 | 弘法大師 | 225 | 五穀 | 185, 186 |
| 元老株 | 102 | コウボウ様の煤はき | 226 | 五穀袋 | 184, 186 |
| コ | | 公民館 | 114, 147, 194 | ヨゴメ(ごめ、小米) | 20, 21, 39 |
| コ | こうもり傘 | 78 | ゴザ | 11 | |
| コ | こうもりや | 78 | 五三の桐 | 126 | |
| コ | こうや | 16, 18 | コザシキ | 179 | |
| コ | 氷の餅 | 213 | 小糸 | 252 | |
| コ | 香料 | 20 | コザレ | 74 | |
| コ | 虹渠 | 273 | コザレエ | 40 | |
| コ | 肥えだめ | 77 | 興 | 186 | |
| コ | 子おろし | 169 | こじき(乞食) | 245, 279 | |
| コ | ゴヤ | 241 | ゴシキ | 237 | |
| コ | コオラ | 182 | 腰太鼓 | 252, 253, 256, 262 | |
| コ | コガキ餅 | 27 | 腰ぬけ | 172 | |
| コ | 小掛け | 252 | コジハン | 54 | |
| コ | 蚕影山 | 130 | 腰巻き | 78 | |
| コ | コカゲさん(蚕影様) | 39, 129 143, 207 | コシミノ(腰みの) | 6, 11, 16 17, 234 | |
| コ | 蚕影山神社 | 60 | コシモト(腰元) | 40, 124, 125, 244 | |
| コ | 蚕影神 | 204 | コシャリ | 57 | |
| コ | コカゲ祭(蚕影まつり) | 143 | 戸主 | 226 | |
| コ | コカゴ | 58, 59 | コカゴ | 26, 27, 118, 179 | |
| コ | 小頭 | 115 | ご(御)祝儀 | 180, 181, 223, 270 | |
| コ | 五月五日の節供 | 27 | ご祝儀金 | 119 | |
| コ | 五月節供 | 26, 212 | 御祝儀の客 | 181 | |
| コ | 後間のお取訪様 | 61 | ご祝儀の禁忌 | 182 | |
| コ | コキッ桑 | 57 | ご祝儀の村役 | 181 | |
| コ | 刻印 | 122 | ご祝儀の料理目録 | 181 | |
| コ | 黒式尉 | 248, 268, 275 | こじゅうはん | 25 | |
| コ | 虚空藏さま(様) | 130, 147, 149 210, 234 | 呼称 | 238 | |
| コ | 荒神さま(様) | 39, 42, 45, 60, 143 199, 226, 228, 244 | 小正月 | 26, 27, 53, 60, 93, 143 193, 198, 199, 201, 229 | |
| コ | 荒神柱 | 39, 60 | 小正月飾り | 205 | |
| コ | 庚申まち(待) | 154, 157 | 小正月関係 | 204 | |
| コ | 庚申待の晩 | 29 | 小正月十四日 | 201 | |
| コ | 荒神マユ(まゆ) | 39, 45, 60 | 小正月の飾り物 | 198 | |
| コ | 洪水 | 116 | 小正月のダンゴ(団子) | 198, 208 | |
| コ | 鉢石 | 70 | 小正月のマユ玉 | 201 | |
| コ | 小歌吉利 | 259 | 小正月の餅 | 199 | |
| コ | コウタケ | 20 | 小正月バナ | 198 | |
| コ | 耕地 | 115 | ご精進 | 218 | |
| コ | 幸知 | 2, 8 | 五升だき | 234 | |
| コ | 幸知ツブレ(つぶれ) | 98, 101, 242 | 五升だき釜 | 62 | |
| コ | 幸知の戸数 | 98 | ご上米 | 55 | |
| コ | 交通 | 74 | 小じょうや | 279, 281 | |
| コ | こうで | 83 | コジョハン | 28, 54 | |
| コ | 香典 | 185, 246 | | | |
| コ | 香典受けの帳場 | 185 | | | |

| | | | | | |
|-------------------------------|--|-------------------------|-------------------|------------------|----------------------------|
| クミ(組)..... | 33, 95, 96, 101, 103 114, 115, 119, 179 188, 249 | クレエン | 179 | ケエトウギリ..... | 54 |
| 組合..... | 10, 35, 77, 96, 118, 119 120, 178, 181, 184 | くれ方(れられ方) | 111, 119 | ケーパシラ | 204 |
| 組頭..... | 103, 209 | 暮勘定 | 121, 229 | ゲーモネ | 244 |
| クミエ | 181 | クレグシ..... | 35 | ゲエロッコ(ゲーロ) | 77, 244 |
| 組長..... | 95, 98, 102, 103, 114, 131 135, 143, 161, 211, 221 | クレモチ..... | 35 | けが..... | 84 |
| 組(組合)とムラ | 118 | クロ..... | 53 | ケカチ..... | 25, 102 |
| 組の女衆 | 181, 187 | 黒いアザ..... | 85 | けさ | 168 |
| 組の伍長 | 184 | 黒糸..... | 83 | けさ掛け子 | 168 |
| クミの人(組の人) | 33, 180, 184 185, 186 | 黒髪神社 | 141 | けさ五郎 | 168 |
| クミヨリエエ | 114 | くろ刈り | 196 | ケサッ子 | 168 |
| 雲越家 | 127 | 黒けし | 44, 47, 48 | 夏至 | 45 |
| 雲越のイチマキ | 206 | 黒炭..... | 48 | けしひね | 21 |
| クモのはなし | 237 | クロヌリ | 54 | ケシネバコ | |
| くもみ神社 | 131 | 黒ノッポウ | 241 | (けしひねばこ) | 5, 21, 22 |
| 区有書類 | 102 | クロハオリ | 85 | ケシ坊主 | 83 |
| 区有文書 | 95 | 黒マムシ(まむし) | 92, 93 | 下駄 | 92, 233 |
| 供養塔 | 161, 163 | 黒無垢 | 215 | ゲダイ | 244 |
| 供養牌 | 164 | 桑 | 56, 57, 88 | けた入り | 29 |
| クラ | 52 | タワ(鍼) | 50, 71, 211 | 結婚 | 118, 177 |
| クラ(カモンカ) | 63 | タワ置場 | 38 | 結婚式 | 27, 86, 118, 119, 179, 180 |
| 倉 | 233 | タワガラ | 68 | 結婚の条件 | 178 |
| 倉印 | 252 | 桑きりき | 58 | 結婚ばなし | 118 |
| 倉の戸口 | 198 | 桑つみ | 57, 58 | 決算 | 114 |
| クリ | 18, 20, 24 | 桑つみざる | 57 | 血清注射 | 93 |
| 栗の木 | 70 | タワの木 | 207 | 血族 | 126 |
| クリの実 | 9 | タワの木に出るキノコ | 81 | ケットウ | 11 |
| 栗やき | 25 | 桑烟 | 56 | 結髪 | 17 |
| 栗生左衛門尉 | 149, 241 | 桑原組 | 116, 127 | 血判 | 120 |
| 栗生沢 | 241 | 桑原神社 | 97 | ケツを抜かれる | 85 |
| クルマ | 125 | 桑原神明 | 222 | 毛巻 | 242 |
| 車仕事 | 21 | 桑ぶるまい | 58 | ケムシリ包丁 | 24 |
| 車ひき | 75 | 桑の実 | 245 | けむだし | 48 |
| クルミ:(くるみ) | 24, 27, 198 225, 244 | タンチカガリ | 227 | ケモノ | 242 |
| クルミの皮 | 9 | 九日餅 | 227 | ゲヤ | 37, 39 |
| クルミの木の皮 | 18 | ケ | | けやきモタセ | 20 |
| クルミの樹皮 | 18 | 渕山莊 | 113 | けんか | 28 |
| クルミミソ(クル ミミソ, くるみみそ) | 10, 27, 225 | 京成寮 | 113 | けんかの唄 | 278 |
| クルミモチ | 24 | 芸達者 | 269 | 剣術使い | 70 |
| クルミレンガク | 204 | ケイ道 | 218 | 憲政岩 | 5 |
| グルワ | 244 | 芸人禮札 | 271 | 検地 | 111 |
| クレ(芝) | 35, 36 | 芸能保持者 | 275 | 建築 | 119 |
| 暮..... | 26 | 敬老会 | 269 | 検地用具箱 | 104 |
| | | ケエカキボー (ケーカキ棒) | 53, 203, 204, 212 | ケンチョン | 23, 127, 204 |
| | | ケーコ神 | 201 | ケンチン汁 | 204 |
| | | ケーコブルメエ | 59 | ゲンノショウコ | 81 |
| | | ケーコ見舞 | 103 | 原本きり | 47 |
| | | ケエド(ケード) | 179, 220, 244 | 玄米 | 183, 284 |
| | | | | 建明寺 | 139, 210 |
| | | | | 建明寺厨子の棟札 | 152 |

| | | | | | |
|---------------------|--|------------------------------|--|--------------|---------------------------|
| 興舞 | 267 | タイゾメ(食初め) | 171 | 区長株 | 102 |
| 共有財産 | 95, 99 | 食いぬけ | 29 | 区長事務所 | 275, 276 |
| 共有地 | 30, 32, 34, 45, 46 56, 111, 112, 114 | 食いもんげんか | 91 | 区長選挙 | 114 |
| 共有地の入会権 | 116 | 区会議員 | 102 | 区長代理 | 102 |
| 共有の採草地 | 50 | くき | 20, 64 | 区長ダンス | 102 |
| 共有林 | 45, 112, 216, 227 | くぐり | 47 | ロドメ | 47 |
| 共有林の下刈り | 115 | タグリ戸 | 37 | 区長の選び方 | 103 |
| 曲芸 | 276 | 草 | 50, 56, 89, 202 | 区長のしごと | 103 |
| キヨメ | 187 | 草ガラ | 235 | 区長の事務引継ぎ | 248 |
| 切られ与三郎 | 78 | 草刈(り) | 14, 28, 68, 74 90, 215, 234 | 区長の用算箇 | 104 |
| 切唄 | 255 | 草刈(り)場 | 56, 66 | 区長引継 | 104 |
| 切キズ | 93 | 草かりなわ(草刈り繩) | 68, 195 205, 229 | タツ | 63 |
| ギリギリ | 78 | 草ニウ | 246 | くつかけ柳(杏掛ケ柳) | 135, 211 |
| ギリギリ船屋 | 78, 276 | 草餅 | 209 | タツガラサシ | 122 |
| ギリコミ | 24 | 草むしり | 43 | タツエ | 52 |
| 切り昆布 | 180 | グシ | 32, 34, 35, 42, 60 | タツキメオト | 178 |
| キリゾメ(切りぞめ、 伐り初め) | 195 | くし拂(串拂) | 118, 229 | くづや | 32 |
| キリハギ | 195 | タシコウガイ | 81 | くつわ | 244 |
| 切り火 | 179 | クジ取り | 188 | ダナシ | 243 |
| 切り干し | 52 | クジュウ | 92 | 国固め | 265, 266 |
| 切り餅 | 118, 193 | 区条例 | 103 | 国定忠治 | 284 |
| 柄生 | 69 | クズ(くず) | 6, 25, 69 | タヌギ | 112 |
| 桐生のはたや | 66 | クズ粉(くずこ) | 25, 69, 73 | クネ | 243 |
| キリューニン(寄宿人) | 99 | くず粉 | 77, 118 | タバリオシメ | 228 |
| きりょう | 66 | くず米 | 54 | タバリジメ | 193, 227, 228 |
| きれこ | 170 | クズッカキ | 69 | 配りバナ | 201 |
| キワダ | 18 | クズの根 | 20 | 配り物 | 86 |
| キワダの皮 | 9, 18, 38 | くずの葉の山の口 | 113 | 区費 | 113, 114, 115, 164 |
| キワダの樹皮 | 18 | クズフジ | 88, 220 | 区費の集金 | 104 |
| 金一封 | 181 | クズ堀り | 69 | 区費の徴収 | 103 |
| 禁忌と呪い | 167 | くすまゆ(マイ) | 59, 78, 125 | 久保 | 249 |
| キンコウボー | 55 | クズ屋根 | 119 | クボッコ | 243 |
| 金鶴勲章 | 139 | 薬屋 | 78 | クマ(熊) | 61, 62, 63, 73, 171 |
| 近所 | 171, 172 | 口説 | 277, 284 | クマイチゴ | 20 |
| 近所の人 | 28, 31 | クゾ | 26, 69 | 熊オトシ | 98 |
| 近所まわり | 181 | クゾ買ひ | 26 | 熊狩(り) | 44, 73 |
| 近親 | 34, 196, 210 | クゾス | 243 | 熊とり | 61, 86 |
| 近親者 | 118, 119, 131, 183 186, 188, 212, 220 | くぞの根 | 25 | 熊とり団ちゃん(団さん) | 44, 61 |
| キンタマ | 83 | くぞば | 61 | 熊取り貧乏 | 73 |
| 均等割 | 112 | クゾバ(くぞば)の山の口 | 44, 45 | 熊に食われた話 | 63 |
| 金屏風 | 181 | くぞ藤 | 224 | 熊の胆 | 84 |
| 近隣の協力 | 185 | くぞ藤 | 31, 218 | 熊の肝 | 73 |
| ク | | ロサダメ(ロさだめ) | 178 | 熊野の氏子 | 86 |
| 区 | 95, 116 | ロ糊み | 115 | 熊野様(熊野神社) | 126, 151, 173 221, 222 |
| 食い講 | 143 | ロベラし | 66 | 熊の臍臍 | 84 |
| | | ロもし | 47, 48 | クマの肉(熊の肉) | 63, 222 |
| | | 45, 46, 88, 95, 96, 102, 103 | | (熊の)冬ごもり | 44 |
| | | 区長 | 112, 114, 115, 116, 117 206, 214, 270, 282, 283 | クマノフニカ | 44 |
| | | | | 熊ばち | 84 |

| | | | | | |
|-------------|---|------------------|--------------------------------|--------------------|---------------------------|
| 乾燥箱 | 59 | 紀州 | 248 | きばな役 | 279 |
| カンダチ | 88, 243 | キジリ(きじり) | 40, 125, 280 | きばな役人 | 279, 280, 281 |
| 元旦 | 194 | きじり役 | 279 | キビ(黍) | 20, 59 |
| 官地 | 46 | きじり役人 | 279, 280, 281 | キミ | 20, 24 |
| カンテラ | 64 | 奇人 | 121 | キミモチ(キミ餅) | 20, 24, 228 |
| カンナベ | 22 | きず | 83 | 義務人足 | 4, 74 |
| 神主 | 31, 82, 115, 117, 131, 135 148, 164, 209, 216, 219 | 傷薬 | 131 | 義務人夫 | 115 |
| カンノ | 44, 50, 51 | 木曾 | 248 | 木村組 | 99 |
| 観音経 | 156 | 義太夫 | 111, 248, 253 254, 269, 270 | 着物 | 11, 86, 89, 118, 173, 184 |
| 観音講 | 75, 154 | 義太夫語り | 270 | 着物のうら | 170 |
| 観音さん(観音様) | 145, 146, 147 148, 156, 217 | キタケ | 88 | 着物のまぶり | 19 |
| 観音像 | 145 | 木出し唄 | 281, 282 | 鬼門 | 50 |
| 観音堂 | 114, 139, 145, 161 | 木太刀 | 141 | 鬼門除け | 31 |
| 願バタシ(願果し) | 149, 165 | 北枕 | 87, 183 | ギャクドウ石 | 143 |
| かんぴょう | 170, 197 | 忌中の印 | 185 | キャバン(キャバン、 脚鉗) | 13, 17, 184 |
| キャンクロ | 243 | 議長 | 216 | 木道 | 282 |
| 乾麺 | 217 | 伐っては悪い木 | 144 | 木やり歌(木やり唄、 木道唄) | 56, 277 281, 282 |
| ガンモドキ | 28 | キツネ(きつね、 狐) | 82, 92, 204 222, 235, 246 | 救荒食品 | 25 |
| カシヤキ | 51 | 狐つき | 92 | 九死に一生(九死一生) | 155, 168 |
| 官有林 | 111 | 狐にばかされた話 | 235 | 旧正月 | 205, 206 |
| 観覽席 | 269, 270, 273, 274 | 狐火 | 92 | キューツク | 243 |
| 官林 | 234 | 木戸鉢 | 213 | 牛肥 | 37 |
| キ | | | | | |
| キアメシ | 24 | キナコ(きなこ、 黄な粉) | 24, 28, 54, 278 | キエワリ | 84, 85, 115, 187 |
| 生糸 | 59 | きなこ砂糖 | 145 | (キューリー) | 213, 214, 215, 217 |
| キウリ | 79 | 桐 | 15 | きゅうり | 219, 220, 243 |
| ぎおん(紙園) | 115, 213, 251 | キヌガサ様 | 201 | キューリグネ | 243 |
| 紙園まつり(紙園祭り) | 191, 216 | 衣笠大明神 | 60 | キュウリの馬 | 217, 218 |
| 着替え | 78 | 桐ソッキー | 18 | 旧暦 | 207, 210 |
| 木籠 | 58 | 桐のねんねこ | 118 | キョウカタビラ | 184 |
| 木がはらむ日 | 86 | 杵 | 68 | 行者 | 127, 165, 231 |
| 祈願祭 | 164 | キノエニ講 | 157 | 行商(人) | 57, 73, 78, 170, 220 |
| 義貴坊 | 151 | キノエニ塔 | 160 | 競書会 | 177 |
| 義貴坊の化身 | 151 | 木の伐初め | 199 | | |
| キキョウ | 217 | 木の構 | 82 | | |
| 飴鍊 | 121 | キノコ(きのこ) | 6, 9, 20, 122, 237 | | |
| 木くらげ | 20 | キノコイワ | 70 | | |
| 着ゴザ | 11 | キノコイワの金 | 70 | | |
| 木こり | 283 | キノコ籠 | 72 | | |
| 木細工 | 68 | キノコ汁 | 33 | | |
| 木崎音頭 | 286 | 木の実 | 9 | | |
| キザーン | 52 | 木鉢 | 39, 46, 67, 68, 192 | | |
| 鬼子母神 | 155 | 木鉢造り | 46 | | |
| 汽車 | 236 | 木鉢とり(取り) | 44, 65 | | |
| | | きばな | 280 | | |
| | | | | 経墓 | 164 |

| | | | | | |
|--------------------|--|------------|---|----------------|--------------------------------|
| 火防神 | 205 | 神迎 | 225 | カリシキ(かりしき、刈り敷) | 45, 52, 112 |
| カボチャ | 172, 226 | 神臨 | 193 | カリシキカリ | 94, 198 |
| カマ(川の深み) | 64 | 仮面 | 266, 268 | カリバ | 62 |
| かま(炭焼の) | 47, 48, 49 | 仮面型 | 260 | 仮ばり | 186 |
| カマ(籠) | 165, 211 | かめのこだわし | 194 | カリブン | 178, 179 |
| 釜 | 235 | カモ | 77, 280 | カリボシ | 14 |
| カマ枝 | 50 | カモジ | 81 | かり屋 | 222 |
| カマ神様(かま神様)、 釜神様 | 199, 201, 223 224, 225, 226 | カモシカ(かもしか) | 63, 85 | かるた | 202 |
| 釜神櫻 | 225 | 鶴役 | 122 | カルタ会 | 177 |
| カマ神のかけ穂 | 224 | 家紋 | 127, 252 | 家例 | 192, 193 |
| カマギッチョ | 245 | 家門不幸 | 185 | 川遊び | 220 |
| カマギヨメ | 224 | カヤ(かや、萱) | 6, 10, 32, 33, 34, 36 38, 42, 46, 48, 50, 84 | 皮かばん | 77 |
| カマキリ | 245 | カヤ上げ無尽 | 34 | 川上の歌舞伎舞台 | 274 |
| かまくら | 6 | カヤ落とし | 33 | 川上の地名 | 238 |
| ガマゴザ | 38 | かやがえ無尽 | 119 | 川上の天王様 | 214 |
| 難差し | 67 | カヤカリ(カヤ胡) | 33, 90, 116 | 川木 | 220 |
| かます | 55 | かやかり(萱刈) | 119, 120 | 川魚 | 20 |
| 竈 | 80 | カヤだし(萱出し) | 33, 119 | 川崎大師 | 174 |
| カマニワ | 47, 49 | カヤ積み | 33 | 川ながれ | 225 |
| カマノロアキ | 215 | カヤトリ | 32, 33 | 川流れの死 | 189 |
| かまふた | 124 | カヤ(かや)の箸 | 155, 220, 221 | 川流れ餅 | 226 |
| 釜のふたのやきはがし | 215 | カヤの実 | 24 | 川の魚 | 26 |
| カマノヤキヘガシ | 25 | カヤの山の口 | 44, 46, 112 | カワムキ | 20 |
| カマバ | 47 | カヤバ(カヤ場) | 32, 45, 112 | カワラギ | 217 |
| カマ柱 | 39 | カヤひき(カヤビキ) | 11, 33 | 河原道 | 74 |
| 蒲原舞子 | 5, 78 | カヤキ | 10 | 変り事 | 87 |
| かまぶち | 241 | かやぶきの屋根 | 201 | かわりもの | 57 |
| かまぼこ | 181 | 茅焼野 | 52 | 棺 | 94, 184, 186, 189 |
| 紙 | 89 | カヤ屋根(萱屋根) | 10, 34, 36 37, 42, 141 | 廟 | 149 |
| 髪 | 202 | カヤ山 | 33 | 寒あき | 206 |
| 神さま(神様) | 91, 197 | 萱ヨセ | 120 | 棺おけ | 118 |
| 神さまのとまり木 | 50 | カユ(粥) | 203, 225 | 漢学 | 177 |
| かみしも | 15 | カニ箸 | 203 | 漢学の師匠 | 177 |
| | 38, 39, 40, 54, 60, 87, 140 143, 155, 156, 167, 170 | 火雷 | 88 | カンクサマ | 243 |
| 神だな | 171, 184, 185, 192, 193 (神棚) | カラス(鳥) | 85, 87, 205, 277 | ガングラ | 241 |
| | 196, 197, 198, 199, 200 201, 203, 206, 207, 208 213, 217, 220, 225, 228, 229 | カラスマドマリ | 36 | 冠婚葬祭 | 96, 118, 181 |
| 上道具 | 86 | カラスの口 | 192, 212 | カンジキ(かんじき) | 6, 9, 15, 16 85, 112 |
| カミナガ虫 | 38 | 鳥鳴き | 182 | かんじき草 | 196 |
| 神無月 | 86, 223 | カラスノコブ | 84 | 元日 | 104, 192, 193 194, 229, 246 |
| カミナリ | 79, 81, 206 (かみなり、雷) | からだ | 243 | 元日の朝ゲ | 192 |
| 雷様の鳴り上り | 88 | カラド | 243 | 元日の朝風呂 | 194 |
| 紙人形 | 190 | から荷 | 49 | 元日の若水 | 193 |
| 髪の毛 | 171 | からむし | 17 | 勘定帳面 | 208 |
| カミノハチ(神の鉢) | 68, 192 | カラユ | 85 | 間食 | 28 |
| 神まいり(神参り) | 160, 183 | 狩(り) | 16, 81, 85 | 間食品 | 25 |
| 上三原田の歌舞伎舞台 | 273 | 刈入れ | 54 | ガンス | 243 |
| | | 狩人 | 64, 85 | 観世音菩薩 | 147 |
| | | 刈り上げ祝 | 225 | | |

| | | | | | |
|--------------------------|-------------------------------------|--------------|---|---------------|-------------------------------------|
| 掛金 | 120 | かしらつき(頭付) | 224, 229 | カッパ駒引伝説 | 79 |
| 掛軸 | 118, 127 | かしわ餅(柏餅) | 212, 215 | カッパの生態 | 80 |
| カゲショウジン(影精進) | 94, 215 | カスズキ | 125 | カッパのキズ薬 | 79, 80, 131 |
| 陰陽 | 138, 183 | カズノコ | 180 | カッパのはなし | 237 |
| カケトリ | 121 | カズノモチ(かづのもち) | 26, 53 | カッパ柳 | 81 |
| カゲニイル | 94 | カズラ | 25 | カツブン(かつぶし) | 172, 193, 227 |
| 掛け舞台 | 270 | かすり | 237 | カツブン汁 | 172 |
| 懸仏 | 7 | かぜ(風邪) | 83, 139, 158, 161 174, 193, 203, 205 | カツブンミソ | 172 |
| カゲミマイ | 54, 106 | 風 | 79, 242 | 家伝藁 | 131 |
| (陰見舞) | 118, 215, 218 | 風邪神 | 158 | カド | 168, 220 |
| 掛け物 | 204 | カゼシズメ | 164 | カド(門) | 202, 206, 217, 219, 220 |
| カゴ(かご、籠) | 57, 77, 78, 226 | 風の神 | 82, 164 | 門かざり | 204 |
| かごの目 | 88 | カゼノカミ送り | 82 | カドロ(門口) | 81, 185, 206 |
| カサ(輪のフタ) | 82 | 家族 | 119 | 門付 | 276 |
| カサ(家のよび名) | 122 | 家族の私金 | 96, 125 | カドバナ | 198 |
| 笠 | 11, 256 | かたあげ | 16 | かど火 | 217, 218, 220 |
| 火災 | 178 | カタオシ | 194 | カド松(門松) | 126, 160, 191, 204 226, 227, 228 |
| 傘通り | 287 | カタクリ | 20, 25 | カド松の松ダイ | 200 |
| 風神様 | 164, 219 | 肩車 | 244 | 門迎え | 179 |
| かさねもち | 32 | かたつむり(蝸牛) | 244 | カナコギ | 54 |
| カザマツリ(カザ祭り、 風祭り) | 115, 164 216, 219 | 刀 | 122, 183 | 金ごき | 284 |
| 風まつりのお札 | 164 | 片野元良 | 231 | カナツクギ | 243 |
| 飾りがえ | 203 | カタハ(かたは) | 20 | カナックツ | 169 |
| かざりがし | 204 | 形見分け | 188 | かなづら | 246 |
| 飾り舞子 | 251 | カタル | 232 | カナババ | 169 |
| 飾り付け | 221 | カチカチ道 | 74 | 金山 | 70 |
| かざりもの(飾り物) | 118, 179 | 家畜 | 204 | 火難 | 157 |
| | 180 | 家畜のふみくさ | 46 | カニ(かに) | 83, 130 |
| 42, 85, 86, 87, 147, 148 | | から栗 | 229 | カニの汁 | 130 |
| 火事 | 167, 168, 174, 195, 201 | カチナワ | 11, 76, 205 | カニババ | 169 |
| | 203, 209, 233 | カチ荷 | 195 | 証 | 268, 284 |
| 隕死 | 29 | 家長 | 194 | カネカンジキ | 6, 15 |
| 火事援助 | 116 | カチ渡り | 73, 207 | 金包み | 179, 220 |
| 葉子折 | 210 | かつお | 229 | 鐘の音 | 183 |
| かじか | 20 | かつおぶし(かつお節) | 170, 171 | 金の神様 | 224 |
| かしき | 281 | かづけえし | 47 | カネヤマザワ | 70 |
| 果実 | 23 | かつこ | 266 | カノ | 51 |
| かじとり | 46, 47 | カッコウ | 265 | カノエサルの日 | 154 |
| カシの木 | 70 | 学校 | 114 | 鹿の子舞 | 263 |
| カシの実 | 20 | カッコウドリ | 89 | 鹿野沢(村) | 3, 99, 101, 107, 210 |
| カシバミ | 20 | かっここの舞 | 266 | かのはし | 76 |
| 鹿島講 | 157 | 合掌 | 32 | 川ビタリ | 213, 226 |
| 葉子屋 | 204, 220 | カッヂキ | 177, 198, 201, 235, 243 | カビタリモチ(川ビタリ餅) | 225 226 |
| 鍛治屋 | 265, 266 | カッヂキ焼 | 112, 120 | 歌舞伎 | 111, 213, 269, 272 |
| 鍛治屋の弟子 | 266 | かっこきの山の口 | 113 | 歌舞伎芝居 | 273 |
| 迦葉山 | 39, 60, 74 | カッヂキチラシ | 54 | 歌舞伎舞台 | 268, 269, 274 |
| かしょう山講(加葉山講) | 157 | 勝手番 | 180 | カブッテル | 245 |
| 加葉山の尼居等 | 154 | カッパ(河童) | 11, 80, 84, 85 215, 220, 237 | かぶり物 | 10 |
| カシラ | 250, 251, 252, 256 260, 261, 262 | | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|-------------|--|-------------|--------------------------------|
| お松道え | 226 | 女衆のこづかい | 125 | かえり荷(帰り荷) | 49, 66 |
| お松をはずす | 204 | 女衆の夜なべ仕事 | 49, 68 | 蛙 | 244 |
| おまつり(お祭り) | 26, 114 117, 125 | 女だけの講 | 117 | 顔役 | 103 |
| オマト | 26 | 女仲人 | 181 | カカシ | 52 |
| お守り | 19, 173 | 女の馬方 | 65 | 鏡餅 | 85, 167 |
| おまわりさん | 243 | 女の噂 | 233 | 鏡餅 | 193 |
| オミウチ米 | 228 | 女の仕事(女衆の仕事) | 66, 89, 91 | かがり | 187 |
| おみおつけ | 28 | 女の衆 | 16 | 係長 | 104 |
| オミキ(おみき) | 31, 156, 164, 170 171, 221, 222 | 女の節供 | 210 | 係長箱 | 104 |
| オミゴク(おみごく) | 167, 211 222 | 女のバチ | 122 | 柿 | 52, 83, 172, 222, 229 |
| オミタマ様 | 192, 204 | 女のフンドシ | 81 | がき(餓鬼) | 86 |
| お見舞 | 170, 210 | オンネンガエシ | 81 | ガキ(がき)(子ども) | 204, 246 |
| お宮参り | 171, 173 | オンバコ | 25 | 柿売り | 53 |
| おむつ | 124, 170 | オンベカツギ | 243 | カギオクミ | 19 |
| お召 | 15 | おんべら | 164 | カキシン | 23 |
| おめじじゃくし | 82 | カ | | 書(き)初め | 192, 194, 201, 202 |
| お召の糊 | 69 | 蚊 | 43 | 柿平組 | 96 |
| 表 | 170 | 蚊イブシ | 43 | カギダケ(カギ竹) | 40, 82, 121 |
| 母屋 | 10, 55 | 会館 | 116, 147 | かぎ竹、鉤竹 | 206, 243 |
| 親 | 118, 125 | 快気祝い | 118 | カギ竹の禁忌 | 42 |
| オヤカタ(親) | 64, 120 | 買い桑 | 56 | カキダシ(かきだし) | 47, 48 |
| オヤゲナー | 243 | かいこ(蚕) | 61, 68, 121, 124 133, 207, 217, 243 | カギッピキ | 198 |
| 親子の盃 | 180 | 蚕糸 | 59 | 柿の皮餅 | 27, 52, 53 |
| オヤジ(おやじ、親父) | 47, 91 122, 242 | 蚕(蚕神様) | 39, 60, 94, 134, 143 | 柿の木 | 21, 224 |
| おやつ | 26 | 蚕(の神様) | 199, 201, 204, 207 | 柿の串 | 53 |
| 親の家 | 118 | 蚕がやすむ | 27 | 柿の漬 | 83 |
| おやばら七日(親ばら七日) | 124 | 蚕収入 | 57 | 柿の葉 | 82 |
| 親分 | 61 | 蚕守護 | 60 | 柿のフサ | 172 |
| オリ | 57 | 蚕壇のわく | 38 | 柿の実 | 201 |
| オリサン | 121 | 蚕の祝い | 59 | かき棒 | 71 |
| オリモノ(おりもの) | 73, 169 | 蚕のタネ紙 | 198 | 柿むき | 21, 52, 90 |
| お留守様 | 220 | 蚕の手伝い | 91, 178 | ガキメラ | 189 |
| お礼まいり(参り) | 60, 167, 183 | カイサイワリ(皆済割) | 114 | 柿もぎ | 53 |
| 大蛇 | 231, 266 | 買芝居 | 269 | カキモチ | 27 |
| 大蛇退治 | 266, 267, 268 | 会社 | 281 | 家業 | 92 |
| 大蛇面 | 268 | かいしょげ代 | 279 | カギンコあそび | 198 |
| おわん | 29 | 会幕者 | 184, 185, 187 | 学会 | 190 |
| オワンのふたの話 | 237 | 介添人 | 179, 180 | かくすけ(角助) | 250, 253, 254 |
| 音楽療法 | 282 | 害虫除け | 206 | 格天井 | 275 |
| 温泉伝説 | 113, 246 | カイドウ | 115 | 角兵衛子 | 276 |
| 温泉の神 | 7 | カイベ | 45 | 角めんば | 279 |
| 御嶽教の行者 | 149 | カイベオケ | 80 | かぐら(神楽) | 135, 136, 260 266, 267, 276 |
| 音頭とり | 165 | 開発会社 | 113 | 神楽座 | 266, 267 |
| 音頭をとる者 | 281, 283, 285 | 回覧板 | 104, 114 | 神楽鉦 | 248, 275 |
| 女衆 | 15, 21, 65, 69, 116, 119, 125 131, 157, 180, 202, 270 | 改良炭 | 48 | 神楽殿 | 266, 268 |
| | | 会礼 | 194 | 神楽面 | 266 |
| | | カエデ | 49 | 神楽連 | 264 |
| | | | | かくれ里 | 8 |
| | | | | 掛け売り | 121 |

| | | | | | |
|-----------------|-------------------------|------------------------|---------------------|---------------------------|---------------------------|
| おせいば(お歳暮) | 118, 181, 182 | 夫 | 123, 167 | オハグロ(おはぐろ、) | 17, 18 |
| オセーベー カ | 243 | オテンシヨ | 187 | お歯黒) | 181, 182 |
| 尾瀬ヶ原 | 73 | お手玉うた | 278 | オハグロトンボ | 243 |
| オセキ | 35 | お寺 | 219 | オハグロ美人 | 17 |
| お節供 | 125 | お寺参り | 219 | オバコ | 122 |
| 尾瀬の落人 | 127 | お天狗様 | 193 | オバサン(おばさん) | 122, 123 |
| オセン | 136 | お天狗様のとまり木 | 144 | 179, 246 | |
| おぜん(お膳) | 198, 279 | お天王様 | 157 | オバヤン | 123 |
| お膳箱 | 29 | オトウ | 122, 123 | オハヨウ | 243 |
| お膳運び | 90 | お堂 | 210 | オハヨーガンス (オハヨウガヌ) | 242 |
| オセンマイ | 157 | オトウサン | 123 | おはらい様 | 229 |
| お雑煮 | 193, 228 | 弟 | 243 | オバンデガンス | 242, 243 |
| おそなえ | 93, 196, 213, 228, 229 | オトウフ | 141 | オバンナリマシタ | 242 |
| おそなえもち | 195, 201, 203 (お供え餅) | お灯明(お燈明) | 167, 183, 221 | 帯 | 11, 87, 214 |
| オタガイッコ | 119 | オトクンチ(オトグンチ) | 221, 222 | オヒガミ様 | 170 |
| おたか盛り | 154 | おどけ | 266 | オヒガミ参り | 170 |
| オタキアゲ | 156, 157 | 男 | 89 | お日様 | 193 |
| オタナ(おタナ、) | 166, 193 | 男衆 | 14, 16, 65, 69, 157 | オヒチャ | 171 |
| おたな(御懶) | 205, 229 | オトシ | 62 | おひな様 | 210 |
| お團さがし | 196, 204, 205 | お年玉 | 118, 194 | 小日向 | 73, 75, 99, 154, 270 |
| おたね | 186 | オトシバ | 62 | 小日向船山 | 70 |
| オタマジャクシ | 77 | オトソ蓋 | 180 | 小日向砥 | 69, 70 |
| オタル | 111 | オトッパン | 122, 123, 246 | 小日向の地名 | 240 |
| 御樽 | 103 | おとな(大人) | 90, 91, 118, 144 | 小日向の八石 | 51 |
| お誕生 | 172 | 御戸帳 | 254 | オヒネリ | 170 |
| お茶 | 118, 180 | オトマガトキ | 92 | 踊り方 | 252 |
| お茶がし | 54 | 御留山 | 44 | 蹠子(蹠り子) | 250, 251, 252 |
| オチャボウズ | 210 | 踊り手 | 285 | 253, 256 | |
| お中元 | 118, 181, 182 | 踊り場 | 271 | オヒマチ(お日待) | 127, 143, 153 157, 208 |
| オチョウ(雄蝶) | 180 | おなべ | 68 | | |
| 落人 | 8, 231 | 鬼 | 81, 83, 88, 208 | | |
| おちんこ | 86 | オニウチキ (オニウチ木) | 126, 201, 227 | | |
| お通夜 | 217 | 鬼きめ | 278 | | |
| オッフォミソ | 172 | 鬼の目玉 | 201 | | |
| オッカア | 122, 123, 246 | おにばあ | 236 | | |
| オッカケ | 14 | おねしょ | 24 | | |
| オッカサン | 122, 246 | 斧 | 283 | | |
| オッカド | 183, 198 | オノコロジマ | 180 | | |
| オッカドの実 | 182 | おげ | 179 | | |
| おっかなぶち | 241 | 叔母 | 122 | | |
| オッカキー | 243 | オバア | 123, 246 | | |
| オックベ | 243 | おばあさん | 22, 172 | | |
| オッケー | 243 | お墓 | 133, 220 | | |
| オッケニアニイ | 123 | お墓参り | 210, 219 | | |
| オッケエオジ | 123 | おはぎ | 210, 218, 220, 226 | | |
| オッケエオバ | 123 | | | | |
| オッチャン | 122, 123, 246 | | | | |
| お月様 | 224 | | | | |
| お月様の餅 | 223 | | | | |

| | | | | | | |
|--------------------|--|-----------|--------------------------------|--------------|----------------------|-------------------|
| 大山の口 | 45 | 奥利根入り | 44 | オジサン | 122 | |
| オオニウ | 232 | 奥の院 | 131 | おしすし | 5 | |
| 大雪 | 88, 203, 246 | 奥の座敷 | 243 | オシタステ | 180 | |
| 大雪の年 | 42 | 奥の十二(様) | 195 | オシッカネシ | 169 | |
| オオレン | 81 | オタマノ様 | 126, 221, 222 | お七夜 | 171 | |
| 大若 | 90 | オグラの灰 | 9 | お七夜祝 | 171 | |
| 大若衆 | 90 | お倉開き | 197, 198 | おしつこ | 86 | |
| 大わらじ | 160 | おくり火(送り火) | 218, 220 | オジッポー | 123 | |
| お返し | 170 | 送り盆 | 217, 220 | オシトギ(おしとぎ) | 128, 130 221, 222 | |
| 御神楽 | 211 | オタンチ | 126, 156, 191 192, 221, 222 | オシボコきり | 33 | |
| 岡崎 | 258 | オタンチの日 | 161 | オシミギ | 145 | |
| 岡崎の座 | 260 | お庚申待 | 154 | おしめ(おむつ) | 124, 170 | |
| オカシラフキ | 31, 157, 171 (お頭付、尾頭付) | 181, 223 | オコサマ(お姫さま) | 204, 243 | おシメ | 30, 193, 199, 202 |
| おかしら付の魚 | 224 | オコジョ | 129, 145 | (しめなわ) | 204, 227, 228, 229 | |
| おかざり(お飾り) | 192, 198, 227 | オコソ | 10 | オシメ配り | 227 | |
| おかげ | 26, 29, 279 | オコソズキン | 10 | オシメナイ | 227 | |
| おかた | 179, 180 | オコト | 208 | オシメわら | 94 | |
| お勝手 | 29, 66, 169, 194 | おことあれ | 88 | オジヤ(おじや) | 24, 172, 197 | |
| お勝手仕事 | 14, 66, 90, 119 | オコトおさめ | 226 | お十二様 | 199 | |
| オカネ | 169 | オコト始め | 208 | オジュメシ | 155 | |
| オガミヤ | 141 | オコモリ(おこ | 131, 135, 136 | おしゃか様(オシャカ様、 | 209 | |
| おかげ | 250, 256, 265, 266 | もり、お籠り) | 139, 160, 211 | おしゃかさま、おしゃか | 210 | |
| オカユ(おかげ、お粥) | 155, 172 | 216, 221 | さん) | 211 | | |
| オガラ | 39, 74, 179, 180, 220 | オコモリ堂 | 136 | お正月 | 26, 30, 125 | |
| オガラの灰 | 18 | オコモリ屋 | 135 | お正月棚 | 204 | |
| オカリヤ(おかりや) | 214, 219, 222 | おこわ | 179 | 和尚さん(和尚さま) | 118, 183, 220 | |
| お元日 | 193 | オサ | 81 | お相伴(役)(脚相伴) | 118, 179, 180 | |
| オガンショ | 82, 139, 155, 161, 164 165, 167, 173, 183 | お賽鉢 | 167 | おしょうゆ | 24 | |
| オガンショウハタシ (バタシ) | 155, 167 | オサキ | 86, 92 | オシラ | 226 | |
| オカンダチ | 88, 243 | おさきぎつね | 92 | オシラさま(オ | 57, 60, 94, 143 | |
| オギオン(お紙團) | 214, 216 | オサキフカイ | 92 | シラ様、おしら | 198, 199, 201 | |
| オキタさん | 235 | オサゴ | 133, 164, 170, 195 (おさご) | さま、オシラサマ) | 204, 207, 208 | |
| 翁 | 266 | お座敷芸的 | 217, 227, 237 | 227 | | |
| 翁式三番 | 248, 275 | オサラ | 160 | オシラサマのダンゴ | 27 | |
| 翁面 | 275 | お産 | 24, 50, 86, 166, 167, 168, 189 | オシラマチ(オシラ日待) | 60, 202 | |
| 萩野式遊狂法 | 169 | お産姿さん | のぐくろう | 208 | | |
| オギノデー(オキ) | 36, 38, 39 | ぶるまい | 171 | おしる | 28 | |
| ノディ、オキノダ | 166, 179, 180 | お産部屋 | 167 | おしるこ | 192, 203 | |
| イ、おきのいで) | 216, 243, 244 | お産見舞 | 170, 171 | お神明様 | 148 | |
| オキの間 | 57 | お三夜様 | 234 | オス(おとし) | 62, 63 | |
| おきばり | 64 | お三夜様の晩 | 234 | オスマシ | 23 | |
| お客様 | 40, 124, 125, 179, 181, 210 | オジ | 243 | オスワサマ(オスワ様、 | 60, 130 | |
| オキャクッコービック | 221 | 伯父 | 179 | お諏訪様) | 133, 215 | |
| オキュウ | 83 | オジイ | 123, 246 | お諏訪様のお使い | 93 | |
| お給仕 | 90, 183 | オジオバ(叔父母) | 122, 123 | オスワ様の祭り(お | | |
| お経 | 219 | オジコ | 246 | 諏訪さまのおまつり) | 27, 94, 219 | |
| オクサン | 123 | オジゴ | 122 | オスワリ | 243 | |
| | | | | 尾頭 | 127, 178, 232 | |
| | | | | おせい | 29 | |

| | | | | | | | |
|------------|---|-----------|-----------------|------------|--|--|--|
| うるち | 20 | えびすこうあれ | 88 | 大穴 | 3, 74, 98, 114, 234 | | |
| ウルチ米 | 27, 28, 208 | エビス様(えびす) | 117, 206, 223 | 大穴せかせか | 242 | | |
| ウルチ米のダンゴ | 198 | 様、恵比須様 | 227, 243, 265 | 大穴といふ地名の由来 | 241 | | |
| ウルチのもち | 86 | えびす大黒様 | 199 | 大穴の小字 | 241 | | |
| ウロコ | 93 | エプロン | 11 | 大穴のスキー場 | 89 | | |
| 上着 | 11 | エベ | 172 | 大雨 | 88 | | |
| ウワザ | 40, 125 | エベスゼン | 224 | 大洗磯前神社 | 131 | | |
| うわさ話 | 28 | エベスづら | 243 | 大風 | 165 | | |
| 運送車 | 75 | 恵比寿(の)舞 | 267, 268 | 大鐘 | 50, 216 | | |
| 運動会 | 174 | エベス講 | 224 | 狼 | 241 | | |
| 運搬 | 119 | エベル | 172 | オオカ:除け | 38 | | |
| 運搬具 | 76 | エブ | 20 | 大祓(おおかつ) | 252 | | |
| エ | | | | | | | |
| 衛生係 | 102 | エブリ | 54 | 大きなヘビ | 237 | | |
| 營林局 | 98 | 恵方(吉方) | 195, 229 | 大吉利 | 259 | | |
| 營林組合 | 113 | 駄馬 | 145 | オオヅツ(大ヅツ) | 9, 14, 90 | | |
| 營林署 | 49, 66, 74, 98 | えり | 19 | 大久保様 | 128 | | |
| エエ | 30, 50, 54, 119, 120 | 宴 | 180 | オオクラゼン | 235 | | |
| エエカンペー | 243 | エンガ | 71 | 大藏山 | 88 | | |
| エー仕事 | 52 | 縁側 | 169 | 大しかばし | 76 | | |
| エエッコ | 54 | 縁起 | 86, 117, 124 | 大正月 | 202 | | |
| エガキ | 166, 185, 186, 187 | 縁切り金 | 182 | 大タイコ(太鼓) | 268, 285 | | |
| エサ場 | 63 | 縁組み | 178 | オオダチノ餅 | 182 | | |
| エジ | 243 | 縁故引廻し | 111 | 太田の呑龍様 | 166, 174 | | |
| エズ | 237 | 縁先 | 243 | 大坪氏 | 7, 221 | | |
| 枝豆 | 219 | 縁談 | 178 | 大天狗 | 234 | | |
| 越後 | 11, 26, 46, 54, 78, 95, 111 116, 120, 121, 178, 208, 276 | えんの下(縁の下) | 168, 170 | 大戸 | 37 | | |
| エチゴ笠(越後笠) | 9, 11, 16 | エンバナ | 243 | オオドシ | 204 | | |
| 越後からの物資 | 79 | エンパマ | 166 | 大年神様 | 227 | | |
| 越後からの嫁 | 120 | エンシマサマのお堂 | 179 | 大年皇大神 | 229 | | |
| 越後との婚姻 | 120 | エンシマ大王 | 157, 158 | 大トビ | 278 | | |
| 越後仁右衛門 | 102 | 縁結び | 87 | 大躍 | 91 | | |
| 越後の狩人 | 85 | オ | | | | | |
| 越後の行商 | 9 | 追い子 | 62 | 大入道 | 236 | | |
| 越後の食いだおれ | 246 | お伊勢参り | 288 | オーネエミ | 56 | | |
| 越後の米 | 77 | 追いテコ | 282 | オオネニ | 85 | | |
| 越後の酒売り | 79 | お稻荷様 | 212 | オオマガトキ | 174, 246 | | |
| 越後の衆 | 46 | お大様 | 132 | オオマクライ | 154 | | |
| 越後の人 | 10, 61 | お位牌 | 216 | 大祭り | 130 | | |
| エチゴボーズ | 55 | オイベス講 | 198, 205, 243 | 大晦日 | 227, 228, 229 | | |
| 江戸接 | 179 | オイベスサマ | 205, 243 | 大みそかの晩 | 228 | | |
| エトのいい日 | 198 | (おいべす様) | 205, 243 | 大峯山 | 231 | | |
| エナ | 168 | おいべすぜん | 205 | 大峯神社 | 132, 133, 145, 193 207, 210, 240, 266 | | |
| エノキ様 | 157, 158 | お祝い | 170 | 大峯神社境内 | 268 | | |
| エビス(恵比須) | 206, 224 | 追分節 | 277 | 大峯の沼 | 93 | | |
| 夷 | 266 | 庵永寺 | 190, 220 | 大麦 | 25, 44 | | |
| エビス造り | 132 | オエビス講 | 223 | オウメ | 18, 19 | | |
| エビス講(えびす講) | 88, 154, 206 | オエビス様 | 87, 223 | オオヤ | 116 | | |
| | | (おえびすさま) | | 大山祇神 | 208 | | |
| | | オオアシ(大芦) | 6, 13, 249, 250 | 大山祇の舞 | 264 | | |
| | | | | 大山祇の命 | 60, 223 | | |

| | | | | | |
|---|----------------------------|-------------------------|-------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| イルイ(イロリ)..... | 27 | 氏子縦代 | 116, 135, 216 | 産湯 | 168, 169, 170 |
| 衣類..... | 82 | 牛小屋 | 245 | 生立見舞 | 106 |
| イルトコヘコム | 44, 62 | 氏神明 | 193, 227 | 28, 33, 37, 45, 46, 49, 54, 61 | 65, 66, 68, 74, 75, 78, 80, 86 |
| イルリ | 40, 243 | ウシトラ | 31 | 馬 | 87, 89, 93, 94, 117, 119, 145 |
| 入れ木 | 282 | ウシネンボー | 243 | 204, 219, 226, 229, 231, 234 | 236, 237, 241, 242 |
| 入れ歎 | 17 | ウシノオッカベ | 243 | 馬洗い灘 | 237 |
| 入れ物返し | 118 | ウジヤ | 93 | 馬入れ | 74 |
| 6, 9, 10, 24, 27, 29, 38 (いろり) | 40, 42, 59, 62, 64, 68 | 後吉利 | 258, 259 | ウマカクレ杉 | 231 |
| 囲炉裏 | 82, 85, 86, 88, 173, 174 | 後獅子 | 250, 256, 262, 268 | 馬方 | 74, 75 |
| 227, 229, 243, 279 | 181, 192, 206, 207, 208 | ウス(うす) | 6, 13, 23, 25, 28, 65 | 馬方組合 | 75 |
| イロリの座席 | 124 | 白(ひ) | 68, 69, 86, 87, 117 | 馬方宿 | 78 |
| イロリの灰 | 222 | 167, 271, 284 | ウグツ | 90 | |
| いろり端 | 169 | 曰ひ眼 | 248 | 馬小屋 | 87, 245 |
| イワシ(いわし) | 26, 228, 229 | 曰影り | 44 | 馬つなぎ石 | 231 |
| イワシの頭(いわしの頭) | 84, 206, 207 | 細女舞 | 268 | 馬の脂 | 82 |
| 岩田蒂 | 166 | うすやき | 25 | 馬のえさ | 61 |
| イワナ | 9, 20, 23, 26, 64 | うそ | 242 | 馬のお祝い | 204 |
| イワナヅケ | 26 | 謡(い) | 143, 208 | 馬の神さま | 145 |
| イワナ釣り | 225 | 謡(い)方 | 180 | 馬の杏 | 75 |
| いわなとり | 64 | 謡(い)初め | 195 | 馬の死体 | 241 |
| イワヒビ | 93 | 歌吉利 | 258, 259, 264 | 馬の尻尾 | 80 |
| インキ(隠居) | 100, 123, 124 | ウチグリミ | 244 | 馬の使用 | 61 |
| インキヨメ(隠居免) | 123, 125 | うちみ(打身) | 81, 84, 93 | 馬の飼料 | 112 |
| 隠居家 | 123 | 内山組 | 96 | 馬のせんひきげえ | 204 |
| インゲン | 86 | 内山家 | 5, 126 | 馬の手綱 | 85 |
| インゲン豆 | 220 | 内山という苗字 | 232 | 馬の年取り | 226 |
| インドウバ | 217 | 内山の十二様 | 97 | ウマの日 | 22 |
| 隠連百姓村 | 8 | ウチワ | 173 | 馬の病気 | 94 |
| インネ | 243 | 卯月八日 | 38, 191, 211 | 馬の舟 | 237 |
| ウ | | 腕ダミ | 62 | 馬の骨 | 151 |
| ウエキリ | 213 | ウデスキ | 11 | 馬のわらじ | 91 |
| 植エキリ祝イ | 213 | うど | 20, 21 | うまぶち | 241 |
| 上杉憲政 | 126, 231, 232 | 24, 27, 29, 34, 77, 117 | 馬道 | 74 | |
| 上ノ原 | 3 | 155, 156, 178, 179, 182 | 馬屋 | 38, 66, 80 | |
| 魚つり | 235 | ウドン | 188, 192, 193, 206, 207 | ウマヤ肥イ(馬肥) | 37, 206 |
| 浮機 | 265, 266 | (うどん) | 209, 210, 212, 213, 214 | 生まれかわり | 189 |
| 鶯の吉利 | 259, 260 | 217, 218, 219, 220, 222 | 生まれっ子 | 19 | |
| うこぎ | 20 | 224, 245 | うめ(梅) | 77, 172 | |
| うこん染め | 18 | うどんの汁 | 23 | ウメボシ(うめぼし) | 83, 171, 172 |
| ウサギ(うさぎ、兎) | 26, 44 | うどんぶち | 66 | 梅干し | 83, 171, 172 |
| ウサギジャボ | 56 | うなぎ | 20, 64 | 産みはらみ | 124 |
| ウシ(牛) | 22, 37, 68, 76, 82, 86, 93 | 卯の刻 | 196 | 裏付のタミ | 38 |
| 117, 219, 220, 226, 243 | 127, 202, 221 | 卯の日 | 192, 196 | 裏見(うらみ)の滝 | 135, 136 |
| 氏神 | 126, 227 | ウブアケ(産明け) | 168, 171 | ウリッパ(うりっぽ、うりつ葉) | 20 |
| 氏神様 | 135 | うぶぎ(うぶ着、産着) | 19, 169 | うるう年 | 86 |
| | | 170 | ウル米 | 145 | |
| | | | ウルシ | 83, 130 | |
| | | | ウルシカキ | 78 | |
| | | | うるしかぶれ | 83 | |

| | | | | | | |
|--------------------|---|---|---|--------------------|--------------------------------------|--------------------|
| いしがま(石ガマ、石が)..... | 44, 48 49 | 一人前..... | 49, 52, 66, 80, 89 90, 119, 126, 226 | 種葉佐渡守 | 231 | |
| 石突き..... | 31 | 一人前扱い..... | 90 | 種荷 | 127, 171 | |
| 石堂丸..... | 78 | 一人前の仕事..... | 91 | いなりさま | 31, 92, 141, 142, 171 (種荷様) | 199, 208, 222, 227 |
| 石の鳥居..... | 141 | 一人前の膳 | 156 | いなりさんの石 | 141 | |
| 石橋 | 170 | 一番草 | 54 | 種荷社 | 129 | |
| 石宮..... | 135, 143, 148, 158, 160 209, 211, 221, 227 | 一番荷き | 52 | 種荷神社 | 142 | |
| イジメ | 172, 173 | イチマキ | 127, 128, 220, 221 | 種荷大明神 | 141 | |
| 医者 | 183 | 一毛作 | 85 | 種荷祭(り) | 219, 229 | |
| 医者ごろし | 29 | いちょう | 82 | 犬 | 61, 63, 235, 243 | |
| イジヤリ機 | 91 | イチヨウガエン | 17 | 乾藏 | 20 | |
| 衣裳 | 252 | 胃腸のくすり | 81 | 亥亥八幡 | 134 | |
| 衣裳と服装 | 261 | イッヂガサケカッタトサ | 232 | 犬の胆 | 84 | |
| 出雲 | 223, 225 | イツクシマ様 | 133 | 犬の字 | 170 | |
| 伊勢音頭 | 277, 288 | イッケ | 220 | イスの日(戌の日・いぬ) | 85, 86 の日) | 166 |
| 伊勢吉利 | 259, 260 | イッサン | 243 | イネ(稻) | 42, 68, 284 | |
| 伊勢謹 | 157 | 一周忌 | 188 | イネカケ(稻かけ) | 42, 55 | |
| 伊勢神宮の礼 | 229 | 一升うどん | 156 | 稻刈り | 33, 91, 222 | |
| 伊勢まいり(伊勢参り) | 30, 34, 86 り) | 一升ぶち | 29, 156 | 稻の脱こく | 169 | |
| 伊勢参り唄 | 288 | 一升ます(一升.. 60, 177, 206, 207 折) | 208, 224, 227 | 稻の總 | 203, 225 | |
| イソーロー | 123 | 一升めし | 29, 117 | イノ | 243 | |
| いそざき神社 | 131 | 一升餅 | 34, 172 | イノシシ | 44, 63 | |
| イタチにばかされた話 | 236 | イッスキ | 188 | 猪とり | 233 | |
| 板碑 | 231 | 一束 | 119 | 命つなぎ | 69 | |
| 一月元日 | 193 | 一丁前 | 49 | 命の綱 | 168 | |
| 一月十五日 | 203 | イッパイ | 5 | 生命びろい | 168 | |
| イチゲン | 179, 180, 181 | 一匹馬の夢 | 87 | イノリギ | 82 | |
| イチゲンの客 | 179 | 一本シメジ | 20 | イノリクギ | 149 | |
| 一見の客 | 118, 119 | 一本だち | 64 | イブセー | 243 | |
| イチゲン座敷 | 180 | 一本流し | 279 | イブリ | 48, 54 | |
| (イチゲンの座敷) | | イド(いど) | 10, 30, 82, 172, 193 井戸) | 199, 226, 227 | イボ | 83 |
| イチゲンの荷 | 179 | 井戸替 | 155 | イボとり薬師 | 83 | |
| 一合ぞうすい | 29 | イド神様 | 193, 227 | イボ結び | 13 | |
| いちご | 243 | イド小屋 | 193 | イハイ(位牌) | 151, 184, 185 186, 187, 188, 220 | |
| 一年忌 | 210 | 井戸小屋 | 69 | イハイ堂(位牌堂) | 188, 217 | |
| 一富士 | 196 | 井戸端 | 172 | 位牌披露 | 188 | |
| イチボウ(一房、一ボウ) | 68, 89 119 | イトコまで | 181 | 位牌分け | 187 | |
| 一夜飾 | 228 | 糸小屋 | 99 | いも | 20 | |
| 一夜ジメ | 227, 228 | 糸とり | 91 | 芋がら | 172 | |
| 一夜ショーブ | 227 | 糸ひき | 91 | イヤンバイデス | 242, 243 | |
| 一夜ゼリ | 197 | 糸まり | 278 | イリ | 96, 119 | |
| 一族 | 128, 192, 221, 227 | 糸より唄 | 278 | 入会地 | 95 | |
| イチダン(一駄) | 65, 68 89, 90, 195 | いどみ | 254 | 入会山 | 111 | |
| 一駄草 | 29 | 挑み | 252, 258 | 入羽 | 258 | |
| 一日の仕事 | 90 | イナゴ | 243 | 入羽の座 | 259 | |
| | | 種妻 | 88 | 入四ヶ組獅子 | 256 | |
| | | 種田姫 | 265 | 入山祝い | 30 | |

| | | | | | |
|-------------|---|-------------|---|------------------|----------------------------|
| 吾妻邪山信仰 | 145 | 甘酒まつり(甘酒祭り) | 126, 131 205, 222 | アワメシ(アワめし) | 24, 54 |
| アゼ | 53 | 甘茶 | 38, 210, 211 | アワ版(粟版) | 26, 34, 228 |
| 遊び終い | 218 | 天照大神 | 265, 266 | あんこ | 207 |
| 愛宕様 | 129, 221 | 天の浮橋 | 266 | 安産 | 7, 84, 168, 170 |
| 愛宕神社 | 131, 206 | 雨よひ | 89 | 安産祈願 | 167 |
| 安達氏 | 221 | 雨よび山 | 88 | 安産信仰 | 7 |
| アタマフリ | 102 | 鮎売り | 288 | アンタ | 12 |
| アテ | 50 | あめ売り唄(鮎売り唄) | 277, 288 | アンネニ | 123 |
| アテコトモネ | 243 | 鮎屋 | 78 | 行灯 | 186 |
| アテシコ | 148 | アヤ | 243 | アンビン | 27 |
| 後勘定 | 117 | 綾織りの吉利 | 259, 220 | アンペラ笠 | 16 |
| 後吉利 | 258, 259 | アヤナゴ | 243 | イ | |
| アトザシキ(あと座敷) | 180 | アヤンゴ | 243 | イイアンペデガス | 243 |
| 跡取り | 171 | 荒木家 | 228 | イイッペ | 243 |
| あとばら | 24 | 荒木組 | 99, 139, 158 | 家の稻荷様 | 171 |
| 穴あき鉢 | 122, 174 | アラクレ | 54, 120 | 家の格式 | 178 |
| アナギメ | 62 | 嵐 | 87 | 家の新柔 | 95 |
| アナグマ | 61 | 嵐除けの札 | 88 | 家の中の神 | 39 |
| 穴掘り | 184 | 荒闇 | 84 | 家の向き | 29 |
| アニイ | 116, 123, 246 | アラヒガン | 210 | 家の屋根 | 203 |
| 阿能川の地名 | 239 | アラボン(新盆) | 118, 210, 217 218, 219, 220 | 家の様子 | 179 |
| 阿能川の十二様 | 144 | あら盆様 | 217 | 家のよび名 | 122 |
| アバ | 44 | アラ盆見舞 | 220 | イオウ | 23 |
| あぼた | 244 | 荒巻絆 | 118 | いか | 229 |
| アブ | 242 | 蝶 | 88, 243 | イガキ | 166 |
| あぶら | 83 | アリクイ | 50 | 井垣 | 187 |
| 油売り | 78 | アリゴ | 88, 173, 243 | いかだ | 44, 46, 77, 280 |
| アブラゲ(油揚) | 92, 188 | アリゴの親音めえり | 243 | いかだ師 | 46 |
| アブラゼミ | 243 | ありじごく(蠍地獄) | 244 | いかだ流し | 165 |
| 油物 | 171, 172 | アルガシニ | 243 | いかだば | 46 |
| アブリ柿 | 52 | あれ日(荒れ日) | 88 | いきかえた話 | 189 |
| 阿部イッケ | 126 | アワ | 9, 21, 24, 44, 50, 51 52, 55, 59, 117, 124 | イキヌキの穴 | 62 |
| 阿部氏 | 5, 7, 8, 151, 221, 222 | (あわ、粟) | 182, 185, 186, 191 204, 227 | イクサ | 83 |
| 阿部氏の先祖(様) | 150, 151 | 栗沢 | 2, 98, 210 | 育児用具 | 172 |
| 阿部組 | 96, 99, 127 | 栗沢会館 | 117 | 胥けいれん | 93 |
| 阿部タンチ | 221 | 栗沢猫に米の飯 | 101 | 居小屋 | 48 |
| 阿部家 | 79 | 栗沢の神楽 | 264 | イザナギ | 180, 221 |
| 阿部家の系図 | 80 | 栗沢の村落構成図 | 97 | いざなぎいざなみの舞 | 267 |
| 阿部家の墓 | 151 | 栗の年取り | 221 | イザナミ | 180, 221 |
| 阿部三太郎(高貞) | 8, 126 | 栗沢部落 | 3 | いざり | 18 |
| 阿部神明 | 97, 222 | 栗沢理屈 | 101, 242 | イザリバタ | 18 |
| 阿部姓 | 228 | 淡島様 | 247 | 石井組 | 96 |
| 阿部の本家 | 134 | あわせ | 90 | 石井氏の先祖祭 | 126 |
| 阿部彦太郎 | 231 | アワセ | 209 | 石臼 | 68, 81, 184, 218, 277, 278 |
| 阿部係八郎貞次 | 80 | アワセ(粟ぬか) | 57 | 石臼引き唄(石臼び き唄) | 277, 278 |
| 阿部薬師 | 150, 151 | アワ花 | 217 | 石うらたが | 278 |
| アマガエル | 88 | アワボ | 199, 200 | いしがえし | 84 |
| 雨乞い | 89, 136, 164, 256 | | | | |
| 甘酒 | 117, 131, 132, 149, 164 173, 207, 210, 222 | | | | |

索

引

| | |
|----------------|-------------------------|
| ア | |
| アーポ | 204 |
| アーポヒーポ | 200, 204 |
| 合着 | 179 |
| あいさつ | 91 |
| 挨拶の詞 | 242 |
| 青アザ | 167 |
| 青いもの(青い物) | 171, 172 |
| 青木舞 | 266, 268 |
| アオゴメ | 69 |
| あおしたの木 | 70 |
| | 60, 87 |
| アオダイショウ(青大将) | 93, 133 |
| | 215 |
| 青大将除け | 60 |
| 赤アザ | 167 |
| 赤いアザ | 85 |
| アカイキ | 198 |
| 赤い着物 | 177 |
| 赤いしめ | 160 |
| 赤い頭巾 | 173, 177 |
| 赤いチャンチャンコ | 177 |
| 赤い幣束 | 161 |
| 赤城 | 246 |
| 赤城様のお使い | 130 |
| 赤城神社 | 129, 218, 221, 231, 256 |
| 赤城神社の杉 | 130 |
| 赤城神社の祭り | 130 |
| 赤けっとう | 281 |
| 赤子 | 167, 170 |
| アカザ | 20 |
| アカズキンカブリ | 245 |
| アガタ | 276 |
| アガタ巫女 | 276 |
| アカトンボ | 243 |
| 赤の御飯 | 83 |
| 赤ノッポウ | 241 |
| アカボヤ | 199 |
| 赤マムシ | 92, 93 |
| 赤餅 | 211 |
| 赤谷の十二様 | 167 |
| 明りとり(明かり取り) | 37, 38 |
| 上りまち | 243 |
| アカンボウ(あかんぼう) | 20, 66 |
| う、赤んぼう、赤ん坊、 | 168, 170 |
| 赤んぼ、赤坊) | 171, 173 |
| あかんぼうの着物 | 236, 278 |
| | 170 |
| 秋蓋 | 219 |
| 秋田 | 85 |
| 秋ソバ | 52, 89 |
| アキナイヤ | 78 |
| 秋のオクンチ | 222 |
| 秋の土用 | 45 |
| 秋のとり入れ | 179 |
| 秋の彼岸 | 18, 33, 113 |
| アキの方向 | 195 |
| 秋葉宮 | 97 |
| 秋葉講 | 157, 205 |
| 秋葉さま(様) | 116, 130, 205 |
| | 209, 221 |
| 秋葉山 | 130 |
| 秋葉神社 | 130, 209 |
| 秋葉火待 | 157 |
| 秋普請 | 33 |
| あき盆 | 218 |
| 秋祭り | 195, 222, 223 |
| アキヤ様 | 221 |
| アキンド | 78 |
| アク(あく) | 166, 167 |
| あく水 | 19 |
| 悪病除 | 206 |
| 悪魔い | 201 |
| 悪魔除 | 212 |
| アゲイワイ | 57 |
| 明川 | 4, 249 |
| あげそめ(蓋の) | 204 |
| アケビ | 20 |
| あけびのつる | 17, 25 |
| アケビ(あけび)の芽 | 20 |
| アゲユワイ | 59 |
| 麻 | 44 |
| 麻がら | 84 |
| 朝客 | 179 |
| 朝草刈り | 45, 90 |
| 浅草の観音様 | 134 |
| 朝じも | 87 |
| アサゲ(餉ヶ) | 194, 243 |
| 朝ごはん | 24 |
| 朝ご飯のはつもの | 124 |
| アサジ | 171 |
| 朝ヅクリ(朝づくり) | 28, 215 |
| アサッパラ | 243 |
| 麻布 | 52 |
| 朝のタモ | 87 |
| 麻の葉の着物 | 170 |
| 麻機 | 52 |
| アサハシ(あさはん、朝はん) | 28 |
| | 90 |
| 朝日神社 | 80, 130, 131 |
| 朝風呂 | 194 |
| 朝まいり(朝参り) | 193, 221 |
| アサメシ(朝めし) | 24, 28, 54, 279 |
| 朝焼け | 88 |
| 朝湯 | 194 |
| 足利 | 69 |
| アシダ | 122 |
| アシナカ(足半) | 9, 13, 14, 201 |
| | 206, 231 |
| アシナカジョーリ | 82 |
| アシナカゾウリ(足半) | 68, 94 |
| 足なか草履 | 231 |
| あしなかむすび | 94 |
| 足場 | 33 |
| 足場こわし | 35 |
| アシロ | 33 |
| アシロ木 | 33, 34 |
| | 25, 29, 56, 60, 83 |
| アズキ(小豆) | 126, 127, 145, 155 |
| | 170, 203, 207, 208 |
| アズキアライ(アズキ洗い) | 174 |
| | 237 |
| アズキあん | 26 |
| アズキゲー(小豆ゲー) | 52, 201 |
| 小豆げえ | 203 |
| アズキガユ(あ | 26, 27, 34, 35 |
| さきがゆ、小豆 | 154, 155, 156 |
| がゆ、小豆粥) | 157, 197, 199 |
| | 203, 204, 225 |
| あずき汁 | 24 |
| 小豆粒 | 60 |
| 小豆の火 | 246 |
| アズキのめし | 191 |
| アズキボウト | 24 |
| アズキめし(アズ | 27, 154, 155 |
| キ飯、あずきめし) | 171, 191 |
| 小豆めし、小豆飯) | 225, 226 |
| 小豆めしをつくる日 | 26 |
| 小豆餅 | 209 |
| あすなろ | 50 |
| アズマヤカンダチ | 88 |
| アズマヤ様(あずまや様) | 144 |
| | 228 |

群馬県民俗調査報告書第十三集

水上町の民俗

昭和四十六年三月二十八日印刷

昭和四十六年三月三十日発行
（非売品）

編集兼発行者 群馬県教育委員会

前橋市大手町一丁目一ノ一

発行所 群馬県教育委員会事務局

前橋市元総社町六七

印刷所 朝日印刷工業株式会社

電話 064 4367